

# 参 考 资 料



## 大学改革支援・学位授与機構が実施した国立大学法人等の 第2期中期目標期間における教育研究の状況の評価の実施について（概要）

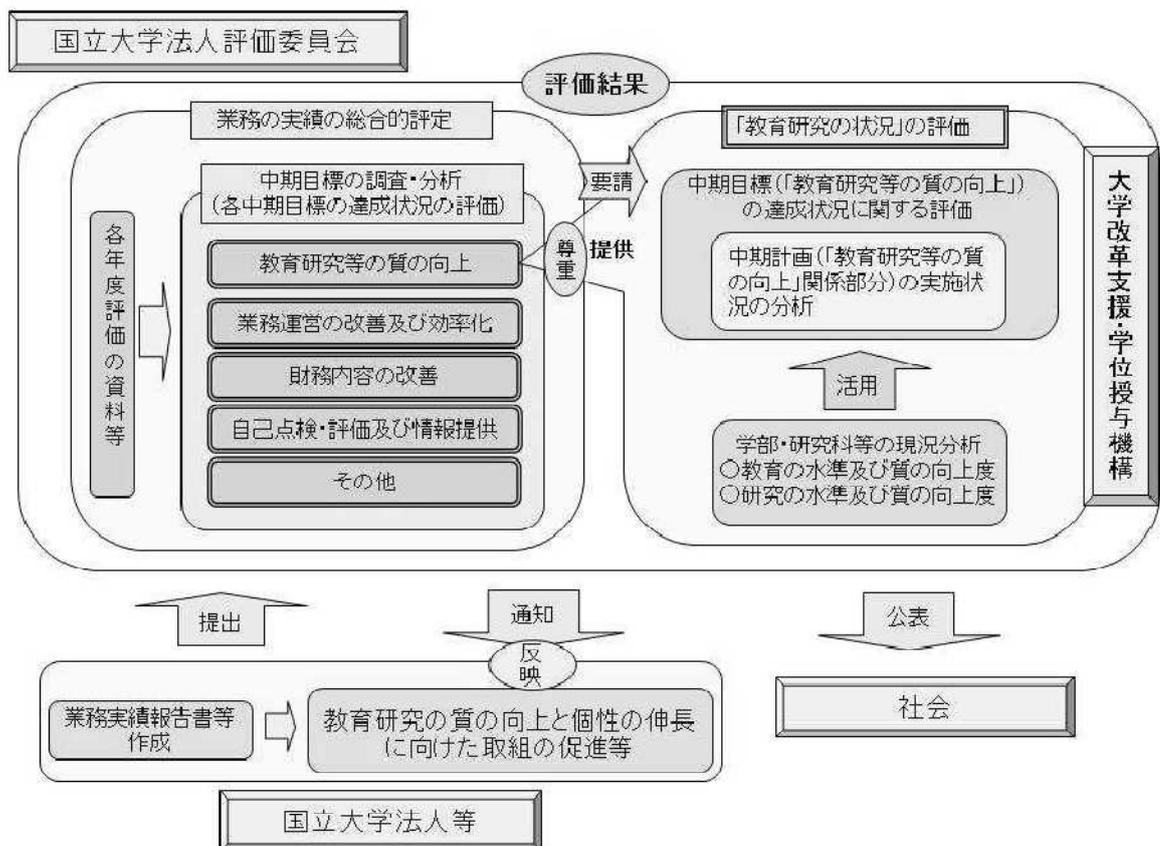
独立行政法人大学改革支援・学位授与機構

### 1 評価の目的

国立大学法人及び大学共同利用機関法人（以下「国立大学法人等」という。）は、国立大学法人法第31条の2第1項に基づき、中期目標期間の業務の実績について、文部科学省の国立大学法人評価委員会（以下「法人評価委員会」という。）の評価を受けることとなっています。

大学改革支援・学位授与機構（以下「機構」という。）は、国立大学法人法第31条の3第1項に基づき、文部科学省の国立大学法人評価委員会から要請を受けて、国立大学法人等の第2期中期目標期間（平成22年度～平成27年度）の業務実績評価のうち、教育研究の状況について評価を実施しました。

### 第2期中期目標期間評価の全体像



## 2 評価方法

各国立大学法人等の自己点検・評価に基づき、当該国立大学法人等の教育研究の特性に配慮しつつ、評価を行いました。

### (1) 国立大学法人等における自己点検・評価

国立大学法人等においては、実績報告書作成要領に従って、自己点検・評価を実施し、平成 22 年度から 27 年度までの期間の教育研究の状況に係る実績報告書（達成状況報告書・現況調査表）を作成しました。

### (2) 教育研究の状況の評価

教育研究の状況の評価として、「中期目標の達成状況評価」及び「学部・研究科等の現況分析（「研究業績水準判定」を含む）」を行いました。なお、評価に当たっては、データ分析集や認証評価の評価結果等を活用しました。

#### ① 中期目標の達成状況評価

達成状況の評価は、国立大学法人等ごとに当該国立大学法人等全体を対象とし、中期目標の記載事項のうち、「大学の教育研究等の質の向上に関する目標」、あるいは「研究機構の教育研究等の質の向上に関する目標」にそれぞれ掲げられている教育研究に関連する中期目標の項目及び中期計画の記載内容について、各国立大学法人等から提出された達成状況報告書等に基づき、書面調査及びヒアリングにより、評価を行いました。

判定については、中期計画を 4 段階で判定し、その判定結果を段階的に積み上げることにより、中期目標（小項目、中項目、大項目）を判定しました。

評価に当たっては、国立大学法人等が記載した個性の伸長に向けた主体的な取組の内容を踏まえるとともに、戦略性が高く意欲的な目標・計画については、中期計画が計画通り実施できていない場合でも、教育研究の質の向上や高い教育研究水準の実現が確認できる場合には、プロセスや内容等を考慮しました。また、中期目標期間中に教育研究の質は向上したかという点に配慮し、学部・研究科等の現況分析結果を活用しました。なお、達成状況の評価は、各国立大学法人等における目標・計画に即して評価を行うものであり、国立大学法人等を相対的に評価するものではありません。

中期目標（大項目）、（中項目）の判定は、以下の区分により示しています。

- 「中期目標の達成状況が非常に優れている」
- 「中期目標の達成状況が良好である」
- 「中期目標の達成状況がおおむね良好である」
- 「中期目標の達成状況が不十分である」
- 「中期目標の達成のためには重大な改善事項がある」

中期目標（小項目）の判定は、以下の区分により示しています。

- 「中期目標の達成状況が非常に優れている」
- 「中期目標の達成状況が良好である」
- 「中期目標の達成状況がおおむね良好である」
- 「中期目標の達成状況が不十分である」

中期計画の判定は、以下の区分により示しています。

- 「実施状況が非常に優れている」
- 「実施状況が良好である」
- 「実施状況がおおむね良好である」
- 「実施状況が不十分である」

## ② 学部・研究科等の現況分析

現況分析は、学部・研究科等を対象とし、「教育の水準」及び「質の向上度」、「研究の水準」及び「質の向上度」について、各国立大学法人等から提出された現況調査表等に基づき、書面調査により、評価を行いました。

### ア 教育の水準及び研究の水準

教育の水準及び研究の水準は、各分析項目（教育水準：「教育活動の状況」、「教育成果の状況」、研究水準：「研究活動の状況」、「研究成果の状況」）について、観点ごとの実施状況を調査・分析することにより、判定を行いました。

判定に当たっては、各学部・研究科等の目的に照らして、当該組織が想定する関係者の期待にどの程度応えているかという視点で判断しました。したがって、各学部・研究科等を相対的に評価するものではありません。

教育・研究の水準判定は、以下の区分により示しています。

- 「期待される水準を大きく上回る」
- 「期待される水準を上回る」
- 「期待される水準にある」
- 「期待される水準を下回る」

### イ 質の向上度

質の向上度は、第1期中期目標期間終了時点と評価時点を比較・分析して導かれるものであり、教育・研究活動や成果の状況の改善、向上の内容を分析し、学部・研究科等の教育あるいは研究目的に照らして、判定を行いました。

質の向上度の判定は、以下の区分により示しています。

- 「大きく改善、向上している 又は 高い質を維持している」
- 「改善、向上している」
- 「質を維持している」
- 「質を維持しているとはいえない」

## ③ 研究業績水準判定

研究業績水準判定は、学部・研究科等を対象とし、国立大学法人等が提出した研究業績説明書について、その記載内容（第三者による評価結果や客観的な指標等を用いた各研究業績の判断根拠等）を基に、以下の判断基準により、SS、S、S未満の区分で判定し、その結果を現況分析部会及び達成状況判定会議に提出しました。

### ○学術的意義の判断基準

- SS：「当該分野において、卓越した水準にある」
- S：「当該分野において、優秀な水準にある」

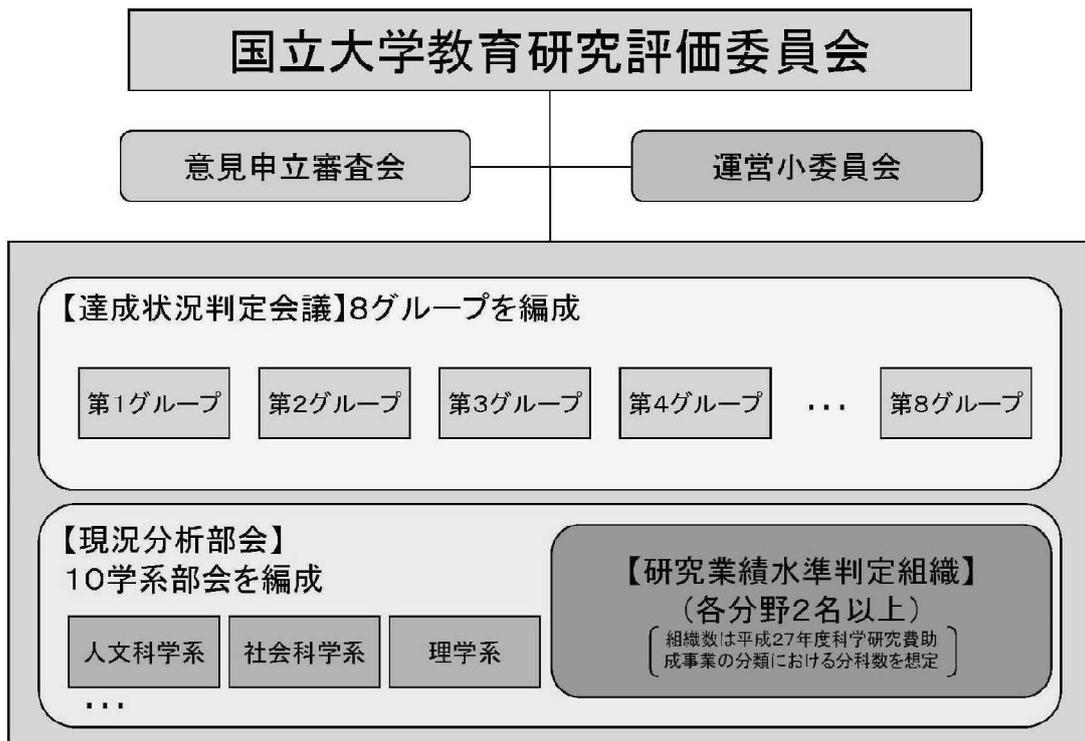
### ○社会、経済、文化的意義の判断基準

- SS：「社会、経済、文化への貢献が卓越している」
- S：「社会、経済、文化への貢献が優秀である」

### 3 評価体制

教育研究の状況の評価については、機構の国立大学教育研究評価委員会の下に具体的な評価を実施するために、達成状況判定会議、現況分析部会及び研究業績水準判定組織を編成し、評価を行いました。

達成状況判定会議は各法人の規模・構成に応じた8グループを編成しました。現況分析部会は、分野別の10の学系部会を設置し、研究業績水準判定組織は、科学研究費助成事業の分類を基とした研究分野ごとに専門部会を設置しました。



## 4 評価報告書について

「評価報告書」は、「中期目標の達成状況に関する評価結果」、「教育に関する現況分析結果」及び「研究に関する現況分析結果」から構成されています。

### ○ 中期目標の達成状況に関する評価結果

中期目標の達成状況に関する評価結果は、教育に関する目標と研究に関する目標等、それぞれの中期目標（大項目）ごとに段階式で評価結果を示すとともに、その結果を導いた理由を記述しました。

また、それぞれの中期目標（中項目）ごとの評価結果に加え、当該国立大学法人等の特性に配慮しつつ、特記すべき点（優れた点や特色ある点、改善を要する点）を取り上げました。

加えて、現況分析結果において、質の向上度のうち「注目すべき質の向上」として取り上げたものや、「水準を大きく上回る」と判定された分析項目のうち中期計画と関連付けられているものについても、関連する中期目標（中項目）の「優れた点」として取り上げています。

したがって、各国立大学法人等において中期目標（大項目）の判定が同じであっても、特記すべき点の件数は、国立大学法人等ごとに異なります。

### ○ 教育に関する現況分析結果及び研究に関する現況分析結果

教育に関する現況分析結果及び研究に関する現況分析結果は、教育水準、研究水準の各分析項目ごとの判定結果とその判定結果を導いた理由、及び質の向上度の判定結果とその判定結果を導いた理由を記述しました。なお、質の向上度については、「大きく改善、向上している」又は「高い質を維持している」と判定した場合などに、「注目すべき質の向上」として取り上げています。

## 5 審議経過

<平成 28 年>

- ・ 5 月末 各法人から研究業績説明書の提出
- ・ 6 月 研究業績水準判定の書面調査
- ・ 6 月末 各法人から実績報告書の提出
- ・ 7 月～10 月 達成状況判定（7 月～10 月）、現況分析（7 月、8 月）の書面調査
- ・ 9 月 1 日 現況分析部会（第 1 回）  
～9 月 8 日 評価結果（素案）の審議
- ・ 9 月 28 日 国立大学法人等に分析に当たっての確認事項及び資料提出の照会  
～10 月 12 日
- ・ 10 月 18 日 達成状況判定会議（第 1 回）  
～11 月 8 日 評価結果（素案）の審議
- ・ 11 月 25 日 国立大学法人等にヒアリングに向けての確認事項及び資料提出の照会  
～12 月 9 日
- ・ 11 月 16 日 現況分析部会（第 2 回）  
～11 月 25 日 評価結果（原案）の審議
- ・ 12 月 7 日 運営小委員会（現況分析）  
部会間の調整についての協議

<平成 29 年>

- ・ 1 月 17 日 国立大学法人等へのヒアリングの実施  
～1 月 25 日
- ・ 2 月 17 日 達成状況判定会議（第 2 回）  
～2 月 23 日 評価結果（原案）の審議
- ・ 2 月 27 日 運営小委員会（達成状況判定）  
グループ間の調整についての協議
- ・ 2 月 28 日 国立大学教育研究評価委員会  
評価報告書（原案）の審議（意見申立て期間：3 月 2 日～3 月 22 日）
- ・ 4 月 6 日 意見申立審査会  
意見申立ての対応の審議
- ・ 4 月 18 日 国立大学教育研究評価委員会  
評価報告書（案）の審議・決定  
文部科学省国立大学法人評価委員会へ教育研究の状況の評価結果を提供

## 6 評価委員構成

国立大学法人等の教育研究の状況を適切に評価するため、国立大学法人等の教員及び国立大学法人等の教育研究活動に関し、卓越した見識を有する者で構成する評価者（国立大学教育研究評価委員会委員及び専門委員）によるピアレビューを中心とした評価を行いました。

機構には、社会と国立大学法人等の双方に開かれた組織であるとともに、常により良い大学評価システムとなるよう、透明性・客観性を高めることが求められています。

そのため、評価者の選考に当たっては、高い学問的識見と教育学術行政に関する深い理解を持った者を確保することや、一方で偏りのない、外部に開かれた選考方法といった視点での公正さについても併せて確保することが重要でした。このことから、広く国・公・私立大学、学協会及び経済団体等の関係団体に評価者の推薦を依頼し、多数の推薦者を挙げいただきました。

専門委員の選考については、国立大学教育研究評価委員会の下に専門委員選考委員会を設置し、同委員会において、各評価組織（「達成状況判定会議」、「現況分析部会」、「研究業績水準判定組織」）の専門委員候補者を所属組織、専門分野、地域等を配慮して選考を行い、国立大学教育研究評価委員会において、専門委員候補者の決定を行いました。

また、評価者の氏名は、透明性の確保という観点から、ウェブサイト等で公表しています。以下では、各評価組織における専門委員の所属を国・公・私立大学、及び「その他」（大学関係者以外）に区分して割合を示します。なお、専門委員の所属は委嘱時点のものであり、委嘱時点で所属がない場合には、名誉教授となっている大学や前歴として所属していた大学や機関の区分に基づいています。

### ① 達成状況判定会議

達成状況判定会議については、専門委員178名のうち、国立大学46.1%、公立大学7.9%、私立大学24.7%、その他23.1%でした。また、男女比については、男性が89.3%、女性は10.7%でした。

これについては、国立大学法人等の教育研究活動全般について十分な理解を有する者という観点から選考したことから、この構成となりました。

### ② 現況分析部会

現況分析部会については、専門委員252名のうち、国立大学70.2%、公立大学3.6%、私立大学22.6%、その他3.6%でした。また、男女比については、男性が94.0%、女性は6.0%でした。

所属の内訳をみると、達成状況判定会議の委員の構成と比較して、大学関係者（国、公、私立）の割合が非常に高くなっています。これについては、評価対象が学部・研究科等で、

必要とされる研究領域の専門性を有する者という視点から選考したことから、このような構成となりました。

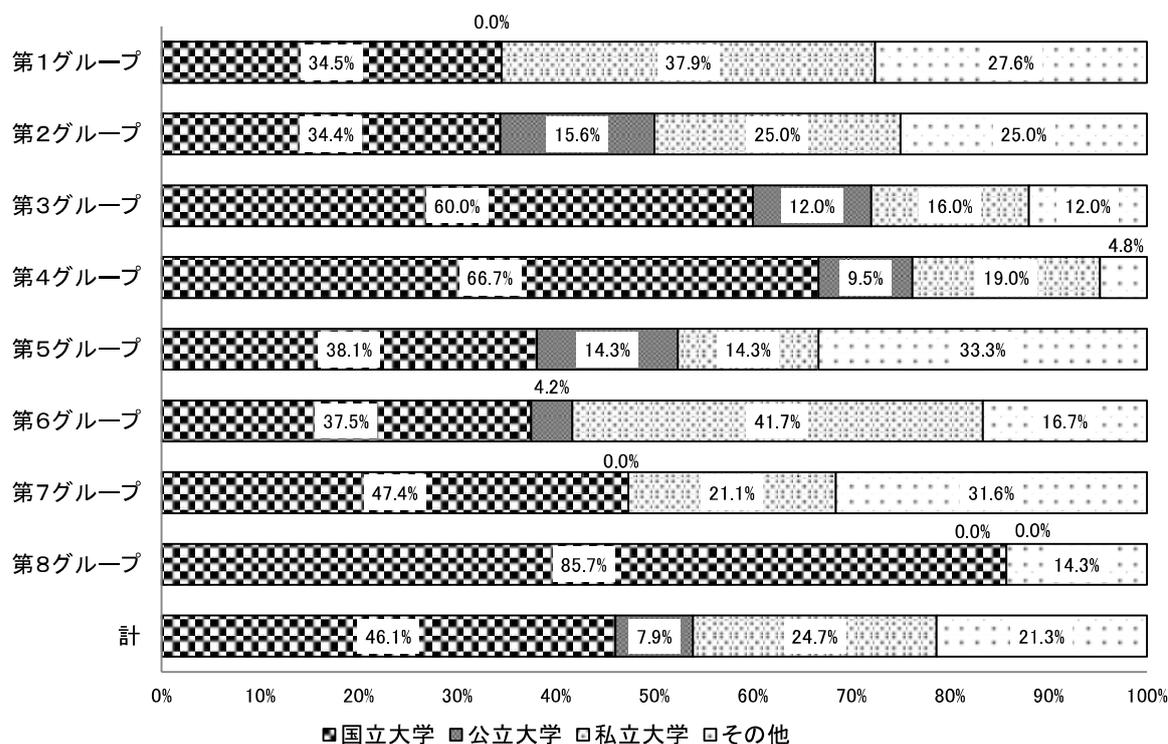
### ③ 研究業績水準判定組織

研究業績水準判定組織については、専門委員580名のうち、国立大学70.0%、公立大学5.0%、私立大学21.7%、その他3.3%でした。また、男女比については、男性が89.1%、女性は10.9%でした。

所属の内訳をみると、現況分析部会の委員の構成と同様に、大学関係者（国、公、私立）の割合が非常に高くなっています。これらについても、評価する対象が研究業績で、必要とされる研究領域の専門性を有する者という視点から選考したことから、このような構成となりました。

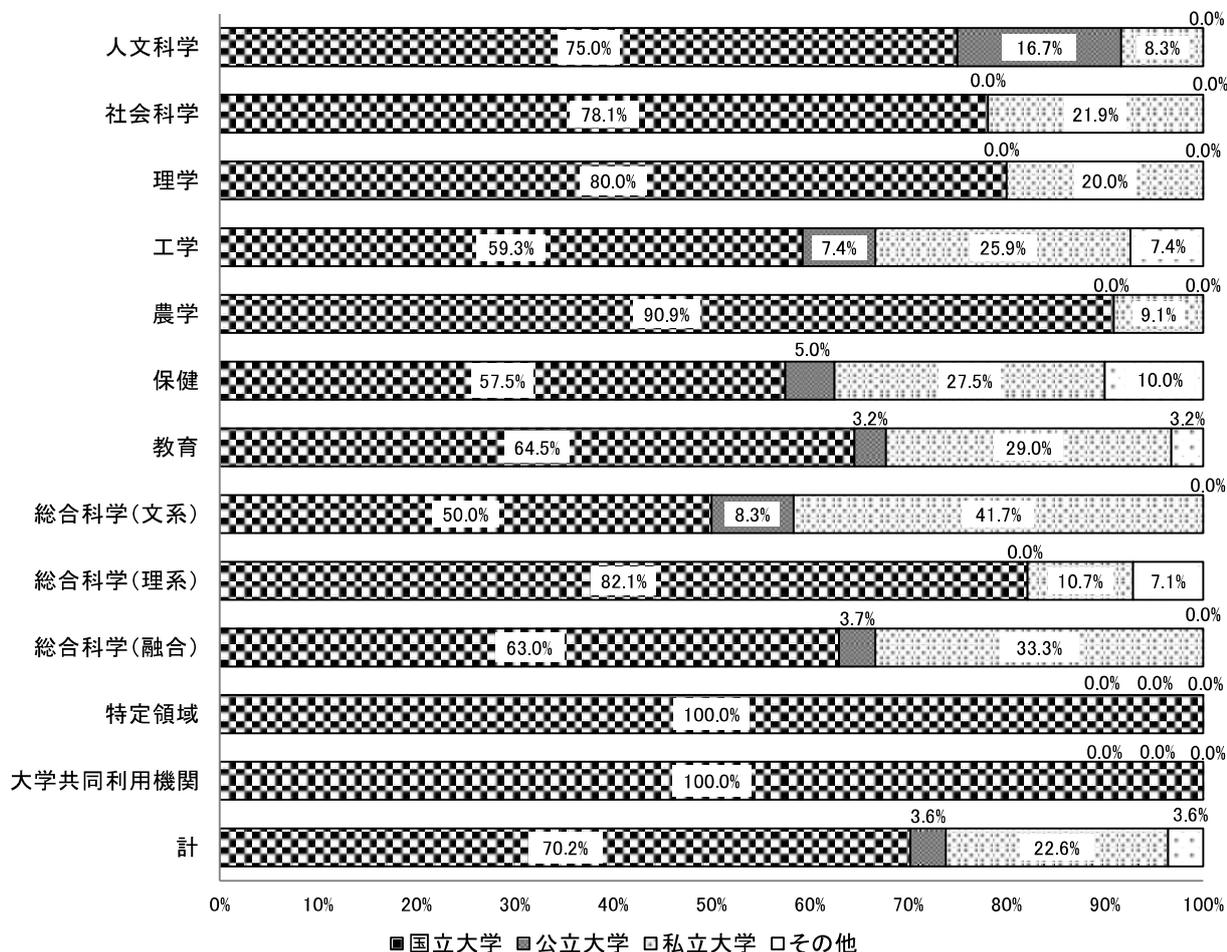
達成状況判定会議の構成

| グループ   | 性別     |       |     | 区分    |       |       |       |
|--------|--------|-------|-----|-------|-------|-------|-------|
|        | 男      | 女     | 計   | 国立大学  | 公立大学  | 私立大学  | その他   |
| 第1グループ | 25     | 4     | 29  | 10    | 0     | 11    | 8     |
|        | 86.2%  | 13.8% |     | 34.5% | 0.0%  | 37.9% | 27.6% |
| 第2グループ | 29     | 3     | 32  | 11    | 5     | 8     | 8     |
|        | 90.6%  | 9.4%  |     | 34.4% | 15.6% | 25.0% | 25.0% |
| 第3グループ | 21     | 4     | 25  | 15    | 3     | 4     | 3     |
|        | 84.0%  | 16.0% |     | 60.0% | 12.0% | 16.0% | 12.0% |
| 第4グループ | 18     | 3     | 21  | 14    | 2     | 4     | 1     |
|        | 85.7%  | 14.3% |     | 66.7% | 9.5%  | 19.0% | 4.8%  |
| 第5グループ | 19     | 2     | 21  | 8     | 3     | 3     | 7     |
|        | 90.5%  | 9.5%  |     | 38.1% | 14.3% | 14.3% | 33.3% |
| 第6グループ | 21     | 3     | 24  | 9     | 1     | 10    | 4     |
|        | 87.5%  | 12.5% |     | 37.5% | 4.2%  | 41.7% | 16.7% |
| 第7グループ | 19     | 0     | 19  | 9     | 0     | 4     | 6     |
|        | 100.0% | 0.0%  |     | 47.4% | 0.0%  | 21.1% | 31.6% |
| 第8グループ | 7      | 0     | 7   | 6     | 0     | 0     | 1     |
|        | 100.0% | 0.0%  |     | 85.7% | 0.0%  | 0.0%  | 14.3% |
| 計      | 159    | 19    | 178 | 82    | 14    | 44    | 38    |
|        | 89.3%  | 10.7% |     | 46.1% | 7.9%  | 24.7% | 21.3% |



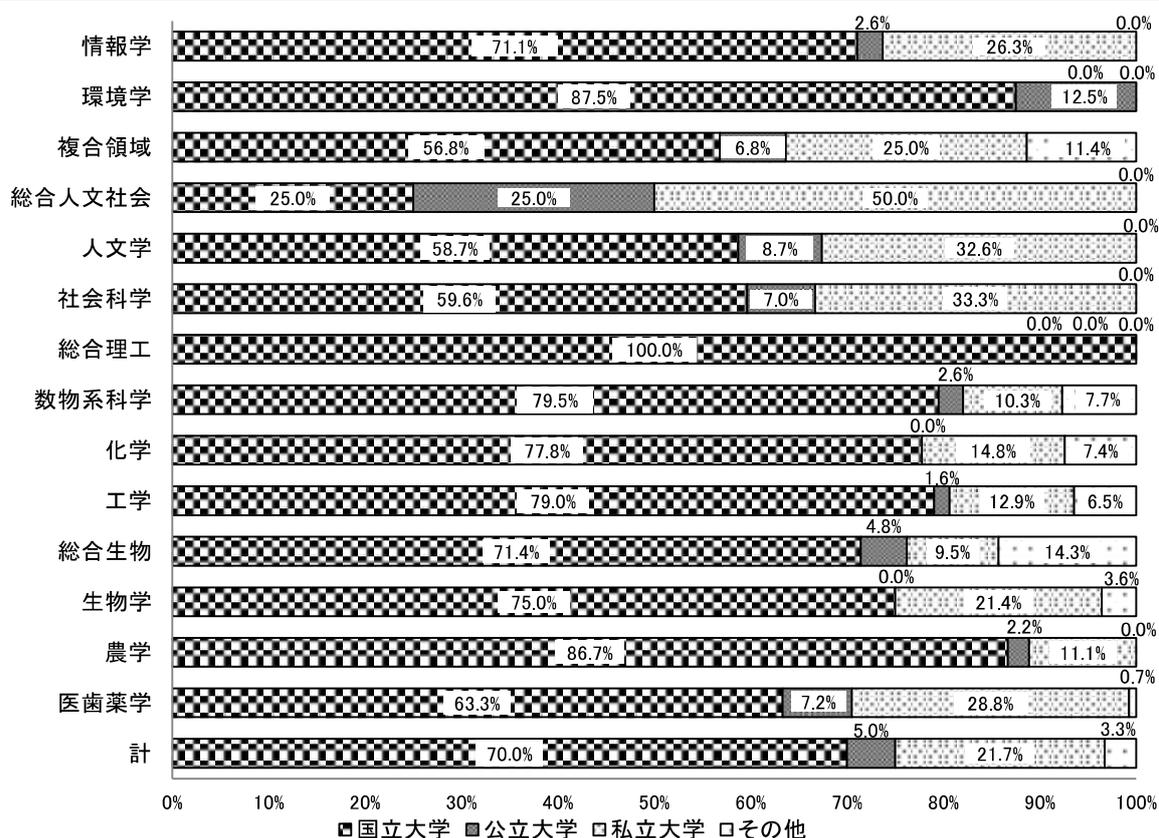
現況分析部会の構成

| 学系部会     | 性別           |            |     | 区分           |            |             |            |
|----------|--------------|------------|-----|--------------|------------|-------------|------------|
|          | 男            | 女          | 計   | 国立大学         | 公立大学       | 私立大学        | その他        |
| 人文科学     | 10<br>83.3%  | 2<br>16.7% | 12  | 9<br>75.0%   | 2<br>16.7% | 1<br>8.3%   | 0<br>0.0%  |
| 社会科学     | 31<br>96.9%  | 1<br>3.1%  | 32  | 25<br>78.1%  | 0<br>0.0%  | 7<br>21.9%  | 0<br>0.0%  |
| 理学       | 14<br>93.3%  | 1<br>6.7%  | 15  | 12<br>80.0%  | 0<br>0.0%  | 3<br>20.0%  | 0<br>0.0%  |
| 工学       | 27<br>100.0% | 0<br>0.0%  | 27  | 16<br>59.3%  | 2<br>7.4%  | 7<br>25.9%  | 2<br>7.4%  |
| 農学       | 22<br>100.0% | 0<br>0.0%  | 22  | 20<br>90.9%  | 0<br>0.0%  | 2<br>9.1%   | 0<br>0.0%  |
| 保健       | 36<br>90.0%  | 4<br>10.0% | 40  | 23<br>57.5%  | 2<br>5.0%  | 11<br>27.5% | 4<br>10.0% |
| 教育       | 29<br>93.5%  | 2<br>6.5%  | 31  | 20<br>64.5%  | 1<br>3.2%  | 9<br>29.0%  | 1<br>3.2%  |
| 総合科学(文系) | 8<br>66.7%   | 4<br>33.3% | 12  | 6<br>50.0%   | 1<br>8.3%  | 5<br>41.7%  | 0<br>0.0%  |
| 総合科学(理系) | 28<br>100.0% | 0<br>0.0%  | 28  | 23<br>82.1%  | 0<br>0.0%  | 3<br>10.7%  | 2<br>7.1%  |
| 総合科学(融合) | 26<br>96.3%  | 1<br>3.7%  | 27  | 17<br>63.0%  | 1<br>3.7%  | 9<br>33.3%  | 0<br>0.0%  |
| 特定領域     | 3<br>100.0%  | 0<br>0.0%  | 3   | 3<br>100.0%  | 0<br>0.0%  | 0<br>0.0%   | 0<br>0.0%  |
| 大学共同利用機関 | 3<br>100.0%  | 0<br>0.0%  | 3   | 3<br>100.0%  | 0<br>0.0%  | 0<br>0.0%   | 0<br>0.0%  |
| 計        | 237<br>94.0% | 15<br>6.0% | 252 | 177<br>70.2% | 9<br>3.6%  | 57<br>22.6% | 9<br>3.6%  |

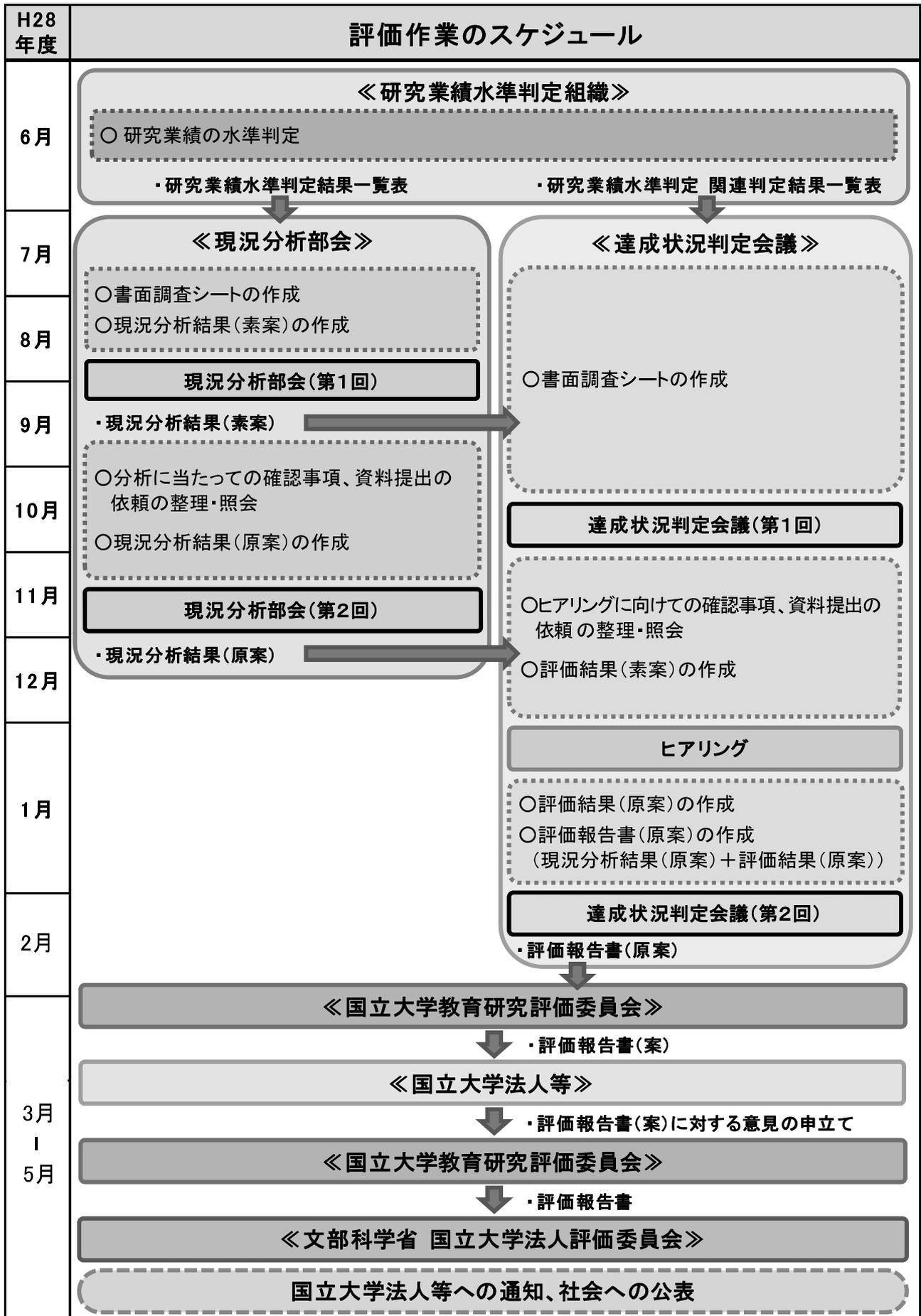


研究業績水準判定組織の構成

| 系     | 分野     | 性別     |       |     | 区分     |       |       |       |
|-------|--------|--------|-------|-----|--------|-------|-------|-------|
|       |        | 男      | 女     | 計   | 国立大学   | 公立大学  | 私立大学  | その他   |
| 総合系   | 情報学    | 34     | 4     | 38  | 27     | 1     | 10    | 0     |
|       |        | 89.5%  | 10.5% |     | 71.1%  | 2.6%  | 26.3% | 0.0%  |
|       | 環境学    | 14     | 2     | 16  | 14     | 2     | 0     | 0     |
|       |        | 87.5%  | 12.5% |     | 87.5%  | 12.5% | 0.0%  | 0.0%  |
|       | 複合領域   | 32     | 12    | 44  | 25     | 3     | 11    | 5     |
|       |        | 72.7%  | 27.3% |     | 56.8%  | 6.8%  | 25.0% | 11.4% |
| 人文社会系 | 総合人文社会 | 3      | 1     | 4   | 1      | 1     | 2     | 0     |
|       |        | 75.0%  | 25.0% |     | 25.0%  | 25.0% | 50.0% | 0.0%  |
|       | 人文学    | 37     | 9     | 46  | 27     | 4     | 15    | 0     |
|       |        | 80.4%  | 19.6% |     | 58.7%  | 8.7%  | 32.6% | 0.0%  |
|       | 社会科学   | 46     | 11    | 57  | 34     | 4     | 19    | 0     |
|       |        | 80.7%  | 19.3% |     | 59.6%  | 7.0%  | 33.3% | 0.0%  |
| 理工系   | 総合理工   | 14     | 0     | 14  | 14     | 0     | 0     | 0     |
|       |        | 100.0% | 0.0%  |     | 100.0% | 0.0%  | 0.0%  | 0.0%  |
|       | 数物系科学  | 38     | 1     | 39  | 31     | 1     | 4     | 3     |
|       |        | 97.4%  | 2.6%  |     | 79.5%  | 2.6%  | 10.3% | 7.7%  |
|       | 化学     | 26     | 1     | 27  | 21     | 0     | 4     | 2     |
|       |        | 96.3%  | 3.7%  |     | 77.8%  | 0.0%  | 14.8% | 7.4%  |
|       | 工学     | 61     | 1     | 62  | 49     | 1     | 8     | 4     |
|       |        | 98.4%  | 1.6%  |     | 79.0%  | 1.6%  | 12.9% | 6.5%  |
| 生物系   | 総合生物   | 18     | 3     | 21  | 15     | 1     | 2     | 3     |
|       |        | 85.7%  | 14.3% |     | 71.4%  | 4.8%  | 9.5%  | 14.3% |
|       | 生物学    | 24     | 4     | 28  | 21     | 0     | 6     | 1     |
|       |        | 85.7%  | 14.3% |     | 75.0%  | 0.0%  | 21.4% | 3.6%  |
|       | 農学     | 43     | 2     | 45  | 39     | 1     | 5     | 0     |
|       |        | 95.6%  | 4.4%  |     | 86.7%  | 2.2%  | 11.1% | 0.0%  |
|       | 医歯薬学   | 127    | 12    | 139 | 88     | 10    | 40    | 1     |
|       |        | 91.4%  | 8.6%  |     | 63.3%  | 7.2%  | 28.8% | 0.7%  |
| 計     |        | 517    | 63    | 580 | 406    | 29    | 126   | 19    |
|       |        | 89.1%  | 10.9% |     | 70.0%  | 5.0%  | 21.7% | 3.3%  |



7 評価作業のスケジュール



## 8 ヒアリング

ヒアリングは以下の日程により実施されました。

なお、中期目標・中期計画に関連する教育研究施設・設備の確認が必要な場合、災害等による被災状況等の確認が必要な場合、その他国立大学教育研究評価委員会が認める場合は訪問調査の実施も可能としていましたが、第2期中期目標期間評価においては訪問調査を実施していません。

|          | 法 人 名  |  |   |
|----------|--|--|---|
| 1月17日(火) | 愛媛大学<br>鹿屋体育大学<br>富山大学<br>一橋大学<br>福島大学               | 岡山大学<br>京都大学<br>名古屋大学<br>福井大学<br>三重大学            | お茶の水女子大学<br>信州大学<br>鳴門教育大学<br>福岡教育大学<br>山梨大学      |
| 1月18日(水) | 旭川医科大学<br>京都工芸繊維大学<br>筑波大学<br>北海道教育大学                | 宇都宮大学<br>滋賀大学<br>東京医科歯科大学<br>横浜国立大学              | 京都教育大学<br>千葉大学<br>東北大学                            |
| 1月19日(木) | 茨城大学<br>北見工業大学<br>静岡大学<br>東京農工大学<br>浜松医科大学<br>室蘭工業大学 | 帯広畜産大学<br>群馬大学<br>島根大学<br>徳島大学<br>北海道大学<br>和歌山大学 | 金沢大学<br>滋賀医科大学<br>東京工業大学<br>長崎大学<br>宮城教育大学        |
| 1月20日(金) | 秋田大学<br>九州工業大学<br>東京芸術大学<br>長岡技術科学大学<br>弘前大学<br>山形大学 | 大阪教育大学<br>神戸大学<br>鳥取大学<br>奈良教育大学<br>広島大学         | 小樽商科大学<br>東京外国語大学<br>豊橋技術科学大学<br>奈良女子大学<br>兵庫教育大学 |
| 1月23日(月) | 愛知教育大学<br>大阪大学<br>高知大学<br>筑波技術大学<br>名古屋工業大学<br>山口大学  | 岩手大学<br>香川大学<br>埼玉大学<br>東京海洋大学<br>奈良先端科学技術大学院大学  | 大分大学<br>九州大学<br>佐賀大学<br>東京学芸大学<br>北陸先端科学技術大学院大学   |
| 1月24日(火) | 鹿児島大学<br>高エネルギー加速器研究機構<br>総合研究大学院大学<br>人間文化研究機構      | 岐阜大学<br>上越教育大学<br>電気通信大学<br>宮崎大学                 | 熊本大学<br>政策研究大学院大学<br>新潟大学<br>琉球大学                 |

|          | 法人名      |             |      |
|----------|----------|-------------|------|
| 1月25日(水) | 自然科学研究機構 | 情報・システム研究機構 | 東京大学 |

※表中の法人名は50音順で記載

## ヒアリングのスケジュール

各法人のヒアリングは、以下のスケジュールで実施されました。

ヒアリング時間は60分間とし、冒頭10分間を法人からの説明時間に充てました。また、ヒアリング前後に実施したミーティングにて、ヒアリング内容の確認及び評価結果（原案）作成に係る審議を実施しました。

| 事項                           | 内容  |
|------------------------------|---|
| ミーティング① (30分)                | <ul style="list-style-type: none"> <li>・スケジュールの確認</li> <li>・ヒアリングの確認事項の取りまとめ</li> </ul>     |
| 国立大学法人等関係者（責任者）からの意見聴取 (60分) | <ul style="list-style-type: none"> <li>・書面調査で確認できなかった事項の確認</li> <li>・確認事項の確認</li> </ul>     |
| ミーティング② (60分)                | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ヒアリング結果の取りまとめ</li> <li>・評価結果（原案）の作成方針を審議</li> </ul> |

## 9 意見申立て

意見申立ては以下の日程により、実施されました。

- ・平成 29 年 3 月 2 日 法人へ評価報告書（案）の送付
- ・平成 29 年 3 月 2 日 法人からの意見申立て期間  
～ 3 月 22 日
- ・平成 29 年 4 月 6 日 意見申立審査会開催
- ・平成 29 年 4 月 18 日 国立大学教育研究評価委員会において評価報告書の確定
- ・平成 29 年 4 月 18 日 文部科学省国立大学法人評価委員会へ教育研究の状況の  
評価結果を提供

(意見申立ての件数)

達成状況判定結果（案）に対する意見申立ての件数 72 件

現況分析結果（案）に対する意見申立ての件数 52 件

(教育水準：28 件 研究水準：24 件)

## 10 評価結果とその公表

評価結果は、評価報告書として、ウェブサイト (<http://www.niad.ac.jp/>) への掲載等により、広く社会に公表しました。

各法人に対する評価結果の通知は、教育研究面の評価結果を含め、文部科学省の国立大学法人評価委員会が行い、機構からは各法人に対して通知を行いませんでした。しかし、社会への説明責任の観点から、法人評価委員会が各法人に対して評価結果を通知した後、速やかに機構のウェブサイトで以下の資料・データ等を公表するとともに、希望する法人へ「書面調査シート」及び「研究業績水準の判定に関する判定結果」の開示を行いました。

- ① 評価の実施概要
- ② 評価者名簿
- ③ 評価結果の概要 ※次項参照
- ④ 各法人の評価結果（意見申立て及びその対応を含む）
- ⑤ 各法人の実績報告書（正誤表を含む）

## 国立大学法人等の第2期中期目標期間に係る教育研究の状況の評価結果概要

独立行政法人大学改革支援・学位授与機構が実施した国立大学法人等の第2期中期目標期間に係る教育研究の状況の評価結果(中期目標の達成状況評価及び学部・研究科等の現況分析)は、以下のとおりです。

### 1. 中期目標・中期計画の達成状況

#### (1) 国立大学法人(86法人)の評価結果

| 大項目               | 非常に優れている    | 良好            | おおむね良好        | 不十分         | 中項目                 | 非常に優れている    | 良好            | おおむね良好        | 不十分         |
|-------------------|-------------|---------------|---------------|-------------|---------------------|-------------|---------------|---------------|-------------|
| 教育                | 0<br>(0.0%) | 11<br>(12.8%) | 74<br>(86.0%) | 1<br>(1.2%) | ①教育内容及び教育の成果等に関する目標 | 1<br>(1.1%) | 13<br>(14.1%) | 78<br>(84.8%) | 0<br>(0.0%) |
|                   |             |               |               |             | ②教育の実施体制等に関する目標     | 0<br>(0.0%) | 11<br>(12.9%) | 73<br>(85.9%) | 1<br>(1.2%) |
|                   |             |               |               |             | ③学生への支援に関する目標       | 1<br>(1.2%) | 15<br>(17.4%) | 70<br>(81.4%) | 0<br>(0.0%) |
|                   |             |               |               |             | ④その他                | 0<br>(0.0%) | 4<br>(44.4%)  | 5<br>(55.6%)  | 0<br>(0.0%) |
| 研究                | 5<br>(5.8%) | 13<br>(15.1%) | 67<br>(77.9%) | 1<br>(1.2%) | ①研究水準及び研究の成果等に関する目標 | 8<br>(9.5%) | 30<br>(35.7%) | 46<br>(54.8%) | 0<br>(0.0%) |
|                   |             |               |               |             | ②研究実施体制等に関する目標      | 2<br>(2.3%) | 15<br>(17.2%) | 69<br>(79.3%) | 1<br>(1.1%) |
|                   |             |               |               |             | ③その他                | 0<br>(0.0%) | 2<br>(50.0%)  | 2<br>(50.0%)  | 0<br>(0.0%) |
| その他<br>(社会連携・国際化) | 1<br>(1.2%) | 21<br>(24.4%) | 64<br>(74.4%) | 0<br>(0.0%) | ①社会との連携や社会貢献に関する目標  | 5<br>(5.3%) | 18<br>(18.9%) | 72<br>(75.8%) | 0<br>(0.0%) |
|                   |             |               |               |             | ②国際化に関する目標          | 1<br>(1.2%) | 25<br>(29.8%) | 58<br>(69.0%) | 0<br>(0.0%) |
|                   |             |               |               |             | ③その他                | 2<br>(5.9%) | 18<br>(52.9%) | 14<br>(41.2%) | 0<br>(0.0%) |

#### (2) 大学共同利用機関法人(4法人)の評価結果

| 大項目               | 非常に優れている    | 良好           | おおむね良好        | 不十分         | 中項目                    | 非常に優れている     | 良好           | おおむね良好        | 不十分         |
|-------------------|-------------|--------------|---------------|-------------|------------------------|--------------|--------------|---------------|-------------|
| 研究                | 0<br>(0.0%) | 1<br>(25.0%) | 3<br>(75.0%)  | 0<br>(0.0%) | ①研究水準及び研究の成果等に関する目標    | 0<br>(20.0%) | 4<br>(60.0%) | 1<br>(20.0%)  | 0<br>(0.0%) |
|                   |             |              |               |             | ②研究実施体制等の整備に関する目標      | 0<br>(0.0%)  | 0<br>(0.0%)  | 3<br>(100.0%) | 0<br>(0.0%) |
|                   |             |              |               |             | ③その他                   | 0<br>(0.0%)  | 0<br>(0.0%)  | 2<br>(100.0%) | 0<br>(0.0%) |
| 共同利用              | 0<br>(0.0%) | 1<br>(33.3%) | 2<br>(66.7%)  | 0<br>(0.0%) | ①共同利用、共同研究の内容・水準に関する目標 | 1<br>(33.3%) | 0<br>(0.0%)  | 2<br>(66.7%)  | 0<br>(0.0%) |
|                   |             |              |               |             | ②共同利用、共同研究の実施体制等に関する目標 | 0<br>(0.0%)  | 0<br>(0.0%)  | 2<br>(100.0%) | 0<br>(0.0%) |
| 教育                | 0<br>(0.0%) | 0<br>(0.0%)  | 4<br>(100.0%) | 0<br>(0.0%) | ①大学院への教育協力に関する目標       | 0<br>(0.0%)  | 0<br>(0.0%)  | 4<br>(100.0%) | 0<br>(0.0%) |
|                   |             |              |               |             | ②人材養成に関する目標            | 0<br>(0.0%)  | 1<br>(25.0%) | 3<br>(75.0%)  | 0<br>(0.0%) |
| その他<br>(社会連携・国際化) | 0<br>(0.0%) | 0<br>(0.0%)  | 3<br>(100.0%) | 0<br>(0.0%) | ①社会との連携や社会貢献に関する目標     | 0<br>(0.0%)  | 0<br>(0.0%)  | 3<br>(100.0%) | 0<br>(0.0%) |
|                   |             |              |               |             | ②国際化に関する目標             | 0<br>(0.0%)  | 0<br>(0.0%)  | 3<br>(100.0%) | 0<br>(0.0%) |

※人間文化研究機構の中期目標・中期計画については、大項目「研究」・「教育」の2項目で構成

## 2. 学部・研究科等の現況分析

### (1) 教育の評価結果(831組織)

|                | 教育活動の状況 |       |         |       |      | 教育成果の状況 |       |       |          |       |      |       |
|----------------|---------|-------|---------|-------|------|---------|-------|-------|----------|-------|------|-------|
|                | 教育実施体制  |       | 教育内容・方法 |       | 項目判定 |         | 学業の成果 |       | 進路・就職の状況 |       | 項目判定 |       |
| 期待される水準を大きく上回る |         |       |         |       | 2    | 0.2%    |       |       |          |       | 0    | 0.0%  |
| 期待される水準を上回る    | 98      | 11.8% | 172     | 20.7% | 224  | 27.0%   | 63    | 7.6%  | 33       | 4.0%  | 87   | 10.5% |
| 期待される水準にある     | 732     | 88.1% | 656     | 78.9% | 602  | 72.4%   | 760   | 91.5% | 786      | 94.6% | 734  | 88.3% |
| 期待される水準を下回る    | 1       | 0.1%  | 3       | 0.4%  | 3    | 0.4%    | 8     | 1.0%  | 5        | 0.6%  | 10   | 1.2%  |

|                               | 質の向上度 |       |
|-------------------------------|-------|-------|
| 大きく改善、向上している<br>又は 高い質を維持している | 33    | 4.0%  |
| 改善、向上している                     | 239   | 28.8% |
| 質を維持している                      | 548   | 65.9% |
| 質を維持しているとはいえない                | 11    | 1.3%  |

### (2) 研究の評価結果(598組織)

|                | 研究活動の状況 |       |           |       |      | 研究成果の状況 |         |       |      |       |
|----------------|---------|-------|-----------|-------|------|---------|---------|-------|------|-------|
|                | 研究活動の状況 |       | 共同利用・共同研究 |       | 項目判定 |         | 研究成果の状況 |       | 項目判定 |       |
| 期待される水準を大きく上回る |         |       |           |       | 10   | 1.7%    |         |       | 25   | 4.2%  |
| 期待される水準を上回る    | 229     | 38.3% | 59        | 54.6% | 234  | 39.1%   | 272     | 45.5% | 247  | 41.3% |
| 期待される水準にある     | 369     | 61.7% | 49        | 45.4% | 354  | 59.2%   | 325     | 54.3% | 325  | 54.3% |
| 期待される水準を下回る    | 0       | 0.0%  | 0         | 0.0%  | 0    | 0.0%    | 1       | 0.2%  | 1    | 0.2%  |

|                               | 質の向上度 |       |
|-------------------------------|-------|-------|
| 大きく改善、向上している<br>又は 高い質を維持している | 155   | 25.9% |
| 改善、向上している                     | 138   | 23.1% |
| 質を維持している                      | 304   | 50.8% |
| 質を維持しているとはいえない                | 1     | 0.2%  |

(1) 国立大学教育研究評価委員会 (所属は平成29年4月現在)

|       |  |
|-------|--|
| 池上久雄  | 新コスモス電機株式会社社外監査役、東京学芸大学客員教授              |
| 大沢陽一郎 | 株式会社読売新聞東京本社編集局次長                        |
| 戒能民江  | お茶の水女子大学名誉教授                             |
| ◎梶山千里 | 福岡女子大学理事・学長                              |
| 木村靖二  | 東京大学名誉教授                                 |
| 河野通方  | 東京大学名誉教授                                 |
| 小畑秀文  | 学校法人嘉悦学園理事、かえつ有明中・高等学校長                  |
| 相良憲昭  | 日本高等教育評価機構副理事長                           |
| 佐々木隆生 | 北海道大学名誉教授、北海道大学公共政策大学院公共政策学<br>研究センター研究員 |
| ○杉山武彦 | 高速道路調査会理事長                               |
| 鈴木典比古 | 大学基準協会参与、国際教養大学理事長・学長                    |
| 関本照夫  | 東京大学名誉教授                                 |
| 戸谷賢司  | 大学入試センター参与、秀明大学特任教授                      |
| 豊田長康  | 鈴鹿医療科学大学学長                               |
| 中島秀之  | 東京大学特任教授                                 |
| 野嶋佐由美 | 高知県立大学学長                                 |
| 福山秀敏  | 東京理科大学学長特別補佐                             |

※ ◎は委員長、○は副委員長

(2) 運営小委員会 (達成状況判定会議) (所属は平成29年3月現在)

|       |                 |
|-------|-----------------|
| 家泰弘   | 日本学術振興会理事       |
| 下條文武  | 新潟大学名誉教授        |
| ○河野通方 | 東京大学名誉教授        |
| ◎杉山武彦 | 高速道路調査会理事長      |
| 高田邦昭  | 群馬県立県民健康科学大学学長  |
| 谷口功   | 国立高等専門学校機構理事長   |
| 濱田純一  | 放送倫理・番組向上機構理事長  |
| 平野俊夫  | 量子科学技術研究開発機構理事長 |
| 本間謙二  | 前北海道教育大学学長      |
| 柳澤康信  | 岡山理科大学学長        |

※ ◎主査、○は副主査

(3) 運営小委員会 (現況分析部会) (所属は平成29年3月現在)

|       |                         |
|-------|-------------------------|
| 相原博昭  | 東京大学大学執行役・副学長           |
| 石田英敬  | 東京大学教授                  |
| 岸本喜久雄 | 東京工業大学環境・社会理工学院長        |
| 北村聖   | 国際医療福祉大学教授              |
| ○木村靖二 | 東京大学名誉教授                |
| ◎小畑秀文 | 学校法人嘉悦学園理事、かえつ有明中・高等学校長 |
| 潮見佳男  | 京都大学人文社会科学学域長・法学研究科長    |
| 生源寺真一 | 名古屋大学教授                 |
| 高橋和久  | 東京大学特任教授                |
| 中地義和  | 東京大学教授                  |
| 三浦篤   | 東京大学教授                  |
| 耳塚寛明  | お茶の水女子大学教授              |

※ ◎は主査、○は副主査

(4) 意見申立審査会 (所属は平成29年4月現在)

|       |                       |
|-------|-----------------------|
| 宇川彰   | 理化学研究所計算科学研究機構副機構長    |
| 小間篤   | 前秋田県立大学理事長・学長         |
| ○相良憲昭 | 日本高等教育評価機構副理事長        |
| ◎杉山武彦 | 高速道路調査会理事長            |
| 鈴木典比古 | 大学基準協会参与、国際教養大学理事長・学長 |
| 戸谷賢司  | 大学入試センター参与、秀明大学特任教授   |
| 長谷部恭男 | 早稲田大学教授               |
| 古沢由紀子 | 株式会社読売新聞東京本社論説委員      |

※ ◎は会長、○は副会長

(5) 達成状況判定会議 (所属は平成29年3月現在)

(第1グループ)

|       |  |
|-------|--|
| 浅原利正  | 広島県病院事業管理者・参与                          |
| 安部真一  | 熊本保健科学大学副学長                            |
| 阿部憲孝  | 放送大学山口学習センター所長                         |
| 有川節夫  | 九州大学名誉教授                               |
| 有馬道久  | 香川大学教授                                 |
| 和泉雄一  | 東京医科歯科大学教授                             |
| 一戸達也  | 東京歯科大学副学長                              |
| 井上球智  | 元関西学院大学教授                              |
| 恵比須繁之 | 大阪大学特任教授                               |
| 尾池和夫  | 京都造形芸術大学長                              |
| 沖陽子   | 岡山大学副学長                                |
| 春日雅人  | 国立国際医療研究センター理事長・総長                     |
| 片山英治  | 野村證券株式会社主任研究員                          |
| 川上重彦  | 金沢医科大学教授                               |
| 河村小百合 | 株式会社日本総合研究所上席主任研究員                     |
| 小泉潤二  | 大阪大学名誉教授                               |
| 小畑秀文  | 学校法人嘉悦学園理事・かえつ有明中・高等学校長                |
| 小林浩   | リクルート進学総研所長                            |
| 武田洋子  | 株式会社三菱総合研究所政策・経済研究センター副センター長・チーフエコノミスト |
| 田嶋尚子  | 東京慈恵会医科大学名誉教授                          |
| 遠山正彌  | 大阪府立病院機構理事長                            |
| 永島英夫  | 九州大学教授                                 |
| 早下隆士  | 上智大学長                                  |
| 春名章二  | 福山大学教授                                 |
| 平川勝洋  | 広島大学病院長                                |
| ◎平野俊夫 | 量子科学技術研究開発機構理事長                        |
| 宮崎隆   | 昭和大学副学長・歯学部部長                          |
| 宮地良樹  | 滋賀県立成人病センター病院長                         |
| 八耳俊文  | 青山学院女子短期大学長                            |
| 山田耕太  | 敬和学園大学長                                |

※ ◎はグループリーダー

(第3グループ)

|        |                         |
|--------|-------------------------|
| 浅田尚紀   | 兵庫県立大学理事・副学長            |
| 阿部顕三   | 大阪大学教授                  |
| 荒瀬克己   | 大谷大学教授                  |
| 稲葉英男   | 岡山大学名誉教授、津山工業高等専門学校名誉教授 |
| 岩本論    | 佐賀大学教授                  |
| 岩本俊孝   | 前宮崎大学理事・副学長             |
| 木村靖二   | 東京大学名誉教授                |
| 栗原考次   | 岡山大学教授                  |
| 塩出省吾   | 神戸学院大学副学長               |
| 杉岡直人   | アヴァンセ・マネジメントコンサルティング代表  |
| 十河ひろ美  | 株式会社ハースト婦人画報社編集局長       |
| 角田直也   | 国士舘大学大学院スポーツシステム研究科長    |
| 朴恵淑    | 三重大学教授                  |
| 長谷川眞理子 | 総合研究大学院大学理事             |
| 濱田道夫   | 兵庫県立大学特任教授              |
| 福田光完   | 兵庫教育大学長                 |
| 福永博俊   | 長崎大学理事・副学長              |
| 船橋正美   | 日本能率協会学校経営支援センター長       |
| 宮町良広   | 大分大学教授                  |
| ◎宮本一夫  | 九州大学副学長                 |
| ◎柳澤康信  | 岡山理科大学長                 |
| 山縣ゆり子  | 熊本大学副学長                 |
| 山田耕路   | 崇城大学教授                  |
| 吉尾寛    | 高知大学教授                  |
| 吉川敏一   | 京都府立医科大学長               |
| 吉田浩己   | 前鹿児島大学長                 |

※ ◎はグループリーダー

(第2グループ)

|       |                     |
|-------|---------------------|
| 阿江通良  | 日本体育大学教授            |
| 内山雅生  | 宇都宮大学名誉教授           |
| 江川雅子  | 一橋大学教授              |
| 遠藤典子  | 慶應義塾大学特任教授          |
| 大西武雄  | 奈良県立医科大学名誉教授        |
| 岡田益男  | 八戸工業高等専門学校長         |
| 小野正人  | 城西大学経営学部教授          |
| 金田嘉清  | 藤田保健衛生大学理事・副学長      |
| 川端和重  | 北海道大学理事・副学長         |
| 北村彰英  | 千葉市産業振興財団理事長        |
| 木村光伸  | 名古屋学院大学常任理事         |
| 郡健二郎  | 名古屋市立大学理事・学長        |
| 小嶋郁夫  | 秋田県立大学理事            |
| 齋藤康   | 千葉大学名誉教授            |
| 佐伯浩   | 寒地港湾技術研究センター代表理事会長  |
| 坂本達哉  | 慶應義塾大学教授            |
| ◎佐々木毅 | 日本学士院会員             |
| 澤田克己  | 新潟大学教授              |
| 高松哲郎  | 京都府立医科大学教授          |
| 玉置俊晃  | 徳島大学教授              |
| 豊田長康  | 鈴鹿医療科学大学長           |
| 中空麻奈  | BNPパリバ証券株式会社投資調査本部長 |
| 中村高遠  | 静岡県試験研究高度化推進顧問      |
| ◎濱田純一 | 放送倫理・番組向上機構理事長      |
| 広渡清吾  | 東京大学名誉教授            |
| 福嶋義光  | 信州大学教授              |
| 藤井良一  | 情報・システム研究機構理事       |
| 正木基文  | 長崎県立大学名誉教授          |
| 松崎一平  | 富山大学教授              |
| 松橋公治  | 明治大学教授              |
| 松藤千弥  | 東京慈恵会医科大学長          |
| 南利明   | 静岡大学名誉教授            |
| 八嶋厚   | 岐阜大学教授              |

※ ◎はグループリーダー

(第4グループ)

|        |                           |
|--------|---------------------------|
| 生重幸恵   | NPO法人スクール・アドバイス・ネットワーク理事長 |
| 上村協子   | 東京家政学院大学教授                |
| 遠藤啓吾   | 京都医療科学大学長                 |
| 大戸斉    | 福島県立医科大学副理事・教授            |
| 小川廣男   | 東京海洋大学名誉教授                |
| 荻野祥三   | 元毎日新聞編集委員                 |
| 小野義隆   | 茨城大学特任教授                  |
| 加藤泰建   | 埼玉大学名誉教授                  |
| 上井喜彦   | 福島大学監事                    |
| 木村彰方   | 東京医科歯科大学副学長               |
| ◎國枝秀世  | 名古屋大学理事・副総長               |
| ◎下條文武  | 新潟大学名誉教授                  |
| ◎佐々木隆生 | 北星学園大学教授                  |
| 白石小百合  | 横浜市立大学教授                  |
| 高井章    | 旭川医科大学副学長                 |
| 鶴田三郎   | 前東京海洋大学理事・副学長             |
| 中村民雄   | 福島大学特任教授                  |
| 百鬼史訓   | 前東京農工大学理事・副学長             |
| 西田眞    | 秋田大学教授                    |
| 新田孝彦   | 北海道大学理事・副学長               |
| 溝口周二   | 前横浜国立大学理事・副学長             |
| 山内進    | 一橋大学名誉教授                  |

※ ◎はグループリーダー

(第5グループ)

|         |                     |
|---------|---------------------|
| 小豆畑 茂   | 株式会社日立製作所フェロー       |
| 五上嵐 隆   | 国立成育医療研究センター理事長     |
| 石原昌英    | 琉球大学教授              |
| 小野田 淳次郎 | 宇宙航空研究開発機構名誉教授      |
| 河野 葉月   | 株式会社KADOKAWAカクコム編集長 |
| 河野 通方   | 東京大学名誉教授            |
| 小林康夫    | 青山学院大学特任教授          |
| 芹川 聖一   | 九州工業大学工学研究院長        |
| ◎高田 邦昭  | 群馬県立県民健康科学大学学長      |
| 高橋 滋    | 法政大学教授              |
| 伊達 紫    | 宮崎大学理事・副学長          |
| 谷山 弘行   | 酪農学園大学教授            |
| 中根 明夫   | 弘前大学教授              |
| 西原 達次   | 九州歯科大学理事長・学長        |
| 馬場 明道   | 兵庫医療大学長             |
| 早川 茂    | 香川大学特命教授            |
| 藤井 克己   | いわて産業振興センター顧問       |
| 本郷 一博   | 信州大学理事・副学長          |
| 増田 秀樹   | 名古屋工業大学名誉教授         |
| 松本 雄一郎  | 株式会社エデュース代表取締役      |
| 松本 洋一郎  | 理化学研究所理事            |
| 若杉 隆平   | 新潟県立大学教授            |

※ ◎はグループリーダー

(第6グループ)

|        |                          |
|--------|--------------------------|
| 天野 和孝  | 上越教育大学副学長                |
| 内田 志づ子 | 全国高等学校PTA連合会事務局長         |
| 内田 伸子  | 十文字学園女子大学特任教授            |
| 内山 伊知郎 | 同志社大学教授                  |
| 遠藤 隆俊  | 高知大学人文社会科学系長             |
| 岡本 幾子  | 大阪教育大学理事・副学長             |
| 折出 健二  | 人間環境大学特任教授               |
| 戒能 民江  | お茶の水女子大学名誉教授             |
| 加賀 裕郎  | 同志社女子大学学長                |
| 加野 芳正  | 香川大学教授                   |
| 清原 正義  | 兵庫県立大学理事長・学長             |
| 栗田 博之  | 東京外国語大学総合情報コラボレーションセンター長 |
| 佐伯 孝弘  | 清泉女子大学副学長                |
| 芝木 邦也  | 北海道教育大学教授、前北海道教育大学理事     |
| 柴田 誠   | 東京都立大泉高等学校統括校長           |
| 大坊 郁夫  | 東京未来大学学長                 |
| 多田 孝志  | 金沢学院大学教授                 |
| 千葉 吉裕  | 東京都立晴海総合高等学校主幹教諭         |
| 長束 倫夫  | 千葉県立浦安南高等学校教諭            |
| 野嶋 栄一郎 | 早稲田大学教授                  |
| ◎本間 謙二 | 前北海道教育大学学長               |
| 丸野 俊一  | 九州大学理事・副学長               |
| 南 徹弘   | 大阪成蹊短期大学学長               |
| 山西 潤一  | 富山大学名誉教授                 |
| 渡邊 健治  | 畿央大学教授                   |

※ ◎はグループリーダー

(第7グループ)

|        |                      |
|--------|----------------------|
| 梅原 秀哲  | 名古屋工業大学教授            |
| 大貝 彰   | 豊橋技術科学大学理事・副学長       |
| 大平 文和  | 放送大学香川学習センター所長       |
| 岡本 信明  | 学校法人トキワ松学園理事長        |
| 小田部 荘司 | 九州工業大学教授             |
| 片岡 幹雄  | 奈良先端科学技術大学院大学理事・副学長  |
| 川口 泰雄  | 元タカハシスチール株式会社代表取締役社長 |
| 菊池 洋   | 早稲田大学教授              |
| 米田 隆志  | 芝浦工業大学副学長            |
| 佐藤 順一  | 科学技術振興機構上席フェロー       |
| 佐藤 之彦  | 千葉大学教授               |
| 賞 雅寛   | 東京海洋大学教授             |
| ◎谷口 功  | 国立高等専門学校機構理事長        |
| 谷口 研二  | 大阪大学特任教授             |
| 田牧 純一  | 北見工業大学特任教授           |
| 塚本 寛   | 北九州工業高等専門学校長         |
| 新原 皓一  | 長岡技術科学大学特任教授         |
| 西村 伸也  | 新潟大学教授               |
| 福山 秀敏  | 東京理科大学学長特別補佐         |
| 村田 秀一  | 株式会社宇宙建設コンサルタント取締役会長 |

※ ◎はグループリーダー

(第8グループ)

|        |               |
|--------|---------------|
| ◎家 泰弘  | 日本学術振興会理事     |
| 大貝 隆之  | 国際協力機構国際協力専門員 |
| 塩谷 捨明  | 大阪大学名誉教授      |
| 関本 照夫  | 東京大学名誉教授      |
| 竹内 潤   | 島根大学名誉教授      |
| 西田 生郎  | 埼玉大学教授        |
| 長谷川 寿一 | 東京大学教授        |
| 安浦 寛人  | 九州大学理事・副学長    |

※ ◎はグループリーダー

(6) 現況分析部会 (所属は平成29年3月現在)

|         |                |
|---------|----------------|
| (人文学系)  |                |
| 伊藤 たかね  | 東京大学教授         |
| ○江原 由美子 | 首都大学東京教授       |
| 大淵 憲一   | 放送大学宮城学習センター所長 |
| 釜谷 武志   | 神戸大学教授         |
| 栗原 浩英   | 東京外国語大学教授      |
| 杉本 優    | 群馬県立女子大学教授     |
| 高木 彰彦   | 九州大学教授         |
| ◎高橋 和久  | 東京大学特任教授       |
| ○竹中 亨   | 大阪大学教授         |
| 谷 富夫    | 甲南大学教授         |
| ○戸田山 和久 | 名古屋大学教授        |
| 和田 壽弘   | 名古屋大学教授        |

※ ◎は部会長、○は副部会長

(社会科学系)

|        |                      |
|--------|----------------------|
| 秋田次郎   | 東北大学大学院経済学研究科長       |
| 阿部誠    | 大分大学大学院福祉社会科学部研究科長   |
| 石山幸彦   | 横浜国立大学教授             |
| 岩本武和   | 京都大学教授               |
| 植野妙実子  | 中央大学教授               |
| 川波洋一   | 下関市立大学長              |
| 国友直人   | 明治大学特任教授             |
| ○久保庭眞彰 | 一橋大学名誉教授             |
| 桜井久勝   | 関西学院大学教授             |
| ◎潮見佳男  | 京都大学人文社会科学部学長・法学研究科長 |
| 下田憲雄   | 大分大学副学長・教授           |
| 白石克孝   | 龍谷大学教授               |
| 関口正司   | 九州大学教授               |
| 芹澤成弘   | 大阪大学教授               |
| 田中一郎   | 金沢大学名誉教授             |
| 玉井金五   | 愛知学院大学教授             |
| ○多和田眞  | 愛知学院大学教授             |
| 土井政和   | 九州大学教授               |
| 徳賀芳弘   | 京都大学副学長              |
| 床谷文雄   | 大阪大学教授               |
| 中村博之   | 横浜国立大学教授             |
| 根本二郎   | 名古屋大学教授              |
| 萩原泰治   | 神戸大学教授               |
| 藤原秀夫   | 同志社大学教授              |
| 間宮勇    | 明治大学副学長・学長室専門員長      |
| 山倉健嗣   | 大妻女子大学教授             |
| 山田鏡夫   | 名古屋大学名誉教授            |
| 山部俊文   | 一橋大学教授               |
| 山本健兒   | 九州大学教授               |
| ○山本弘   | 神戸大学教授               |
| 吉井昌彦   | 神戸大学教授               |
| 渡辺達徳   | 東北大学教授               |

※ ◎は部会長、○は副部会長

(工学系)

|        |                     |
|--------|---------------------|
| 石村眞一   | 郡山女子大学特任教授          |
| 磯部雅彦   | 高知工科大学長             |
| 井上光輝   | 豊橋技術科学大学理事・副学長      |
| 内山勝    | 東北大学名誉教授            |
| 尾家祐二   | 九州工業大学長             |
| 大谷順    | 熊本大学教授              |
| 大野英男   | 東北大学教授              |
| ○影山和郎  | 東京大学教授              |
| 片山聖二   | 大阪大学名誉教授            |
| ○河村篤男  | 横浜国立大学教授            |
| ◎岸本喜久雄 | 東京工業大学環境・社会理工学部長    |
| ○北村隆行  | 京都大学工学研究科長・工学部長・副理事 |
| 久保田弘敏  | 帝京大学客員教授            |
| 越光男    | 大学改革支援・学位授与機構特任教授   |
| 後藤春彦   | 早稲田大学教授             |
| 榎木哲夫   | 京都大学教授              |
| 白鳥則郎   | 早稲田大学客員上級研究員        |
| 末岡淳男   | 前九州職業能力開発大学校長       |
| 高橋儀平   | 東洋大学教授              |
| 宝田恭之   | 群馬大学教授              |
| 瀧寛和    | 和歌山大学長              |
| 中城康彦   | 明海大学教授              |
| 野田直剛   | 静岡大学名誉教授            |
| 林田行雄   | 前佐賀大学大学院工学系研究科長     |
| 早瀬敏幸   | 東北大学教授              |
| 本多敏    | 慶應義塾大学教授            |
| 松本真一   | 秋田県立大学システム科学技術学部長   |

※ ◎は部会長、○は副部会長

(理学系)

|        |                   |
|--------|-------------------|
| ◎相原博昭  | 東京大学学執行役・副学長      |
| ○阿波賀邦夫 | 名古屋大学教授           |
| 石坂丞二   | 名古屋大学宇宙地球環境研究所副所長 |
| ○今市涼子  | 日本女子大学教授          |
| 巖佐庸行   | 九州大学教授            |
| 桂利行    | 法政大学教授            |
| 中村佳正   | 京都大学教授            |
| 長谷俊治   | 大阪大学特任教授          |
| 日笠健一   | 東北大学教授            |
| 平井啓久   | 京都大学教授            |
| 廣井美邦   | 情報・システム研究機構特任教授   |
| 深田吉孝   | 東京大学教授            |
| 松見豊    | 名古屋大学教授           |
| 山本正幸   | 自然科学研究機構理事・副機構長   |
| ○吉川研一  | 同志社大学教授           |

※ ◎は部会長、○は副部会長

(農学系)

|        |               |
|--------|---------------|
| 荒木和秋   | 酪農学園大学農食環境学群長 |
| 石川勝美   | 高知大学副理事       |
| 石黒直隆   | 岐阜大学教授        |
| 一瀬勇規   | 岡山大学教授        |
| 岩元泉    | 鹿児島大学名誉教授     |
| ○大山卓爾  | 新潟大学教授        |
| 川本康博   | 琉球大学副学長       |
| 木庭卓人   | 千葉大学教授        |
| 芝田猛    | 東海大学名誉教授      |
| ◎生源寺眞一 | 名古屋大学教授       |
| 鈴木裕之   | 弘前大学教授        |
| 土川覚    | 名古屋大学教授       |
| 中田英昭   | 長崎大学副学長       |
| 新村末雄   | 新潟大学教授        |
| ○西原眞杉  | 東京大学教授        |
| 西村伸一   | 岡山大学教授        |
| 野瀬昭博   | 佐賀大学名誉教授      |
| 古谷研    | 東京大学教授        |
| 宝月岱造   | 東京大学名誉教授      |
| 丸谷知己   | 北海道大学特任教授     |
| 村上昇    | 富崎大学学長特別補佐    |
| ○渡邊紹裕  | 京都大学教授        |

※ ◎は部会長、○は副部会長

(保健系)

新井 一 順天堂大学長  
荒木 孝二 東京医科歯科大学教授  
一ノ瀬 正和 東北大学教授  
井上 孝 東京歯科大学教授  
○井上 智子 国立看護大学校長  
伊橋 光二 山形県立保健医療大学理事  
牛木 辰男 新潟大学医学系長・医学部長  
大城 昌平 聖隷クリストファー大学リハビリテーション学部長  
大島 吉輝 東北大学教授  
太田 茂 広島大学教授  
片岡 徹 神戸大学副学長  
河田 光博 佛教大学教授  
北島 勲 富山大学教授  
◎北村 聖 国際医療福祉大学教授  
○木村 健二郎 地域医療機能推進機構東京高輪病院長  
久保 真一 福岡大学教授  
越川 憲明 日本大学特任教授  
小林 正夫 広島大学教授  
斎藤 一郎 鶴見大学教授  
澤田 誠 名古屋大学教授  
島田 眞路 山梨大学長  
○高倉 喜信 京都大学教授  
高戸 毅 東京大学教授  
高橋 眞理 順天堂大学教授  
遠山 育夫 滋賀医科大学教授  
戸塚 実 東京医科歯科大学大学院保健衛生学研究所長  
長澤 弘裕 神奈川県立保健福祉大学教授  
○中島 裕 明海大学教授  
奈良 信雄 大学改革支援・学位授与機構特任教授  
奈良間 美保 名古屋大学教授  
野々村 克也 釧路労災病院長  
登 勉 三重県健康管理事業センター理事長  
寶 清博 北海道大学病院長  
堀内 成子 聖路加国際大学教授  
○前田 健康 新潟大学歯学部長  
松井 修 金沢大学名誉教授  
松木 則夫 東京大学名誉教授  
三宅 洋一郎 徳島大学教授

森山 啓司 東京医科歯科大学歯学部長  
吉富 博則 福山大学教授

※ ◎は部長、○は副部長

(教育系)

浅沼 茂 東京学芸大学特任教授  
○阿部 修 北海道教育大学理事・副学長  
今井 康雄 日本女子大学教授  
植田 健男 名古屋大学教授  
浦 光博 追手門学院大学心理学部長  
大杉 昭英 国立教育政策研究所初等中等教育研究部長  
小川 正人 放送大学教授  
○小内 透 北海道大学大学院教育学研究院長  
加賀 勝 岡山大学教授  
加藤 義信 愛知県立大学名誉教授  
熊野 善介 静岡大学教授  
小玉 重夫 東京大学教授  
小林 辰至 上越教育大学教授  
近藤 孝弘 早稲田大学教授  
坂越 正樹 広島大学教授  
○清水 一彦 山梨県立大学理事・学長  
新谷 恭明 西南女学院大学教授  
鈴木 晶子 京都大学教授  
高橋 勝 帝京大学大学院教職研究科長  
寺崎 弘昭 山梨大学教授  
鳥光 美緒子 中央大学教授  
早川 操 福山女学院大学教授  
原 智仁 兵庫教育大学教授  
松浦 良充 慶應義塾大学文学部長  
南 博文 九州大学教授  
◎耳塚 寛明 お茶の水女子大学教授  
八尾坂 修 九州大学名誉教授  
山本 眞一 桜美林大学教授  
吉本 圭一 九州大学主幹教授  
米田 俊彦 お茶の水女子大学教授  
渡部 昭男 神戸大学教授

※ ◎は部長、○は副部長

(総合科学系)

青木 健一 金沢大学教授  
赤木 正人 北陸先端科学技術大学院大学教授  
縣 公一郎 早稲田大学教授  
秋本 克洋 筑波大学特命教授  
○浅見 泰司 東京大学教授  
安部 悦生 明治大学教授  
有馬 眞 横浜国立大学名誉教授  
飯島 敏夫 東北大学教授  
○家 正則 国立天文台名誉教授  
池上 知子 大阪市立大学教授  
◎石田 英敬 東京大学教授  
○出江 紳一 東北大学大学院医学研究科長  
○伊藤 眞 筑波大学副学長  
今脇 資郎 九州大学名誉教授  
上田 卓也 東京大学教授  
上田 渉 神奈川大学教授  
大谷 毅 信州大学名誉教授  
大塚 成男 千葉大学教授  
大塚 譲 戸板女子短期大学教授  
大西 昇 名古屋大学名誉教授  
小口 和美 国士舘大学教授  
小谷 典子 山口大学名誉教授  
筑 捷彦 情報オリンピック日本委員会理事長  
加納 重義 金沢大学副学長  
鎌倉 稔成 中央大学教授  
亀山 充隆 石巻専修大学教授  
河村 純一 東北大学教授  
木部 暢子 人間文化研究機構教授  
楠岡 成雄 東京大学名誉教授  
黒田 達朗 名古屋大学教授  
河野 憲二 奈良先端科学技術大学院大学教授  
小坂 満隆 北陸先端科学技術大学院大学教授  
五島 幸一 愛知淑徳大学グローバル・コミュニケーション学部長  
小島 定吉 東京工業大学教授  
近藤 和雄 東洋大学教授  
齋藤 健 北海道大学教授  
澤登 早苗 恵泉女学園大学教授  
城石 俊彦 情報・システム研究機構教授

杉田 孝夫 お茶の水女子大学教授  
高橋 孝行 北海道大学名誉教授  
高畑 由起夫 関西学院大学教授  
宅田 裕彦 京都大学教授  
多治見 左近 大阪市立大学教授  
田畑 泉 立命館大学教授  
田林 明 筑波大学名誉教授  
出村 誠 北海道大学教授  
徳永 勝士 東京大学教授  
富取 正彦 北陸先端科学技術大学院大学教授  
永澤 明 埼玉大学名誉教授  
中島 英治 九州大学教授  
中野 義昭 東京大学教授  
中道 正之 大阪大学大学院人間科学研究科附属未来共創センター長  
中村 文彦 横浜国立大学理事・副学長  
新川 達郎 同志社大学教授  
原 科幸彦 千葉商科大学長  
深尾 良夫 海洋研究開発機構特任上席研究員  
深見 公雄 高知大学学長特別補佐  
藤井 滋穂 京都大学教授  
藤川 清史 名古屋大学教授  
前門 晃 琉球大学教授  
丸山 幸夫 筑波大学教授  
村上 富士夫 大阪大学名誉教授  
森 俊夫 岐阜女子大学家政学部長  
森下 信 横浜国立大学理事・副学長  
山口 靖 名古屋大学教授  
○横矢 直和 奈良先端科学技術大学院大学理事・副学長  
米原 伸 京都大学教授

※ ◎は部長、○は副部長

(特定領域系)

- 四反田 素 幸 秋田大学理事・副学長
- ◎ 三 浦 篤 東京大学教授
- 渡 邊 健 二 東京藝術大学教授

※ ◎は部会長、○は副部会長

(大学共同利用機関)

- 井 本 敬 二 自然科学研究機構理事・生理学研究所長
- 高 塚 和 夫 京都大学リサーチリーダー
- ◎ 中 地 義 和 東京大学教授

※ ◎は部会長、○は副部会長

(7) 研究業績水準判定組織 (所属は平成29年3月現在)

(情報学)

(情報学基礎、計算基礎、人間情報学、情報学フロンティア)

- 池 内 克 史 マイクロソフトリサーチ・アジア研究所首席研究員
- 伊 藤 貴 之 お茶の水女子大学教授
- 今 井 桂 子 中央大学教授
- 上 田 和 紀 早稲田大学教授
- 遠 藤 薫 学習院大学教授
- 大 町 真一郎 東北大学教授
- 岡 浩太郎 慶應義塾大学教授
- 小 田 哲 久 愛知工業大学教授
- 鬼 沢 武 久 筑波大学教授
- 神 田 陽 治 北陸先端科学技術大学院大学教授
- 近 藤 邦 雄 東京工科大学教授
- 塩 入 諭 東北大学教授
- 高 木 剛 九州大学教授
- 竹 村 彰 通 東京大学教授
- 玉 井 哲 雄 法政大学教授
- 垂 水 浩 幸 香川大学教授
- 立 木 秀 樹 京都大学教授
- 中 島 浩 京都大学教授
- 中 村 宏 東京大学教授
- 並 木 美太郎 東京農工大学教授
- 西 田 豊 明 京都大学教授
- 布 川 博 士 岩手県立大学教授
- 根 本 彰 慶應義塾大学教授
- 橋 田 浩 一 東京大学教授
- 長谷山 美 紀 北海道大学教授
- 原 良 憲 京都大学教授
- 東 野 輝 夫 大阪大学教授
- 藤 代 一 成 慶應義塾大学教授
- 牧 野 光 則 中央大学教授
- 松 井 知 子 情報・システム研究機構教授
- 溝 口 理一郎 北陸先端科学技術大学院大学特任教授
- 美 濃 導 彦 京都大学教授
- 富 田 一 乘 北陸先端科学技術大学院大学教授
- 村 松 正 和 電気通信大学教授
- 森 継 修 一 筑波大学教授

- 山 田 茂 樹 情報・システム研究機構特任教授
- 横 田 治 夫 東京工業大学教授
- 吉 浦 裕 電気通信大学教授

(環境学)

(環境解析学、環境保全学、環境創成学)

- 浅 枝 隆 埼玉大学教授
- 大 村 達 夫 東北大学教授
- 片 山 新 太 名古屋大学教授
- 川 本 克 也 岡山大学教授
- 坂 志 朗 京都大学教授
- 堤 裕 昭 熊本県立大学地域連携・研究推進センター長
- 藤 堂 剛 大阪大学教授
- 中 静 透 東北大学教授
- 夏 原 由 博 名古屋大学教授
- 水 飽 揚 四郎 筑波大学教授
- 藤 田 陽 子 琉球大学教授
- 藤 原 健 史 岡山大学教授
- 松 田 尚 樹 長崎大学教授
- 山 口 勉 功 岩手大学教授
- 山 室 真 澄 東京大学教授
- 横 山 伸 也 公立鳥取環境大学教授

(複合領域)

(びんしん学、生活科学、科学教育・教育工学、科学社会学・科学技術史、文化財科学・博物館学、地理学、社会・安全科学、人間工学、健康・スポーツ科学、子ども学、生体分子科学、脳科学)

- 阿 江 美 恵 子 東京女子体育大学教授
- 石 井 直 方 東京大学教授
- 井 樋 慶 一 東北大学教授
- 井 山 弘 幸 新潟大学教授
- 上 原 真 人 辰馬考古資料館長
- 確 井 照 子 奈良大学名誉教授
- 江 森 英 世 群馬大学教授
- 大 野 高 裕 早稲田大学理事
- 岡 田 正 津山高専門学校特命教授
- 岡 西 哲 夫 名古屋学院大学教授
- 小 川 園 子 筑波大学教授
- 笠 原 賀 子 山形県立米沢栄養大学教授
- 加 藤 晃 一 自然科学研究機構教授
- 鎌 江 伊三夫 東京大学特任教授
- 河 合 優 年 武庫川女子大学大学院臨床教育学研究科長
- 河 田 恵 昭 関西大学社会安全研究センター長
- 葛 生 伸 福井大学教授
- 工 藤 博 幸 筑波大学教授
- 倉 持 清 美 東京学芸大学教授
- 佐々井 啓 日本女子大学名誉教授
- 佐 竹 健 治 東京大学教授
- 清 水 和 彦 豊橋創造大学教授
- 志 村 洋 子 同志社大学嘱託研究員
- 下 東 康 幸 九州大学名誉教授
- 高 寺 政 行 信州大学先鋭領域融合研究群国際ファイバー工学研究所長
- 高 橋 和 子 横浜国立大学教授
- 土 田 昭 司 関西大学教授
- 徳 井 淑 子 お茶の水女子大学名誉教授
- 永 井 由佳里 北陸先端科学技術大学院大学副学長・知識科学系長
- 長 野 哲 雄 東京大学名誉教授
- 中 牧 弘 允 吹田市立博物館長
- 長 峯 隆 札幌医科大学教授
- 降 矢 典 雄 東京都立産業技術高等専門学校教授
- 増 澤 徹 茨城大学教授
- 的 場 輝 佳 関西福祉科学大学客員教授
- 三 浦 伸 夫 神戸大学名誉教授

三輪佳見 宮崎大学教授  
 森健策 名古屋大学教授  
 八重樫良二 北海道教育大学教授  
 康永秀生 東京大学教授  
 山口しのぶ 東京工業大学教授  
 山口泰雄 神戸大学教授  
 山本泰彦 筑波大学教授  
 渡邊真紀子 首都大学東京教授

(総合人文社会)

(地域研究、ジェンダー、観光学)

飯嶋好彦 東洋大学教授  
 国広陽子 元東京女子大学教授  
 長澤榮治 東京大学教授  
 西野寿章 高崎経済大学教授

古畑徹 金沢大学教授  
 堀越宏一 早稲田大学教授  
 町田健 名古屋大学教授  
 峰岸真琴 東京外国語大学教授  
 宮崎里司 早稲田大学教授  
 村井美代子 三重短期大学学生部長  
 山本真鳥 法政大学教授  
 吉川真司 京都大学教授  
 和田英信 お茶の水女子大学教授

(人文学)

(哲学、芸術学、文学、言語学、史学、人文地理学、文化人類学)

青木康 立教大学教授  
 阿部隆夫 山形県立米沢女子短期大学教授  
 飯島一彦 獨協大学教授  
 石丸哲史 福岡教育大学教授  
 内田聖二 奈良大学教授  
 太田敬子 北海道大学教授  
 大貫隆 東京大学名誉教授  
 大豆生田 豊 東洋大学教授  
 岡野潔 九州大学教授  
 小佐野重利 東京大学教授  
 小野恭靖 大阪教育大学教授  
 垣内景子 明治大学教授  
 神山伸弘 跡見学園女子大学教授  
 河合靖 北海道大学教授  
 私市正年 上智大学教授  
 金水敏 大阪大学教授  
 氣多雅子 京都大学教授  
 小関武史 一橋大学教授  
 三枝孝司 九州産業大学教授  
 坂本貴志 立教大学教授  
 佐々木徹 京都大学教授  
 白水紀子 横浜国立大学教授  
 周藤芳幸 名古屋大学教授  
 高宮いづみ 近畿大学教授  
 田口紀子 京都大学教授  
 竹内美佳子 慶應義塾大学教授  
 田中雅一 京都大学教授  
 田端敏幸 千葉大学教授  
 塚原史 早稲田大学教授  
 寺田元一 名古屋市立大学教授  
 戸所隆 高崎経済大学名誉教授  
 長尾伸一 名古屋大学教授  
 中畑正志 京都大学教授  
 西尾哲夫 人間文化研究機構教授  
 深澤清治 広島大学教授  
 藤岡穰 大阪大学教授  
 古井戸秀夫 東京大学教授

(社会科学)

(法学、政治学、経済学、経営学、社会学、心理学、教育学)

安孫子勇一 近畿大学教授  
 安部由起子 北海道大学教授  
 池野範男 広島大学教授  
 石黒匡人 小樽商科大学教授  
 市川須美子 獨協大学教授  
 岩田健治 九州大学教授  
 宇井貴志 一橋大学教授  
 宇佐美誠 京都大学教授  
 江口勇治 筑波大学教授  
 大塚章男 筑波大学教授  
 大野節夫 同志社大学名誉教授  
 小野耕二 名古屋大学名誉教授  
 加賀美常美代 お茶の水女子大学教授  
 鬼頭宏 静岡県立大学長  
 木村琢磨 千葉大学教授  
 窪田好男 京都府立大学教授  
 久保野恵美子 東北大学教授  
 小泉順子 京都大学教授  
 児玉晴男 放送大学教授  
 児矢野マリ 北海道大学教授  
 小山静子 京都大学教授  
 齋藤真哉 横浜国立大学教授  
 沢宮容子 筑波大学教授  
 白取祐司 神奈川大学教授  
 杉本均 京都大学教授  
 高野和良 九州大学教授  
 只腰親和 中央大学教授  
 田中共子 岡山大学教授  
 谷崎久志 大阪大学教授  
 鄭仁豪 筑波大学教授  
 塚原修一 関西国際大学客員教授  
 照井伸彦 東北大学教授  
 中迫俊逸 中央大学教授  
 中島祥好 九州大学教授  
 中谷武雄 元京都橋大学教授  
 永野光朗 京都橋大学教授  
 中村秀之 立教大学教授

西井正弘 大阪女学院大学教授  
 根本敏則 一橋大学教授  
 秦野悦子 白百合女子大学教授  
 久本憲夫 京都大学教授  
 平岡公一 お茶の水女子大学教授  
 平本厚 東北大学名誉教授  
 星野一郎 広島大学教授  
 松澤伸 早稲田大学教授  
 松沢哲郎 京都大学特別教授  
 丸山恭司 広島大学教授  
 村山眞維 明治大学教授  
 森岡裕 富山大学教授  
 安江則子 立命館大学教授  
 柳憲一郎 明治大学教授  
 柳原光芳 名古屋大学教授  
 山口正二 東京電機大学教授  
 山下洋史 明治大学教授  
 山本努 熊本大学教授  
 湯浅恭正 中部大学教授  
 和田肇 名古屋大学教授

(総理工)

(ナノマテリアル科学、応用物理学、量子力学、計算科学)  
 岩田哲郎 徳島大学教授  
 及川英俊 東北大学教授  
 尾形修司 名古屋工業大学教授  
 小野浩司 長岡技術科学大学教授  
 柿本浩一 九州大学教授  
 作田誠 岡山大学教授  
 佐々木浩一 北海道大学教授  
 中野貴志 大阪大学核物理研究センター長  
 庭野道夫 東北大学教授  
 春山哲也 九州工業大学教授  
 山田明 東京工業大学教授  
 山田淳 九州大学教授  
 山田貴博 横浜国立大学教授  
 横田光広 富崎大学教授

(数物系科学)

(数学、天文学、物理学、地球惑星科学、プラズマ科学)

青木貴史 近畿大学教授  
 荒川政彦 神戸大学教授  
 石井守 情報通信研究機構宇宙環境研究室長  
 井龍康文 東北大学教授  
 嶋飼正敏 東京農工大学教授  
 太田香 津田塾大学教授  
 小澤徹 早稲田大学教授  
 小野靖 東京大学教授  
 尾畑伸明 東北大学教授  
 勝山智男 沼津工業高等専門学校教授  
 加藤直 首都大学東京教授  
 河村公隆 中部大学教授  
 木村学 東京海洋大学特任教授  
 金銅誠之 名古屋大学教授  
 佐伯修 九州大学教授  
 櫻井隆 自然科学研究機構名誉教授  
 佐藤夏雄 情報・システム研究機構名誉教授  
 佐野有司 東京大学教授  
 重川一郎 京都大学教授  
 柴橋博資 東京大学教授  
 杉本茂樹 京都大学教授  
 高橋正彦 東北大学教授  
 田近英一 東京大学教授  
 田中秀教 東京工業大学教授  
 棚部一成 東京大学総合研究博物館研究事業協力者  
 谷垣勝己 東北大学教授  
 田村要造 慶應義塾大学教授  
 出口哲生 お茶の水女子大学教授  
 寺崎一郎 名古屋大学教授  
 豊田浩孝 名古屋大学教授  
 永長直人 理化学研究所創発物性科学研究センター副センター長  
 馬場裕 横浜国立大学教授  
 福島孝治 東京大学准教授  
 前田吉昭 東北大学知の創出センター副センター長  
 松尾正之 新潟大学教授  
 山路敦 京都大学教授  
 山内恭 情報・システム研究機構特任教授

横山一己 茨城県自然博物館長  
 吉田次郎 東京海洋大学教授

(化学)

(基礎化学、複合化学、材料化学)

青井啓悟 名古屋大学教授  
 秋吉一成 京都大学教授  
 浅見真年 横浜国立大学教授  
 安蘇芳雄 大阪大学教授  
 阿部正彦 東京理科大学教授  
 新井充 東京大学教授  
 伊津野真一 豊橋技術科学大学教授  
 今中忠行 立命館大学上席研究員  
 梅本宏信 静岡大学教授  
 江幡孝之 広島大学教授  
 太田健一郎 横浜国立大学名誉教授  
 神戸宣明 大阪大学教授  
 岸尾光二 東京大学教授  
 河本邦仁 豊田理化学研究所フェロー  
 小林修 東京大学教授  
 斎藤礼子 東京工業大学准教授  
 鶴岡工業高等専門学校教授  
 築山光一 東京理科大学教授  
 堂免一成 東京大学教授  
 戸野倉賢一 東京大学教授  
 鍋島達弥 筑波大学教授  
 美齊津文典 東北大学教授  
 三原久和 東京工業大学教授  
 横山泰 横浜国立大学教授  
 吉田泰彦 東洋大学教授  
 渡邊正義 横浜国立大学教授  
 渡會仁 大阪大学招聘教授

(工学)

(機械工学、電気電子工学、土木工学、建築学、材料工学、プロセス・化学工学、総合工学)

相津佳永 室蘭工業大学教授  
 青柳秀紀 筑波大学教授  
 青柳学 室蘭工業大学教授  
 安藤朝夫 東北大学教授  
 井頭政之 東京工業大学教授  
 池田駿介 株式会社建設技術研究所研究顧問  
 上田良夫 大阪大学教授  
 植松康 東北大学教授  
 宇高義郎 天津大学教授、玉川大学客員教授  
 永村一雄 大阪市立大学教授  
 大熊政明 東京工業大学教授  
 奥山喜久夫 広島大学特任教授  
 小野隆 日本大学教授  
 小原拓 東北大学教授  
 尾原祐三 熊本大学教授  
 風間基樹 東北大学教授  
 柏木正 大阪大学教授  
 加藤大介 新潟大学教授  
 金子修 自然科学研究機構理事  
 金子勝比古 北海道科学技術総合振興センター幌延地圏環境研究所長  
 河井昌道 筑波大学教授  
 熊井真次 東京工業大学教授  
 小林秀昭 東北大学教授  
 小松登志子 埼玉大学名誉教授  
 酒井信介 東京大学特任教授  
 笹瀬巖 慶應義塾大学教授  
 篠崎賢二 広島大学教授  
 篠原寛明 富山大学教授  
 柴田正実 山梨大学教授  
 清水英範 東京大学教授  
 清水裕之 名古屋大学教授  
 鈴木真二 東京大学教授  
 高田光雄 京都大学教授  
 高橋浩之 東京大学教授  
 田中庸裕 京都大学教授  
 寺嶋一彦 豊橋技術科学大学副学長  
 東畑郁生 関東学院大学客員教授

長坂徹也 東北大学教授  
 永野紳一郎 金沢工業大学教授  
 新美智秀 名古屋大学教授  
 萩原一郎 明治大学特任教授  
 花村克悟 東京工業大学教授  
 原辰次 東京大学教授  
 福富洋志 横浜国立大学大学院工学研究院長・大学院工学府長・理工学部長  
 福原輝幸 広島工業大学教授  
 福本昌宏 豊橋技術科学大学教授  
 藤掛英夫 東北大学教授  
 藤川昌樹 筑波大学教授  
 牧島亮男 北陸先端科学技術大学院大学シニアプロフェッサー  
 松原英一郎 京都大学教授  
 松原雅昭 群馬大学教授  
 松村年郎 名古屋大学教授  
 松山公秀 九州大学教授  
 三浦孝一 京都大学特任教授  
 道奥康治 法政大学教授  
 南清和 東京海洋大学教授  
 宮道壽一 宇都宮大学名誉教授  
 村上章 京都大学教授  
 矢部彰 新エネルギー・産業技術総合開発機構技術戦略研究センターユニット長  
 山崎伸彦 九州大学教授  
 依田照彦 早稲田大学教授  
 米本年邦 秋田工業高等専門学校長

(総合生物)

(神経科学、実験動物学、腫瘍学、ゲノム科学、生物資源保全学)

石野史敏 東京医科歯科大学教授  
 稲垣宏 名古屋市立大学教授  
 上田龍 情報・システム研究機構特任教授  
 梅田泉 国立がん研究センター先端医療開発センターユニット長  
 菊池章 大阪大学教授  
 木山博資 名古屋大学教授  
 黒川峰夫 東京大学教授  
 高後裕 国際医療福祉大学病院消化器センター長  
 小林一三 東京大学名誉教授  
 坂本尚志 旭川医科大学教授  
 関野祐子 東京大学特任教授  
 園池公毅 早稲田大学教授  
 谷口寿章 徳島大学教授  
 中村卓郎 がん研究会・がん研究所副所長  
 那波宏之 新潟大学教授  
 古川貴久 大阪大学教授  
 本田浩章 広島大学教授  
 村上善則 東京大学医科学研究所長  
 村山美穂 京都大学教授  
 吉田進昭 東京大学教授  
 綿貫豊 北海道大学教授

(生物学)

(生物科学、基礎生物学、人類学)

齋場弘二 鈴鹿医療科学大学客員教授  
 石田肇 琉球大学教授  
 井上芳光 大阪国際大学教授  
 岩崎博史 東京工業大学教授  
 小川温子 お茶の水女子大学理事・副学長  
 角谷徹仁 情報・システム研究機構教授、東京大学教授  
 河田雅圭 東北大学教授  
 河野重行 東京大学教授  
 河村正二 東京大学教授  
 楠木正巳 山梨大学教授  
 斎藤成也 情報・システム研究機構教授  
 酒泉満 新潟大学教授  
 颯田葉子 総合研究大学院大学教授  
 藤博幸 関西学院大学教授  
 富岡憲治 岡山大学教授  
 豊島陽子 東京大学教授  
 仲嶋一範 慶應義塾大学教授  
 長濱嘉孝 愛媛大学教授  
 中村敏也 弘前大学教授  
 西田栄介 京都大学教授  
 沼田治 筑波大学教授  
 原田哲夫 高知大学教授  
 福山研二 自然環境研究センター客員研究員  
 藤本豊士 名古屋大学教授  
 真家生 大妻女子大学教授  
 町田泰則 名古屋大学名誉教授、名古屋大学理学研究科研究員  
 山本興太郎 北海道大学名誉教授  
 鷲谷いづみ 中央大学教授

(農学)

(生産環境農学、農芸化学、森林園科学、水圏応用科学、社会経済農学、農業工学、動物生命科学、境界農学)

赤坂 信 千葉大学名誉教授
明石 博 東京大学名誉教授
浅見 忠 男 東京大学教授
伊藤 房 雄 東北大学教授
今井 裕 京都大学教授
岩見 雅 史 金沢大学学長補佐
位田 晴 久 宮崎大学名誉教授
江口 充 近畿大学教授
小澤 壯 行 日本獣医生命科学大学教授
柿澤 宏 昭 北海道大学教授
北本 勝 心 日本薬科大学特任教授
鬼頭 誠 琉球大学教授
木村 吉 伸 岡山大学教授
黒田 慶 子 神戸大学教授
弦間 洋 東京農業大学教授
河野 博 東京海洋大学教授
小松 輝 久 東京大学准教授
酒井 憲 司 東京農工大学教授
佐藤 れ 子 岩手大学教授
柴田 昌 三 京都大学教授
下村 吉 治 名古屋大学教授
末原 達 郎 龍谷大学農学部学長
竹村 明 洋 琉球大学教授
種村 健 太郎 東北大学教授
柘植 尚 志 名古屋大学教授
堤 伸 浩 東京大学教授
富永 達 達 京都大学教授
鳥山 欽 哉 東北大学教授
永井 明 博 岡山大学名誉教授
野見山 敏 雄 東京農工大学教授
原島 俊 崇城大学教授
半澤 恵 東京農業大学教授
姫野 依 太 弘前大学教授
平井 伸 博 京都大学教授
廣岡 博 之 京都大学教授
福島 和 彦 名古屋大学教授

福島 道 広 帯広畜産大学教授
藤原 正 幸 京都大学教授
船田 良 東京農工大学教授
間藤 徹 京都大学教授
宮竹 貴 久 岡山大学教授
村上 克 介 三重大学教授
吉岡 俊 人 福井県立大学教授
吉村 徹 名古屋大学教授
渡邊 剛 志 新潟大学農学部学長

(医歯薬学)

(薬学、基礎医学、境界医学、社会医学、内科系臨床医学、外科系臨床医学、歯学、看護学)

青木 一 治 名古屋学院大学教授
青木 洋 介 佐賀大学教授
赤池 昭 紀 名古屋大学教授
浅井 友 詞 日本福祉大学教授
天野 篤 順天堂大学教授
有泉 祐 吾 静岡県立大学短期大学部学長
五十嵐 和 彦 東北大学教授
池田 俊 也 国際医療福祉大学教授
池田 充 名古屋大学教授
石井 直 人 東北大学教授
石川 義 弘 横浜市立大学教授
石津 明 洋 北海道大学教授
出原 賢 治 佐賀大学教授
市川 智 彦 千葉大学教授
市川 元 基 信州大学副学長
一山 智 京都大学教授
稲垣 美智子 金沢大学医薬保健研究域・保健学系長
稲澤 謙 治 東京医科歯科大学教授
井上 茂 東京医科大学主任教授
今井 輝 子 熊本大学特任教授
今中 雄 一 京都大学教授
岩波 明 昭和大学教授
上野 栄 一 福井大学教授
上村 公 一 東京医科歯科大学教授
江藤 宏 美 長崎大学教授
江西 一 成 星城大学教授
大浦 清 大阪歯科大学教授

大久保 公 裕 日本医科大学教授
太田 伸 生 東京医科歯科大学教授
太田 康 男 帝京大学教授
大橋 一 友 大阪大学教授
岡崎 睦 東京医科歯科大学教授
小野 稔 東京大学教授
賀来 満 夫 東北大学教授
梶山 美 明 順天堂大学教授
金澤 右 岡山大学教授
金子 公 一 埼玉医科大学教授
香春 知 永 武蔵野大学看護学部学長
川内 秀 之 島根大学教授
川浪 雅 光 北海道大学名誉教授
河野 文 昭 徳島大学教授
康 東 天 九州大学教授
北川 雄 光 慶應義塾大学教授
北村 和 雄 宮崎大学教授
木下 誠 帝京大学客員教授
京 哲 島根大学主任教授
黒瀬 等 九州大学教授
小西 かおる 大阪大学教授
小林 廉 毅 東京大学教授
崔 吉 道 金沢大学教授
斎藤 加代子 東京女子医科大学附属遺伝子医療センター所長
坂本 哲 也 帝京大学主任教授
朔 敬 大阪歯科大学客員教授
櫻井 薫 東京歯科大学教授
櫻井 英 幸 筑波大学教授
佐藤 伸 一 東京大学教授
真田 弘 美 東京大学教授
佐野 茂 樹 徳島大学教授
澤井 英 明 兵庫医科大学教授
重松 隆 和歌山県立医科大学教授
嶋田 昌 彦 東京医科歯科大学教授
下瀬川 正 幸 群馬県立県民健康科学大学教授
執印 太 郎 高知大学理事
塩 飽 仁 東北大学教授
進藤 正 信 北海道大学特任教授
末 永 カツ子 福島県立医科大学教授

菅野 健太郎 自治医科大学名誉教授
須田 直 人 明海大学教授
砂川 光 宏 東京医科歯科大学准教授
高須 清 誠 京都大学教授
高橋 哲 東北大学教授
高濱 洋 介 徳島大学教授
滝澤 始 杏林大学教授
竹内 勤 慶應義塾大学病院長・教授
田邊 勉 東京医科歯科大学教授
谷原 秀 信 熊本大学教授
塚田 敬 義 岐阜大学教授
辻 一 郎 東北大学教授
寺田 智 祐 滋賀医科大学教授・医学部附属病院薬剤部部長
土岐 祐 一郎 大阪大学教授
戸田 達 史 神戸大学教授
泊 祐 子 大阪医科大学教授
富澤 一 仁 熊本大学教授
豊澤 悟 大阪大学教授
中村 卓 長崎大学教授
中山 淳 信州大学教授
中山 哲 夫 北里生命科学研究所特任教授
南学 正 臣 東京大学教授
仁尾 正 記 東北大学教授
西牟田 守 東洋大学教授
丹羽 真 一 福島県保健福祉部保健医療推進監
丹羽 均 大阪大学教授
根本 則 道 日本大学教授
野上 誠 帝京大学教授
野中 和 明 九州大学教授
橋田 充 京都大学教授
羽田 明 千葉大学教授
服部 信 孝 順天堂大学教授
早川 和 一 金沢大学特任教授
林 美加子 大阪大学教授
日高 勝 美 九州歯科大学副学長
平田 雅 人 九州大学大学院歯学研究院長
藤井 清 徳島大学先端酵素学研究所次世代酵素学研究領域長
藤井 知行 東京大学教授
藤本 真 一 奈良県立医科大学教授

|       |                     |
|-------|---------------------|
| 船津高志  | 東京大学教授              |
| 別役智子  | 慶應義塾大学教授            |
| 堀井俊宏  | 大阪大学教授              |
| 米谷民雄  | 国立医薬品食品衛生研究所名誉所員    |
| 松崎勝巳  | 京都大学教授              |
| 松田兼一  | 山梨大学教授              |
| 松野兼彰  | 帝京大学主任教授            |
| 松原久裕  | 千葉大学教授              |
| 松村到   | 近畿大学教授              |
| 三浦修   | 東京医科歯科大学教授          |
| 水上元   | 公益財団法人高知県牧野記念財団理事長  |
| 水口裕之  | 大阪大学教授              |
| 水口雅   | 東京大学教授              |
| 宮崎俊一  | 近畿大学教授              |
| 宮本享   | 京都大学教授              |
| 村上晶   | 順天堂大学教授             |
| 村上正巳  | 群馬大学教授              |
| 持田智   | 埼玉医科大学教授            |
| 森田学   | 岡山大学教授              |
| 門川俊明  | 慶應義塾大学教授            |
| 安井正人  | 慶應義塾大学教授            |
| 矢富裕   | 東京大学教授              |
| 谷内一彦  | 東北大学サイクロトロン・RIセンター長 |
| 矢吹省司  | 福島県立医科大学教授          |
| 山蔭道明  | 札幌医科大学教授            |
| 山口正雄  | 帝京大学教授              |
| 山下孝之  | 群馬大学教授              |
| 山田雅夫  | 岡山大学教授              |
| 横手幸太郎 | 千葉大学教授              |
| 吉内一浩  | 東京大学准教授             |
| 吉田靖弘  | 北海道大学教授             |
| 萬知子   | 杏林大学主任教授            |
| 渡邊文彦  | 日本歯科大学教授            |
| 渡辺雅彦  | 北海道大学教授             |

# 1 教育研究評価に係るアンケート様式

支学機構評企第11号  
平成29年7月26日

別紙

各国立大学法人学長 殿  
各大学共同利用機関法人機構長 殿

独立行政法人大学改革支援・学位授与機構長  
福田 秀樹  
[ 公 印 省 略 ]

国立大学法人及び大学共同利用機関法人の第2期中期目標期間の  
教育研究評価に係るアンケートについて (依頼)

平素より、当機構における評価事業に対し、ご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。  
また、この度の国立大学法人及び大学共同利用機関法人の第2期中期目標期間の評価の  
実施に当たり、ご協力いただき重ねて御礼申し上げます。  
当機構においては、第2期中期目標期間の教育研究評価に係る事項について、より実質的な  
検証を行うため法人の評価への対応状況や教育研究評価のあり方に対するご意見を集約し、  
今後の評価システムの設計の参考にさせていただきたいと考えております。  
つきましては、別紙のとおりアンケート調査を実施いたしますので、ご多用のことと存じ  
ますが、何卒ご協力いただきますようお願い申し上げます。

**【本件連絡先】**

独立行政法人大学改革支援・学位授与機構  
評価事業部評価企画課法人評価第2係  
(担当：濱田、山谷、野人)  
〒187-8587 東京都小平市学園西町 1-29-1  
Tel:042-307-7910, 7911, 7912  
Fax:042-307-1622  
E-mail: houjin2@niad.ac.jp

大学等本部向け  
達成状況評価

「国立大学法人及び大学共同利用機関法人における教育研究の状況についての評価」

**教育研究の「中期目標の達成状況評価」に関する検証アンケート**

平素より、当機構における評価事業に対し、ご理解とご協力を賜りまして誠にありがとうございます。  
さて、当機構では、この度の国立大学法人及び大学共同利用機関法人の教育研究評価について、  
国立大学法人評価への対応状況や、今後の教育研究評価のあり方に対するご意見を集約し、将来の  
評価システムの設計の参考にさせていただきたいと考えております。  
つきましては、下記のとおりアンケート調査を実施しますので、ご多用のことと存じますが、何  
卒ご協力いただきますようお願い申し上げます。

**ご回答にあたってのお願い**

1. 本アンケートでは、当機構が実施した「国立大学法人及び大学共同利用機関法人（以下「大学等」という。）における教育研究の状況についての評価」のうち、「**中期目標の達成状況評価**」を中心にご意見を伺います。文部科学省の国立大学法人評価委員会が別途実施いたしました業務運営・財務内容等の評価や年度評価については本調査の対象外となります。
2. 学部・研究科等の「現況分析」については、本アンケートでも一部質問しますが、詳細には別途、現況分析に関するアンケートにてご回答いただきます。
3. 本アンケートは、大学等からの率直なご意見を伺い、今後の評価の改善に資することを目的に行います。そのため、貴大学等において**達成状況報告書を中心**にまとめられた方（評価担当学部長、評価室長等）に回答をお願いします。なお、**ご提出いただいた回答は法人名や個人名が特定されないよう処理いたします。**
4. 一法人一回答でお願いします。
5. 回答様式の色づけされた欄に回答を入力ください。黄色の回答欄では、プルダウンから回答を選択してください。また、自由記述欄で回答欄が不足する場合は、行の高さを調整してください。
6. 回答は、8月15日（水）正午までに提出をお願い申し上げます。

**●ご回答者について**

- ・ 貴大学等名： \_\_\_\_\_
- ・ ご所属（部局等）： \_\_\_\_\_
- ・ 役職（教授等）： \_\_\_\_\_
- ・ ご芳名： \_\_\_\_\_
- ・ ご回答者の評価に関する役職の名称（例：評価担当学部長、自己点検評価委員会委員長、評価室長等）： \_\_\_\_\_

1. 提出期限 平成29年8月15日（火）正午まで
2. 実施方法 下記3種類のアンケート（電子ファイル、共同利用機関法人は①③のみ）をご回答ください。

**①教育研究の「中期目標の達成状況評価」に関する検証アンケート**  
(法人単位で回答)

**②学部・研究科等の教育の「現況分析」に関する検証アンケート**

**③学部・研究科等の研究の「現況分析」に関する検証アンケート**

(②③のアンケートは学部・研究科等現況調査表の作成単位で回答)

3. 提出方法 各法人で上記アンケートを取り纏めいただき、zipファイルに圧縮の上、オンラインストレージにてご提出ください。なお、アンケートを送付いただく際には、以下の要領に従いファイル名を変更の上、ご提出願います。

**※数字及び\_(アンダーバー)は半角**

**zip ファイル名：(法人番号2桁\_法人名) 第2期教育研究評価に係るアンケート**  
(例) 99\_小平大学) 第2期教育研究評価に係るアンケート

- ① 教育研究の「中期目標の達成状況評価」に関する検証アンケート  
**ファイル名：達成\_法人番号2桁\_大学名**  
(例) 達成\_99\_小平大学
- ② 学部・研究科等の教育の「現況分析」に関する検証アンケート  
**ファイル名：現況\_教育\_法人番号2桁\_学部・研究科等番号2桁\_法人名\_学部・研究科等名**  
(例) 現況\_教育\_99\_01\_小平大学\_00\_学部
- ③ 学部・研究科等の研究の「現況分析」に関する検証アンケート  
**ファイル名：現況\_研究\_法人番号2桁\_学部・研究科等番号2桁\_法人名\_学部・研究科等名**  
(例) 現況\_研究\_99\_01\_小平大学\_00\_学部・00\_学研究科

4. その他 アンケート回答に当たっての留意事項をファイル内に記載しておりますので、ご参照の上、回答願います。

本アンケートでは、以下の5つの内容に大別して、お伺いします。  
I 貴大学等における「達成状況報告書」の作成作業について  
II 大学改革支援・学位授与機構による評価方法・評価結果について  
III 評価による貴大学等での効果・影響について  
IV 自己評価のための体制等について  
V 今後の評価のあり方について

**I 貴大学等における「達成状況報告書」の作成作業について**

**問1 達成状況報告書の形式や作成方法について**

(1) 達成状況報告書を作成された際、今回の達成状況報告書の形式や作成方法は適切と思われましたか。以下の項目ごとに当てはまる番号をご回答ください。

|   | 適切でなかった | あまり適切でなかった | どちらともいえない | おおむね適切であった | 適切であった | 回答 |
|---|---------|------------|-----------|------------|--------|----|
| a. 中期計画ごとに達成状況を記載すること。                                | 1       | 2          | 3         | 4          | 5      |    |
| b. 中期計画ごとに大学等が段階判定とその判断理由を記載すること。                     | 1       | 2          | 3         | 4          | 5      |    |
| c. 優れた点・改善を要する点等を大学等が判断して記載すること。                      | 1       | 2          | 3         | 4          | 5      |    |
| d. 個性の伸長に向けた取組に関連する中期計画を大学等が指定すること。                   | 1       | 2          | 3         | 4          | 5      |    |
| e. 中期計画に関連する学部・研究科等の「現況調査表」の分析項目・観点名等を達成状況報告書に記載すること。 | 1       | 2          | 3         | 4          | 5      |    |
| f. 中期計画に関連する「研究業績証明書」の研究業績番号等を達成状況報告書に記載すること。         | 1       | 2          | 3         | 4          | 5      |    |

(2) 今回の評価では、「戦略性が高く意欲的な目標・計画」は、計画どおり実施できていなくとも、プロセスや内容等を考慮し、判定することとしていました。「戦略性が高く意欲的な目標・計画」について、自己評価を行いやすかったですか。当てはまる番号をご回答ください。

|  | 行いやすかった | それほど行いやすかった | どちらともいえない | 行いやすかった | 行いやすかった | 回答 |
|--|---------|-------------|-----------|---------|---------|----|
|  | 1       | 2           | 3         | 4       | 5       |    |

(3) 達成状況報告書を作成された際、自己評価を行いたくない点がありましたか。以下の項目ごとに当てはまる番号をご回答ください。

|   | 当てはまらない | あまり当てはまらない | どちらともいえない | おおむね当てはまる | 回答 |
|---|---------|------------|-----------|-----------|----|
| a. 中期目標・計画の中に達成状況を自己評価しづらい点があった。                        | 1       | 2          | 3         | 4         | 5  |
| b. 大学等として重要な事項が中期目標・計画とは別に実施されており、現在の活動実態と適合しないところがあった。 | 1       | 2          | 3         | 4         | 5  |
| c. 自己評価における段階判定の基準が理解しづらかった。                            | 1       | 2          | 3         | 4         | 5  |

(4) 達成状況報告書の具体的な記載内容や、どのような根拠となる資料・データを示すかは、各大学等に委ねていました。このような方法によって、以下のような問題を感じましたか。項目ごとに当てはまる番号をご回答ください。

|                                  | 全くそう思わない | そう思わない | どちらともいえない | そう思う | 強くそう思う | 回答 |
|----------------------------------|----------|--------|-----------|------|--------|----|
| a. 活動や成果の記載内容に迷うことがあった。          | 1        | 2      | 3         | 4    | 5      |    |
| b. どの程度詳しく記載すべきか迷うことがあった。        | 1        | 2      | 3         | 4    | 5      |    |
| c. 根拠となる資料・データの内容や記載方法に迷うことがあった。 | 1        | 2      | 3         | 4    | 5      |    |

(5) 達成状況報告書の字数の上限は、達成状況報告書を作成する上で適切でしたか。当てはまる番号をご回答ください。

|  | 少なかつた | やや少なかつた | 適切であつた | やや多かつた | 多かつた | 回答 |
|--|-------|---------|--------|--------|------|----|
|  | 1     | 2       | 3      | 4      | 5    |    |

(6) 達成状況報告書の作成について、作成しやすかつた点や、作成が困難であつた点がありましたら、以下にご記入ください。

問2 参考資料「データ分析集」の活用について

今回の評価では「データ分析集」として、学生数や外部資金の推移などの定量的データを提供しました。

(1) 貴大学等では達成状況報告書を作成するにあたり、「データ分析集」を確認されましたか。当てはまる番号をご回答ください。

|  | 確認した | 確認しなかつた | 回答 |
|--|------|---------|----|
|  | 1    | 2       |    |

3

(2) 上の問いで「確認した」と回答された場合、達成状況報告書を作成する上で根拠となる資料・データとして参考にりましたか。当てはまる番号をご回答ください。

|  | 参考に<br>はなかつた | 参考に<br>はあつたが、<br>根拠となる資料・データはなかつた | 根拠となる資料・データとして参考に<br>はあつた | 根拠となる資料・データとして参考に<br>はあつたが、重要な情報になつた | 根拠となる資料・データとして参考に<br>はあつた | 回答 |
|--|--------------|-----------------------------------|---------------------------|--------------------------------------|---------------------------|----|
|  | 1            | 2                                 | 3                         | 4                                    | 5                         |    |

(3) (1)の問いで「確認した」と回答された場合、他大学等のデータや全大学等の傾向等の情報を参照されましたか。当てはまる番号をご回答ください。

|  | 他大学等のデータは確認しなかつた | 他大学等のデータは確認したが、参考になつた | 他大学等のデータは確認しなかつた | 他大学等のデータは確認したが、参考になつた | 他大学等のデータは確認しなかつた | 他大学等のデータは確認したが、参考になつた | 回答 |
|--|------------------|-----------------------|------------------|-----------------------|------------------|-----------------------|----|
|  | 1                | 2                     | 3                | 4                     | 5                |                       |    |

(4) 参考資料について、「データ分析集」へのご意見（たとえば、データ・指標項目、表示方法、提供時期等）や、大学等に提供することが必要な他の参考情報についてのご意見がありましたら、以下にご記入ください。

4

問3 貴大学等から提出した達成状況報告書について

提出した達成状況報告書について、どのような感想をお持ちですか。以下の項目ごとに当てはまる番号をご回答ください。

|  | 当てはまらない | あまり当てはまらない | どちらともいえない | おおむね当てはまる | 当てはまる | 回答 |
|--|---------|------------|-----------|-----------|-------|----|
| a. 中期目標・計画の達成状況を明確に記載することができた。         | 1       | 2          | 3         | 4         | 5     |    |
| b. 計画実施により得られた成果を明確に示すことができた。          | 1       | 2          | 3         | 4         | 5     |    |
| c. 評価するのに必要な根拠・データを達成状況報告書に記載することができた。 | 1       | 2          | 3         | 4         | 5     |    |
| d. 大学等の教育研究活動の実態をわかりやすく示すことができた。       | 1       | 2          | 3         | 4         | 5     |    |
| e. 優れた点や特色ある点をわかりやすく示すことができた。          | 1       | 2          | 3         | 4         | 5     |    |
| f. 改善を要する点をわかりやすく示すことができた。             | 1       | 2          | 3         | 4         | 5     |    |
| g. 一般社会の人にも理解しやすい達成状況報告書を作成することができた。   | 1       | 2          | 3         | 4         | 5     |    |
| h. 全体として、十分に自己評価を行うことができた。             | 1       | 2          | 3         | 4         | 5     |    |

5

II 大学改革支援・学位授与機構による評価面・評価結果について

問1 確認事項の照会・ヒアリングについて

(1) 今回の評価では、機構から大学等に確認事項の照会や資料提出の依頼を行った上で、対面又はテレビ会議システムの利用によるヒアリングを行いました。これらの方法について、適切だったと感じますか。以下の項目ごとに当てはまる番号をご回答ください。

|                             | 適切でなかつた | あまり適切でなかつた | どちらともいえない | おおむね適切であつた | 適切であつた | 回答 |
|-----------------------------|---------|------------|-----------|------------|--------|----|
| a. 確認事項の照会や資料提出の依頼の方法（時期や量） | 1       | 2          | 3         | 4          | 5      |    |
| b. 確認事項の照会や資料提出の依頼の内容       | 1       | 2          | 3         | 4          | 5      |    |
| c. ヒアリングの実施方法（時間や進行）        | 1       | 2          | 3         | 4          | 5      |    |
| d. ヒアリングにおける質疑応答の内容         | 1       | 2          | 3         | 4          | 5      |    |

(2) テレビ会議システムを用いたヒアリングを実施した大学等にお聞きします。ヒアリングでの質疑応答や意思疎通は適切に行うことができましたか。当てはまる番号をご回答ください。

|  | できなかつた | あまりできなかつた | どちらともいえない | おおむねできた | できた | 回答 |
|--|--------|-----------|-----------|---------|-----|----|
|  | 1      | 2         | 3         | 4       | 5   |    |

(3) 確認事項の照会やヒアリングについて、ご意見がありましたら、以下にご記入ください。

問2 意見の申立てについて

意見の申立ての結果について、ご意見がありましたら、以下にご記入ください。

6

問3 評価結果(評価報告書)について

平成29年6月に公表しました貴大学等の評価結果の内容について、全体的にどのように思われましたか。以下の項目ごとに当てはまる番号をご回答ください。

|   | 当てはまらない | あまり当てはまらない | どちらともおおよそ | 当てはまる | 回答 |
|---|---------|------------|-----------|-------|----|
| a. 貴大学等の中期目標・計画を踏まえていた。                   | 1       | 2          | 3         | 4     | 5  |
| b. 貴大学等の中期目標・計画の達成状況を反映していた。              | 1       | 2          | 3         | 4     | 5  |
| c. 貴大学等において中期目標・計画により得られた教育研究上の成果を反映していた。 | 1       | 2          | 3         | 4     | 5  |
| d. 段階判定結果は納得のいくものであった。                    | 1       | 2          | 3         | 4     | 5  |
| e. 判定結果の根拠は明確であった。                        | 1       | 2          | 3         | 4     | 5  |
| f. 総じて、貴大学等の中期目標・計画の達成状況が適正に評価された。        | 1       | 2          | 3         | 4     | 5  |

問4 第1期中期目標期間評価からの評価報告書構成の変更点について

第2期中期目標期間における評価では、評価報告書の構成を以下のように変更しました。これらの変更について、適切と思われましたか。以下の項目ごとに当てはまる番号をご回答ください。

|  | 適切でない | あまり適切でない | どちらともおおよそ | 適切である | 回答 |
|--|-------|----------|-----------|-------|----|
| a. 「特記すべき点」欄の「優れた点」、「特色ある点」、「改善を要する点」のうち主なものを「主な特記すべき点」欄に記載すること。 | 1     | 2        | 3         | 4     | 5  |
| b. 現況分析結果の「注目すべき質の向上」等の事項を関連する中項目の「優れた点」として記載すること。               | 1     | 2        | 3         | 4     | 5  |
| c. 中期計画ごとの「判定結果一覧表」を記載すること。                                      | 1     | 2        | 3         | 4     | 5  |

問5 評価報告書や評価結果について、ご意見がありましたら、以下にご記入ください。

<悪い効果・影響>

問3 他大学等の評価結果の分析状況について

他大学等の中期目標の達成状況に関する評価結果の内容の分析を行いましたか。当てはまる番号をご回答ください。

(1) 他大学等の評価結果の内容を分析しましたか。

| 分析した | 分析しなかった | 回答 |
|------|---------|----|
| 1    | 2       |    |

(2) 上の問いで「分析した」と回答された場合、分析した結果は役に立ちましたか。

| 役に立たなかった | あまり役に立たなかった | どちらともおおよそ | 役に立った | 役に立っていた | 回答 |
|----------|-------------|-----------|-------|---------|----|
| 1        | 2           | 3         | 4     | 5       |    |

Ⅲ 評価による貴大学等での効果・影響について

問1 評価の効果について

中期目標・計画に基づいて評価を行うことによって、貴大学等において以下の効果や影響があった(あるいは今後に顕在化する)と思われますか。項目ごとに当てはまる番号をご回答ください。

|                                     | 当てはまらない | あまり当てはまらない | どちらともおおよそ | 当てはまる | 回答 |
|-------------------------------------|---------|------------|-----------|-------|----|
| a. 貴大学等の中期目標・計画に基づく運営サイクルが確立できた。    | 1       | 2          | 3         | 4     | 5  |
| b. 教育研究の課題が把握できた。                   | 1       | 2          | 3         | 4     | 5  |
| c. 全体的にみて、教育活動が改善した。                | 1       | 2          | 3         | 4     | 5  |
| d. 全体的にみて、研究活動が改善した。                | 1       | 2          | 3         | 4     | 5  |
| e. 貴大学等の個性の伸長を促進できた。                | 1       | 2          | 3         | 4     | 5  |
| f. 教職員の間で大学等の目標や方向性が共有された。          | 1       | 2          | 3         | 4     | 5  |
| g. 執行部のリーダーシップが高まった。                | 1       | 2          | 3         | 4     | 5  |
| h. 社会に対し貴大学等の活動を説明することの重要性が学内に浸透した。 | 1       | 2          | 3         | 4     | 5  |
| i. 社会への説明責任が果たされた。                  | 1       | 2          | 3         | 4     | 5  |
| j. 大学等間の競争意識が生まれた。                  | 1       | 2          | 3         | 4     | 5  |

問2 評価結果の活用予定について

貴大学等において、今回の中期目標の達成状況に関する評価結果の具体的な活用の予定や、評価実施による良い効果・影響、悪い効果・影響がありましたら、以下にご記入ください。

<具体的な活用の予定>

<良い効果・影響>

Ⅳ 自己評価のための体制等について

問1 自己評価の体制・作業負担について

(1) 達成状況報告書の作成を開始した時期(各中期目標・計画の実施状況の記載を開始した時期)をご回答ください。

|    |    |   |    |
|----|----|---|----|
| 回答 | 平成 | 年 | 月頃 |
|----|----|---|----|

(2) 上の問いで回答された作成開始時期以降、達成状況報告書の作成作業を行った体制についてお聞きします。

① 自己評価委員会などの組織を設置して達成状況報告書の作成作業を行った場合、その大きな体制(組織構成および、それらの構成員数・達成状況報告書作成開始以降の作成のための会議の開催回数)を以下にご記入ください。

【記載例】自己評価委員会(10人、6回開催)、教育評価WG(10人、8回開催)、研究評価WG(10人、8回開催)

② 評価を主な職務として担当した教員・職員のうち、達成状況報告書の作成(現況調査表は除く)を担当したおおよねの人数について、フルタイム換算により分かる範囲でご回答ください(たとえば、達成状況報告書作成開始以降から提出までの職務の半分が報告書作成に関する業務であれば0.5人。フルタイム換算での回答がしづければ、人/日、人/月などの回答でも結構です)。

| 回答     |               | 人 |
|--------|---------------|---|
| 教員等    | 理事・副学長、評価室等の長 |   |
|        | 上記以外の教員       |   |
| 職員     | 部長、課長級        |   |
|        | 課長補佐、係長級      |   |
|        | 主任、係員級        |   |
|        | 事務補佐員等        |   |
| その他( ) |               |   |

(3) 達成状況報告書の作成において、大学等内でデータの収集や分析を行う専門的な部署や人員（IR、URA など）が関与しましたか。関与していた場合、中期目標の教育・研究・その他の目標ごとに、関与した専門部署名や専門人材の職名等を以下にご記入いただき、関与の程度を以下の5段階からご回答ください。

| 回答    | 中期目標              | 部署名、専門人材の職名等   | 関与の程度  |
|-------|-------------------|----------------|--------|
|       | 教育に関する目標          |                |        |
|       | 研究に関する目標          |                |        |
|       | その他の目標（社会連携・国際など） |                |        |
| 【記載例】 | 教育に関する目標          | IR室<br>URAセンター | 4<br>2 |

- 2割未満の中期計画についてデータ作成・分析に関与した
- 2～4割の中期計画についてデータ作成・分析に関与した
- 4～6割の中期計画についてデータ作成・分析に関与した
- 6～8割の中期計画についてデータ作成・分析に関与した
- 8割以上の中期計画についてデータ作成・分析に関与した

(4) 今回の達成状況報告書の作成に要した人員・時間は、国立大学法人評価の持つ意義を鑑みて、多かったですか、少なかったですか。当てはまる番号をご回答ください。

|      |        |        |         |       |    |
|------|--------|--------|---------|-------|----|
| 多かった | やや多かった | 適切であった | やや少なかった | 少なかった | 回答 |
| 1    | 2      | 3      | 4       | 5     |    |

(5) 学部・研究科等から本部に提出された教育・研究の現況調査表（研究業績説明書含む）について、本部において各現況調査表の記載内容の精査や調整を行いましたか。当てはまる番号をご回答ください。

|               |               |                  |                  |              |    |
|---------------|---------------|------------------|------------------|--------------|----|
| ほとんど行わなかった（含） | 一部のみ行った（2割未満） | ある程度行った（4割～6割未満） | おおむね行った（6割～8割未満） | 十分に行った（8割以上） | 回答 |
| 1             | 2             | 3                | 4                | 5            |    |

(6) 達成状況報告書の作成にかかる作業負担、あるいはその効率化の要因についてお聞きします。

① 作業を効率的に実施できた要因について、以下から当てはまるものを全て選んでください（複数選択可）。

- 大学等内に目標・計画の進捗管理のためのデータベースがあることで、効率的に作業できた。
- これまでの年度目標・計画の進捗状況を積み重ねることによって、効率的に作業できた。
- 目標・計画ごとに責任者が指定されていることで、効率的に作業できた。

② 上記以外に作業を効率的に実施できた要因、反対に作業負担が多くなった要因がありましたら、以下にご記入ください。

問2 機構による説明会（平成27年7月実施）について

達成状況報告書の作成方法や評価全体の進め方については、機構が実施した説明会により理解できましたか。当てはまる番号をご回答ください。

|              |              |           |           |       |    |
|--------------|--------------|-----------|-----------|-------|----|
| 参加して理解できなかった | 一部しか理解できなかった | どちらともいえない | おおむね理解できた | 理解できた | 回答 |
| 0            | 1            | 2         | 3         | 4     | 5  |

問3 実績報告書作成要領について

達成状況報告書の作成方法は、実績報告書作成要領により理解できましたか。当てはまる番号をご回答ください。

|          |              |           |           |       |    |
|----------|--------------|-----------|-----------|-------|----|
| 理解できなかった | 一部しか理解できなかった | どちらともいえない | おおむね理解できた | 理解できた | 回答 |
| 1        | 2            | 3         | 4         | 5     |    |

問4 評価作業の体制の課題（現況調査表作成を含む）や、機構による説明・問い合わせ対応など、作業全般についてお気づきの点がありましたら、以下にご記入ください。

**V 今後の評価のあり方について**

問1 今後の評価の方向性について  
第3期中期目標期間の国立大学法人評価では、評価実施の目的として、どのようなことを重視すべきとお考えですか。以下の項目ごとに当てはまる番号をご回答ください。

学部・研究科等向け  
現況分析【教育】

|   | 全くそう思わない | そう思わない | どちらともいえない | そう思う | 強くそう思う | 回答 |
|---|----------|--------|-----------|------|--------|----|
| a. 大学等の個性の伸長に、より寄与すべきである。   | 1        | 2      | 3         | 4    | 5      |    |
| b. 大学の短型（各国立大学法人の機能強化の方向性に<br>応じた運営費交付金に係る3つの重点支援枠など）<br>ごとの機能強化に、より寄与すべきである。 | 1        | 2      | 3         | 4    | 5      |    |
| c. 中期目標・計画の達成状況の報告による社会への説明責任に、より焦点をおくべきである。                                  | 1        | 2      | 3         | 4    | 5      |    |
| d. 大学等内の管理運営サイクルの向上に、より寄与すべきである。  | 1        | 2      | 3         | 4    | 5      |    |
| e. 教育・研究活動の質的向上に、より寄与すべきである。  | 1        | 2      | 3         | 4    | 5      |    |
| f. 大学等の教育研究の国際的水準や国際的競争力の向上に、より寄与すべきである。                                      | 1        | 2      | 3         | 4    | 5      |    |
| g. 大学等内における業務や組織の改廃の判断へ、より寄与すべきである。   | 1        | 2      | 3         | 4    | 5      |    |
| h. 運営費交付金の算定へ、より影響すべきである。   | 1        | 2      | 3         | 4    | 5      |    |
| i. 大学等への公的支出の意義の明確化に、より寄与すべきである。  | 1        | 2      | 3         | 4    | 5      |    |
| j. 大学等間の競争意識の向上に、より寄与すべきである。  | 1        | 2      | 3         | 4    | 5      |    |
| k. 大学等に対する他の評価との関係を含めて、評価内容を整理すべきである。   | 1        | 2      | 3         | 4    | 5      |    |

問2 今後の中期目標期間評価の方向性や評価方法のあり方について、ご意見がありましたら、以下にご記入ください。

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。

「国立大学法人及び大学共同利用機関法人における教育研究の状況についての評価」

**学部・研究科等の教育の「現況分析」に関する検証アンケート**

平素より、当機構における評価事業に対し、ご理解とご協力を賜りまして誠にありがとうございます。さて、当機構では、この度の国立大学法人及び大学共同利用機関法人の教育研究評価について、国立大学法人評価への対応状況や、今後の教育研究評価のあり方に対するご意見を集約し、将来の評価システムの設計の参考にさせていただきたいと考えております。つきましては、下記のとおりアンケート調査を実施しますので、ご多用のことと存じますが、何卒ご協力いただきますようお願い申し上げます。

**ご回答にあたってのお願い**

- 本アンケートでは、当機構が実施した、「国立大学法人及び大学共同利用機関法人（以下「大学等」という。）における教育研究の状況についての評価」のうち**学部・研究科等を対象とする現況分析**についてお問い合わせいたします。
- 回答は**現況調査表を提出した単位ごと**（学部の教育水準、研究科の教育水準、学部・研究科の研究水準など）にお願いたします。「教育の現況分析」と「研究の現況分析」では質問内容が一部異なりますので、該当するアンケート用紙にてご回答ください。
- 本アンケートは大学等からの率直なご意見を伺い、今後の評価の改善に資することを目的に行います。そのため、回答は貴学部・研究科等においてそれぞれの現況調査表を中心とまとめられた方（学部長・研究科長、評価委員長等）をお願いいたします。
- ご提出いただいた回答は、法人名・部署名や個人名が特定されないよう**に処理いたします。
- 回答様式のおつけられた欄に回答を入力ください。黄色の回答欄では、プルダウンから回答を選択してください。また、自由記述欄で回答欄が不足する場合は、行の高さを調整してください。
- 回答は、8月13日（水）正午までに提出をお願い申し上げます。

**●ご回答について**

- 貴大学等名： \_\_\_\_\_
- ご所属（部局等）： \_\_\_\_\_
- 役職（教授等）： \_\_\_\_\_
- ご芳名： \_\_\_\_\_
- 作成を担当された現況調査表の学部・研究科等名 \_\_\_\_\_

ご回答者の評価に関する役職の名称（例：学部長、研究科長、評価委員長）： \_\_\_\_\_

- 貴学部・研究科等の学系（当てはまる番号をご記入ください）
- 1.人文科学 2.社会科学 3.理学 4.工学 5.農学 6.保健 7.教育 8.総合科学（理系）
- 9.総合科学（文系） 10.総合科学（融合） 11.特定領域 12.大学共同利用機関

- 本アンケートでは、以下の5つの内容に大別して、お伺いします。
- I 貴学部・研究科等における「教育に関する現況調査表」の作成作業について
  - II 大学改革支援・学位授与機構による評価方法・評価結果について
  - III 評価による貴学部・研究科等の教育活動への効果・影響について
  - IV 自己評価のための体制等について
  - V 今後の評価のあり方について

I 貴学部・研究科等における「教育に関する現況調査表」の作成作業について

問1 現況調査表の形式や作成方法について

(1) 現況調査表では「想定する関係者とその期待」を記載し、学部・研究科等で想定する関係者の期待に比べているか、という視点で記載していただきました。このような方法で現況調査表を問題なく作成できましたか。当てはまる番号をご回答ください。

|                                   |                    |                   |                           |                   |    |
|-----------------------------------|--------------------|-------------------|---------------------------|-------------------|----|
| 作成しづ<br>らかった                      | やや作成<br>しづら<br>かった | どちらと<br>も言えな<br>い | おおむね<br>問題なく<br>作成でき<br>た | 問題なく<br>作成でき<br>た | 回答 |
| 1 ----- 2 ----- 3 ----- 4 ----- 5 |                    |                   |                           |                   |    |

(2) 現況調査表では、分析項目「I 教育活動の状況」、「II 教育成果の状況」の各観点、及び「質の向上度」ごとに記載していただきました。それぞれ項目について、記載は容易でしたか、難しかったですか。項目ごとに当てはまる番号をご回答ください。

|                                      |                                   |             |                   |                 |               |    |
|--------------------------------------|-----------------------------------|-------------|-------------------|-----------------|---------------|----|
| a. 「I 教育活動の状況」<br>教育実施体制<br>教育内容・方法  | 難し<br>かった                         | やや難<br>しかった | どちらと<br>も言えな<br>い | やや容<br>易だっ<br>た | 容<br>易だっ<br>た | 回答 |
| b. 「II 教育成果の状況」<br>学業の成果<br>進路・就職の状況 | 1 ----- 2 ----- 3 ----- 4 ----- 5 |             |                   |                 |               |    |
| c. 「質の向上度」                           | 1 ----- 2 ----- 3 ----- 4 ----- 5 |             |                   |                 |               |    |

(3) 現況調査表では、評価項目・観点ごとに具体的に何を記載するかや、どのような根拠となる資料・データを示すかは、各大学等に委ねていました。このことについて、項目ごとに当てはまる番号をご回答ください。

① このような方法により、貴学部・研究科等の個性的な取組を記載できたと思えますか。

|                                   |            |                       |          |                |    |
|-----------------------------------|------------|-----------------------|----------|----------------|----|
| 全くそ<br>う思わ<br>ない                  | そう思<br>わない | どちら<br>とも<br>言えな<br>い | そう思<br>う | 強くそ<br>う思<br>う | 回答 |
| 1 ----- 2 ----- 3 ----- 4 ----- 5 |            |                       |          |                |    |

② このような方法によって、以下のような問題を感じましたか。

|   |                                   |                       |          |                |    |
|---|-----------------------------------|-----------------------|----------|----------------|----|
| 全くそ<br>う思わ<br>ない                          | そう思<br>わない                        | どちら<br>とも<br>言えな<br>い | そう思<br>う | 強くそ<br>う思<br>う | 回答 |
| a. 活動や成果をどのように記載すればよいか迷うことがあった。           | 1 ----- 2 ----- 3 ----- 4 ----- 5 |                       |          |                |    |
| b. 根拠となる資料・データの内容や様式をどのようにすればよいか迷うことがあった。 | 1 ----- 2 ----- 3 ----- 4 ----- 5 |                       |          |                |    |

(4) 観点ごとに水準判定された際、実績報告書作成要領に記載された段階判定（「期待される水準を上回る」や「期待される水準にある」などの判定）の基準は明確でしたか。当てはまる番号をご回答ください。

|                                   |                        |                       |                            |                |    |
|-----------------------------------|------------------------|-----------------------|----------------------------|----------------|----|
| わかり<br>づら<br>かった                  | ややわ<br>かり<br>づら<br>かった | どちら<br>とも<br>言え<br>ない | おおむ<br>ね明<br>確で<br>あっ<br>た | 明確<br>であ<br>った | 回答 |
| 1 ----- 2 ----- 3 ----- 4 ----- 5 |                        |                       |                            |                |    |

(5) 現況調査表の字数の上限は、現況調査表を作成する上で適切でしたか。当てはまる番号をご回答ください。

|                                   |                 |               |                |          |    |
|-----------------------------------|-----------------|---------------|----------------|----------|----|
| 少な<br>かつ<br>た                     | やや少<br>なかつ<br>た | 適切<br>だっ<br>た | やや多<br>かつ<br>た | 多かつ<br>た | 回答 |
| 1 ----- 2 ----- 3 ----- 4 ----- 5 |                 |               |                |          |    |

(6) 現況調査表の作成について、作成しやすかった点や、作成が困難であった点がありましたら、以下にご記入ください。

問2 参考資料の活用について

(1) 学系ごとの「参考例」について

人文、社会、理学、工学、農学、保健、教育の7学系については、分野ごとの教育活動や成果の特徴を踏まえて、大学等が現況調査表に記載することが予想される取組や成果の事例を挙げた「参考例」を事前に公表しました。

[http://www.niad.ac.jp/n\\_shuppan/project/syoumail/](http://www.niad.ac.jp/n_shuppan/project/syoumail/)

① 現況調査表の作成にあたり、「参考例」は確認されましたか。当てはまる番号をご回答ください。

|                 |                 |    |
|-----------------|-----------------|----|
| 確認し<br>なかつ<br>た | 確認し<br>なかつ<br>た | 回答 |
| 1 ----- 2       |                 |    |

※該当する学系の「参考例」が公表されていない場合を含む

② 上の問いで「確認した」と回答された場合、以下から当てはまるものを全て選んでください（複数選択可）。

|                              |    |
|------------------------------|----|
| a. 事前に記載する取組や成果のイメージがついた。    | 回答 |
| b. 現況調査表に「参考例」を踏まえた記載をした。    |    |
| c. 観点ごとの段階判定をする際の参考になった。     |    |
| d. 例示の種類がより多ければ良いと感じた。       |    |
| e. 例示の数を少なくすると良いと感じた。        |    |
| f. 例示をより具体的にすると良いと感じた。       |    |
| g. 自学部・研究科等にふさわしい例示が少ないと感じた。 |    |

(2) 「データ分析集」について

① 今回の評価では「データ分析集」として、学生数や外部資金の推移などの定量的データを提供しました。現況調査表を作成するにあたり、「データ分析集」を確認されましたか。当てはまる番号をご回答ください。

|                 |                 |    |
|-----------------|-----------------|----|
| 確認し<br>なかつ<br>た | 確認し<br>なかつ<br>た | 回答 |
| 1 ----- 2       |                 |    |

② 上の問いで「確認した」と回答された場合、現況調査表を作成する上で根拠となる資料・データとして参考になりましたか。当てはまる番号をご回答ください。

|                                   |                         |                                       |                                       |    |
|-----------------------------------|-------------------------|---------------------------------------|---------------------------------------|----|
| 参考にな<br>る情報で<br>はあつ<br>た          | 根拠とな<br>る資料<br>があつ<br>た | 根拠とな<br>る資料・<br>データ<br>として<br>あつ<br>た | 根拠とな<br>る資料・<br>データ<br>として<br>あつ<br>た | 回答 |
| 参考にな<br>る情報で<br>はあつ<br>た          | 根拠とな<br>る資料<br>があつ<br>た | 根拠とな<br>る資料・<br>データ<br>として<br>あつ<br>た | 根拠とな<br>る資料・<br>データ<br>として<br>あつ<br>た |    |
| 1 ----- 2 ----- 3 ----- 4 ----- 5 |                         |                                       |                                       |    |

(3) 参考資料について、「参考例」、「データ分析集」へのご意見（たとえば、その内容や、提供時期・方法等）や、大学等に提供することが必要な他の参考情報についてのご意見がありましたら、以下にご記入ください。

問3 貴大学等から提出した現況調査表について

提出した現況調査表について、どのような感想をお持ちですか。以下の項目ごとに当てはまる番号をご回答ください。

|                                      |                                   |                            |                       |                           |                   |    |
|--------------------------------------|-----------------------------------|----------------------------|-----------------------|---------------------------|-------------------|----|
| a. 学部・研究科等の目的を明確に記載することができた。         | 当ては<br>まらな<br>い                   | あまり<br>当て<br>はま<br>らな<br>い | どちら<br>とも<br>言え<br>ない | おおむ<br>ねあ<br>ては<br>ま<br>る | あ<br>ては<br>ま<br>る | 回答 |
| b. 「想定する関係者の期待」を明確に記載することができた。       | 1 ----- 2 ----- 3 ----- 4 ----- 5 |                            |                       |                           |                   |    |
| c. 教育活動による成果を具体的に説明することができた。         | 1 ----- 2 ----- 3 ----- 4 ----- 5 |                            |                       |                           |                   |    |
| d. 教育活動の優れている点を具体的に説明することができた。       | 1 ----- 2 ----- 3 ----- 4 ----- 5 |                            |                       |                           |                   |    |
| e. 評価するのに必要な根拠・データを現況調査表に記載することができた。 | 1 ----- 2 ----- 3 ----- 4 ----- 5 |                            |                       |                           |                   |    |
| f. 一般社会の人にも理解しやすい現況調査表を作成することができた。   | 1 ----- 2 ----- 3 ----- 4 ----- 5 |                            |                       |                           |                   |    |
| g. 全体的に見て、現況調査表の完成度は満足できるものとなった。     | 1 ----- 2 ----- 3 ----- 4 ----- 5 |                            |                       |                           |                   |    |

**II 大学改革支援・学位授与機構による評価方法・評価結果について**

**問1 確認事項の照会について**

今回の評価では、評価者から大学等に確認事項の照会や資料提出の依頼を行いました。これらの方法について、適切だったと感じますか、以下の項目ごとに当てはまる番号をご回答ください。

|                             |         |            |           |        |        |    |
|-----------------------------|---------|------------|-----------|--------|--------|----|
|                             | 適切でなかった | あまり適切でなかった | どちらとも言えない | 適切であった | 適切であった | 回答 |
| a. 確認事項の照会や資料提出の依頼の方法（時期や量） | 1       | 2          | 3         | 4      | 5      |    |
| b. 確認事項の照会や資料提出の依頼の内容       | 1       | 2          | 3         | 4      | 5      |    |

**問2 評価結果（現況分析結果）について**

平成29年6月に公表しました貴学部・研究科等の評価結果（現況分析結果）の内容について、全体的にどのように思われましたか、以下の項目ごとに当てはまる番号をご回答ください。

|  |         |            |           |           |       |    |
|--|---------|------------|-----------|-----------|-------|----|
|  | 当てはまらない | あまり当てはまらない | どちらとも言えない | おおむね当てはまる | 当てはまる | 回答 |
| a. 貴学部・研究科等の目的を踏まえていた。                 | 1       | 2          | 3         | 4         | 5     |    |
| b. 貴学部・研究科等の教育の実態を反映していた。              | 1       | 2          | 3         | 4         | 5     |    |
| c. 各分析項目・観点の段階判定は納得のいくものであった。          | 1       | 2          | 3         | 4         | 5     |    |
| d. 観点を判断理由に書かれた内容（指摘点）は納得のいくものであった。    | 1       | 2          | 3         | 4         | 5     |    |
| e. 質の向上度の段階判定は納得のいくものであった。             | 1       | 2          | 3         | 4         | 5     |    |
| f. 質の向上度の判断理由に書かれた内容（指摘点）は納得のいくものであった。 | 1       | 2          | 3         | 4         | 5     |    |
| g. 全体的に、適正に評価された。                      | 1       | 2          | 3         | 4         | 5     |    |

**問3 評価報告書や評価結果について、ご意見がありましたら、以下にご記入ください。**

**III 評価による貴学部・研究科等の教育活動への効果・影響について**

**問1 評価の効果について**

今回行った、教育の現況を自己分析して報告し、外部者の評価を受けるという一連の過程によって、貴学部・研究科等において以下の効果や影響があった（あるいは今後に顕在化する）と思われますか、項目ごとに当てはまる番号をご回答ください。

|                                   |         |            |           |           |       |    |
|-----------------------------------|---------|------------|-----------|-----------|-------|----|
|                                   | 当てはまらない | あまり当てはまらない | どちらとも言えない | おおむね当てはまる | 当てはまる | 回答 |
| a. 教育・学習の成果を重視するようになった。           | 1       | 2          | 3         | 4         | 5     |    |
| b. 教育活動の質保証体制を構築した。               | 1       | 2          | 3         | 4         | 5     |    |
| c. 教育内容の体系性を意識するようになった。           | 1       | 2          | 3         | 4         | 5     |    |
| d. 特色ある取り組みを促進した。                 | 1       | 2          | 3         | 4         | 5     |    |
| e. 学生のニーズを踏まえた教育を行うようになった。        | 1       | 2          | 3         | 4         | 5     |    |
| f. 教育活動の今後の課題を把握できた。              | 1       | 2          | 3         | 4         | 5     |    |
| g. 教職員の間で教育活動についての組織的な方向性が共有された。  | 1       | 2          | 3         | 4         | 5     |    |
| h. 学部長・研究科長等のリーダーシップが高まった。        | 1       | 2          | 3         | 4         | 5     |    |
| i. 社会に対し大学等の教育活動を説明することの重要性が浸透した。 | 1       | 2          | 3         | 4         | 5     |    |
| j. 学部・研究科や学科・専攻等の部局間の競争意識が高まった。   | 1       | 2          | 3         | 4         | 5     |    |
| k. 大学等間の競争意識が生まれた。                | 1       | 2          | 3         | 4         | 5     |    |
| l. 全体的に見て、教育活動の改善に寄与した。           | 1       | 2          | 3         | 4         | 5     |    |

**問2 評価結果の活用予定について**

貴学部・研究科等において、今回の現況分析結果の具体的な活用の予定や、評価実施による良い効果・影響、悪い効果・影響がありましたら、以下にご記入ください。

<具体的な活用の予定>

<良い効果・影響>

<悪い効果・影響>

**問3 他大学等の評価結果の分析状況について**

同一学系内の他大学等の学部・研究科等について、評価結果（現況分析結果）の内容の分析を行いましたか。当てはまる番号をご回答ください。

(1) 他大学等の評価結果の内容を分析しましたか。

|   |         |      |    |
|---|---------|------|----|
|   | 分析しなかった | 分析した | 回答 |
| 1 | 2       |      |    |

(2) 上の問いで「分析した」と回答された場合、分析した結果は役に立ちましたか。

|   |          |             |           |       |       |    |
|---|----------|-------------|-----------|-------|-------|----|
|   | 役に立たなかった | あまり役に立たなかった | どちらとも言えない | 役に立った | 役に立った | 回答 |
| 1 | 2        | 3           | 4         | 5     |       |    |

**IV 自己評価のための体制等について**

**問1 自己評価の体制・作業負担について**

(1) 教育に関する現況調査表の作成（各分析項目・観点の記載）を開始した時期をご回答ください。

|    |    |   |    |
|----|----|---|----|
| 回答 | 平成 | 年 | 月頃 |
|----|----|---|----|

(2) 上の問いで回答された作成開始時期以降、教育に関する現況調査表の作成作業を行った体制についてお聞きます。

① 学部・研究科等内に自己評価委員会などの組織を設置して現況調査表の作成作業を行った場合、その大きな体制（組織構成および、それらの構成員数・現況調査表作成に係る会議の開催回数）を以下にご記入ください。

【記載例】○学部自己評価委員会（10人、6回開催）、教育評価G（10人、8回開催）

② 貴学部・研究科等の現況調査表の作成を主な職務として担当した教員・職員のうち、教育に関する現況調査表の作成（達成状況報告書は除く）を担当したおおよねの人数について、フルタイム換算により分かる範囲でご回答ください（たとえば、現況調査表作成開始以降から提出までの職務の半分が、教育の現況調査表作成に関する業務であれば、0.5人。フルタイム換算での回答がしづらければ、人/日、人/月などの回答でも結構です）。

|        |          |               |   |
|--------|----------|---------------|---|
| 回答     | 教員等      | 理事・副学長、評価室等の長 | 人 |
|        |          | 学部長・研究科長等     | 人 |
|        |          | 副学部長・副研究科長等   | 人 |
|        |          | 上記以外の教員       | 人 |
| 職員     | 部長、課長級   | 人             |   |
|        | 課長補佐、係長級 | 人             |   |
|        | 主任、係員級   | 人             |   |
|        | 事務補佐員等   | 人             |   |
| その他（ ） |          | 人             |   |

(3) 教育に関する現況調査表の作成において、大学等内あるいは部局内において教育に関するデータの収集・分析を行う専門的な部署や人員（IRなど）が関与したか、関与していた場合、関与した専門部署名や専門人材の職名等を以下にご記入いただき、関与の程度を以下の5段階からご回答ください。

| 回答    | 部署名、専門人材の職名等    | 関与の程度  |
|-------|-----------------|--------|
|       |                 |        |
|       |                 |        |
| 【記載例】 | IR室<br>教育開発センター | 4<br>2 |

- 2割未満の記載についてデータ作成・分析に関与した
- 2～4割の記載についてデータ作成・分析に関与した
- 4～6割の記載についてデータ作成・分析に関与した
- 6～8割の記載についてデータ作成・分析に関与した
- 8割以上の記載についてデータ作成・分析に関与した

(4) 今回の現況調査表の作成に要した人員・時間は、国立大学法人評価の持つ意義を鑑みて、多かったですか、少なかったですか。当てはまる番号をご回答ください。

| 回答                                |
|-----------------------------------|
| 1 ..... 2 ..... 3 ..... 4 ..... 5 |

(5) 今回の現況調査表の作成作業を効率的に実施できた要因、反対に作業負担が多くなった要因がありましたら、以下にご記入ください。

問2 実績報告書作成要領について

現況調査表の作成方法は、実績報告書作成要領により理解できましたか、当てはまる番号をご回答ください。

| 回答                                |
|-----------------------------------|
| 1 ..... 2 ..... 3 ..... 4 ..... 5 |

問3 評価の作業全般について、お気づきの点がありましたら、以下にご記入ください。

V 今後の評価のあり方について

問1 今後の評価の方向性について

第3期中期目標期間の国立大学法人評価では、どのような評価のあり方を望まれますか、以下の項目ごとに当てはまる番号をご回答ください。

|  | 全く思わない | そう思わない | どちらとも思えない | どちらとも思う | 強く思う | 回答 |
|--|--------|--------|-----------|---------|------|----|
| a. 今後も各学系（分野）の大学教員を中心とする評価者が現況調査表を評価する方法で実施すべきである。 | 1      | 2      | 3         | 4       | 5    |    |
| b. 現況調査表に共通的に記載すべき内容を定めるべきである。                     | 1      | 2      | 3         | 4       | 5    |    |
| c. 共通的に設定したデータ・指標をより用いた評価とすべきである。                  | 1      | 2      | 3         | 4       | 5    |    |
| d. 学系（分野）ごとの記載項目や評価基準をより明確にすべきである。                 | 1      | 2      | 3         | 4       | 5    |    |
| e. 現況調査表の分量をより少なくすべきである。                           | 1      | 2      | 3         | 4       | 5    |    |
| f. 評価報告書の分量をより少なくすべきである。                           | 1      | 2      | 3         | 4       | 5    |    |
| g. 評価報告書に詳細な結果を記載することが必要である。                       | 1      | 2      | 3         | 4       | 5    |    |
| h. 評価報告書に評価者による改善提案等のコメントを記載すべきである。                | 1      | 2      | 3         | 4       | 5    |    |

問2 今後の現況分析のあり方について、ご意見がありましたら、以下にご記入ください。

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。

| 回答                                |
|-----------------------------------|
| 1 ..... 2 ..... 3 ..... 4 ..... 5 |

学部・研究科等向け  
現況分析「研究」

「国立大学法人及び大学共同利用機関法人における教育研究の状況についての評価」

学部・研究科等の研究の「現況分析」に関する検証アンケート

平素より、当機構における評価事業に対し、ご理解とご協力を賜りまして誠にありがとうございます。

さて、当機構では、この度の国立大学法人及び大学共同利用機関法人の教育研究評価について、国立大学法人評価への対応状況や、今後の教育研究評価のあり方に対するご意見を集約し、将来の評価システムの設計の参考にさせていただきたいと考えております。

つきましては、下記のとおりアンケート調査を実施しますので、ご多用のことと存じますが、何卒ご協力いただきますようお願い申し上げます。

ご回答にあたってのお願い

- 本アンケートでは、当機構が実施した、「国立大学法人及び大学共同利用機関法人（以下「大学等」という。）における教育研究の状況についての評価」のうち**学部・研究科、研究所、センターなど（以下「学部・研究科等」という。）を対象とする現況分析**についてお伺いします。
- 回答は**現況調査表を提出した単位ごと**に（学部の教育水準、研究科の教育水準、学部・研究科の研究水準など）をお願いいたします。「教育の現況分析」と「研究の現況分析」では質問内容が一部異なりますので、該当するアンケート用紙にてご回答ください。
- 本アンケートは大学等からの率直なご意見を伺い、今後の評価の改善に資することを目的に行います。そのため、回答は貴学部・研究科等において**それぞれの現況調査表を中心的にまとめた方**（学部長・研究科長、評価委員長等）をお願いいたします。
- ご提出いただいた回答は、法人名・部局名や個人名が特定されないよう**に処理いたします。
- 回答様式の色づけされた欄に回答を入力ください。黄色の回答欄では、プルダウンから回答を選択してください。また、自由記述欄で回答欄が不足する場合は、行の高さを調整してください。
- 回答は、8月15日（水）正午までにご提出お願い申し上げます。

●ご回答者について

- 貴大学等名： \_\_\_\_\_
- ご所属（部局等）： \_\_\_\_\_
- 役職（教授等）： \_\_\_\_\_
- ご芳名： \_\_\_\_\_
- 作成を担当された現況調査表の学部・研究科等名 \_\_\_\_\_

ご回答者の評価に関する役職の名称（例：学部長、研究科長、評価委員長）： \_\_\_\_\_

貴学部・研究科等の学系（当てはまる番号をご記入ください）

1. 人文科学 2. 社会科学 3. 理学 4. 工学 5. 農学 6. 保健 7. 教育 8. 総合科学（理系）

9. 総合科学（文系） 10. 総合科学（融合） 11. 特定領域 12. 大学共同利用機関

本アンケートでは、以下の5つの内容に大別して、お伺いします。

- I 貴学部・研究科等における「研究に関する現況調査表」の作成作業について
- II 大学改革支援・学位授与機構による評価方法・評価結果について
- III 評価による貴学部・研究科等の研究活動への効果・影響について
- IV 自己評価のための体制等について
- V 今後の評価のあり方について

I 貴学部・研究科等における「研究に関する現況調査表」の作成作業について

問1 現況調査表の作成方法について

(1) 現況調査表では「想定する関係者とその期待」を記載し、学部・研究科等で**想定する関係者の期待に込めているか**、という観点で記載していただきました。このような方法で現況調査表を問題なく作成できましたか。当てはまる番号をご回答ください。

| 回答                                |
|-----------------------------------|
| 1 ..... 2 ..... 3 ..... 4 ..... 5 |

(2) 現況調査表では、分析項目「I 研究活動の状況」、「II 研究成果の状況」の各観点、及び「質の向上度」ごとに記載していただきました。それぞれの項目について、**記載は容易でしたか**、**難しかった**か。項目ごとに当てはまる番号をご回答ください。

|   | 難しかった | やや難しかった | どちらとも思えない | やや容易だった | 容易だった | 回答 |
|---|-------|---------|-----------|---------|-------|----|
| a. 「I 研究活動の状況」<br>研究活動の状況<br>共同利用・共同研究の実施状況 | 1     | 2       | 3         | 4       | 5     |    |
| b. 「II 研究成果の状況」<br>研究成果の状況                  | 1     | 2       | 3         | 4       | 5     |    |
| c. 「質の向上度」                                  | 1     | 2       | 3         | 4       | 5     |    |

(3) 現況調査表では、評価項目・観点ごとに**具体的に何を記載するか**や、**どのような指標となる資料・データを示すか**は、各大学等に委ねていました。このことについて、項目ごとに当てはまる番号をご回答ください。

① このような方法により、貴学部・研究科等の個性的な取組を記載できたと感じましたか。

| 回答                                |
|-----------------------------------|
| 1 ..... 2 ..... 3 ..... 4 ..... 5 |

② このような方法によって、以下のような問題を感じられましたか。

|   |                    |               |             |            |    |
|---|--------------------|---------------|-------------|------------|----|
|   | 全くもうそう思わない<br>思わない | どちらとも<br>いえない | どちらとも<br>思う | 強くそう<br>思う | 回答 |
| a. 活動や成果をどのように記載すればよいか迷うことがあった。           | 1                  | 2             | 3           | 4          | 5  |
| b. 根拠となる資料・データの内容や様式をどのようにすればよいか迷うことがあった。 | 1                  | 2             | 3           | 4          | 5  |

(4) 観点ごとに水準判定された際、実績報告書作成要領に記載された段階判定（「期待される水準を上回る」や「期待される水準にある」などの判定）の基準は明確でしたか。当てはまる番号をご回答ください。

|              |                    |                   |                    |            |    |
|--------------|--------------------|-------------------|--------------------|------------|----|
| わかりづ<br>らかった | ややわか<br>りづら<br>かった | どちらと<br>も言えな<br>い | おおむね<br>明確で<br>あった | 明確で<br>あった | 回答 |
| 1            | 2                  | 3                 | 4                  | 5          |    |

(5) 現況調査表の字数の上限は、現況調査表を作成する上で適切でしたか。当てはまる番号をご回答ください。

|           |             |           |            |          |    |
|-----------|-------------|-----------|------------|----------|----|
| 少なかつ<br>た | やや少な<br>かった | 適切だ<br>った | やや多<br>かった | 多かつ<br>た | 回答 |
| 1         | 2           | 3         | 4          | 5        |    |

(6) 現況調査表の作成について、作成しやすかった点や、作成が困難であった点がありましたら、以下にご記入ください。

## 問2 研究業績説明書について

(1) 今回の研究業績説明書では、論文等ごとの提出ではなく、1つの「研究業績」に代表的な研究成果（論文等）を最大3つまで記載する方式をとり、「研究業績」を単位として提出していただきました。この方法で研究業績説明書を作成しづらい点がありましたか。当てはまる番号をご回答ください。作成しづらい点があった場合は、具体的な内容もご記入ください。

|                     |                      |    |
|---------------------|----------------------|----|
| 作成しづ<br>らい点があ<br>った | 作成しづ<br>らい点は<br>なかった | 回答 |
| 1                   | 2                    |    |

作成しづらい点があった場合、具体的な内容を以下にご記入ください。

3

② 社会、経済、文化的意義について、「SS」、「S」、「S未満」の間の判断はしやすかったですか。提出した研究業績の中で確信をもって判定を下すことができた割合を以下の5段階からご回答ください。

|   |   |   |   |   |    |
|---|---|---|---|---|----|
| 2割未満<br>の業績で<br>みに確信<br>をもって<br>判断を下<br>すことが<br>できた | 2~4割<br>の業績で<br>みに確信<br>をもって<br>判断を下<br>すことが<br>できた | 4~6割<br>の業績で<br>確信を<br>もって判<br>断を下す<br>ことが<br>できた | 6~8割<br>の業績で<br>確信を<br>もって判<br>断を下す<br>ことが<br>できた | 8割以上<br>の業績で<br>確信を<br>もって判<br>断を下す<br>ことが<br>できた | 回答 |
| 1   | 2   | 3   | 4   | 5   |    |

(4) 第1期中目標期間の国立大学法人評価では、各研究業績の意義について「学術的意義」と「社会、経済、文化的意義」のどちらか一方から選択することを求めています。今回の評価では、各研究業績で両方の意義を同時に選択することも可能となりました。それにより研究業績説明書は作成しやすかったですか。作成しづらかったですか。当てはまる番号をご回答ください。

|              |                    |                   |                      |              |    |
|--------------|--------------------|-------------------|----------------------|--------------|----|
| 作成しづ<br>らかった | やや作成<br>しづら<br>かった | どちらと<br>も言えな<br>い | おおむね<br>作成しや<br>すかった | 作成しや<br>すかった | 回答 |
| 1            | 2                  | 3                 | 4                    | 5            |    |

(5) 今回の研究業績説明書の作成において、特に困難であった点や、適切であったと思われる点がありましたら、以下にご記入ください。

## 問3 参考資料の活用について

(1) 学系ごとの「参考例」について

人文、社会、理学、工学、農学、保健、教育の7学系については、分野ごとの研究活動や成果の特徴を踏まえて、大学等が現況調査表に記載することが予想される取組や成果の事例を挙げた「参考例」を事前に公表した。

[http://www.niad.ac.jp/n\\_shuppan/project/syousai/](http://www.niad.ac.jp/n_shuppan/project/syousai/)

① 現況調査表の作成にあたり、「参考例」は確認されましたか。当てはまる番号をご回答ください。

|      |             |    |
|------|-------------|----|
| 確認した | 確認しな<br>かった | 回答 |
| 1    | 2           |    |

\*該当する学系の「参考例」が公表されていない場合を含む

5

(2) 研究業績説明書では、各研究業績について「SS」あるいは「S」と判断した根拠を第三者による評価結果や客観的指標に基づいて記載していただきました。

① 「学術的意義」を有すると判断した研究業績について、根拠を十分に記載できましたか。提出した業績の中で根拠を十分に記載できたと思う割合を以下の5段階からご回答ください。

|                             |                       |                              |                      |                      |    |
|-----------------------------|-----------------------|------------------------------|----------------------|----------------------|----|
| 非常に少<br>なかつた<br>(~2割未<br>満) | 少なかつ<br>た(2~4<br>割未満) | ある程度<br>あった(4<br>割~6割未<br>満) | 多かった<br>(6~8割未<br>満) | 非常に多<br>かった(8<br>割~) | 回答 |
| 1                           | 2                     | 3                            | 4                    | 5                    |    |

② 「社会、経済、文化的意義」を有すると判断した研究業績について、根拠を十分に記載できましたか。提出した業績の中で根拠を十分に記載できたと思う割合を以下の5段階からご回答ください。

|                             |                       |                              |                      |                      |    |
|-----------------------------|-----------------------|------------------------------|----------------------|----------------------|----|
| 非常に少<br>なかつた<br>(~2割未<br>満) | 少なかつ<br>た(2~4<br>割未満) | ある程度<br>あった(4<br>割~6割未<br>満) | 多かった<br>(6~8割未<br>満) | 非常に多<br>かった(8<br>割~) | 回答 |
| 1                           | 2                     | 3                            | 4                    | 5                    |    |

(3) 研究業績の選定に際しては、「学術的意義」および/あるいは「社会、経済、文化的意義」について、「SS」あるいは「S」に該当する研究業績を選定していただきました。

| 区分 | 学術的意義                                      | 社会、経済、文化的意義                                 |
|----|--|---|
| SS | 当該分野において、 <u>卓越した水準</u> <sup>(1)</sup> にある | 社会、経済、文化への <u>貢献が卓越</u> <sup>(2)</sup> している |
| S  | 当該分野において、 <u>優秀な水準</u> <sup>(1)</sup> にある  | 社会、経済、文化への <u>貢献が優秀</u> <sup>(2)</sup> である  |

注1)  
 ・「卓越した水準 (SS)」とは、研究業績の独創性、新規性、発展性、有用性、他分野への貢献などの点において、客観的指標等から判断して、当該分野で学術的に最も優れた研究の一つであると認められ、当該分野ないし関連する分野において極めて重要な影響をもたらしている水準にあることを指します。  
 ・「優秀な水準 (S)」とは、SSにまでは至らないが、当該分野で学術的に優れた研究の一つであると認められ、当該分野ないし関連する分野において重要な影響をもたらしている水準にあることを指します。

注2)  
 ・「貢献が卓越 (SS)」とは、以下の領域において、客観的指標等から判断して、極めて重要な影響や極めて幅広い影響をもたらしている水準にあることを指します。  
 ・「貢献が優秀 (S)」とは、SSにまでは至らないが、重要な影響や幅広い影響をもたらしている水準にあることを指します。

① 学術的意義について、「SS」、「S」、「S未満」の間の判断はしやすかったですか。提出した研究業績の中で確信をもって判定を下すことができた割合を以下の5段階からご回答ください。

|   |   |   |   |   |    |
|---|---|---|---|---|----|
| 2割未満<br>の業績で<br>みに確信<br>をもって<br>判断を下<br>すことが<br>できた | 2~4割<br>の業績で<br>みに確信<br>をもって<br>判断を下<br>すことが<br>できた | 4~6割<br>の業績で<br>確信を<br>もって判<br>断を下す<br>ことが<br>できた | 6~8割<br>の業績で<br>確信を<br>もって判<br>断を下す<br>ことが<br>できた | 8割以上<br>の業績で<br>確信を<br>もって判<br>断を下す<br>ことが<br>できた | 回答 |
| 1   | 2   | 3   | 4   | 5   |    |

4

② 上の問いで「確認した」と回答された場合、以下から当てはまるものを全て選んでください（複数選択可）。

|                              |
|------------------------------|
| 回答                           |
| a. 事前に記載する取組や成果のイメージがついた。    |
| b. 現況調査表に「参考例」を踏まえた記載をした。    |
| c. 観点ごとの段階判定をする際の参考になった。     |
| d. 例示の種類がより多ければ良いと感じた。       |
| e. 例示の数を少なくすると良いと感じた。        |
| f. 例示をより具体的にすると良いと感じた。       |
| g. 自学部・研究科等にふさわしい例示が少ないと感じた。 |

③ 「参考例」には、研究業績説明書を作成する際に参考にし得るよう「卓越した研究業績の根拠・データ例」を記載していただきました。研究業績説明書の作成において参照されましたか。当てはまる番号をご回答ください。

|      |             |    |
|------|-------------|----|
| 参照した | 参照しな<br>かった | 回答 |
| 1    | 2           |    |

④ 上の問いで「参照した」と回答された場合、以下から当てはまるものを全て選んでください（複数選択可）。

|  |
|--|
| 回答   |
| a. 事前に根拠データのイメージがついた。                      |
| b. 多様な根拠データがありうることが理解できた。                  |
| c. 例示の種類がより多ければ良いと感じた。                     |
| d. 例示をより限定すると良いと感じた。                       |
| e. 選定した研究業績の細目に適した根拠データの例示が少ないと感じた。        |
| f. 根拠データ例ごとに「SS」、「S」、「S未満」の判定基準の提示が必要と感じた。 |

6

(2) 「データ分析集」について

① 今回の評価では「データ分析集」として、学生数や外部資金の推移などの定量的データを提供しました。現況調査表を作成するにあたり、「データ分析集」を確認されましたか、当てはまる番号をご回答ください。

|      |         |    |
|------|---------|----|
| 確認した | 確認しなかった | 回答 |
| 1    | 2       |    |

② 上の問いで「確認した」と回答された場合、現況調査表を作成する上で根拠となる資料・データとして参考になりましたか、当てはまる番号をご回答ください。

|           |                                    |                       |                  |                           |    |
|-----------|------------------------------------|-----------------------|------------------|---------------------------|----|
| 参考にならなかった | 参考になる情報ではなかったが、根拠となる資料・データにはならなかった | 根拠となる資料・データとして多く利用された | 根拠となる資料・データと併用した | 根拠となる資料・データと併用し、重要な情報であった | 回答 |
| 1         | 2                                  | 3                     | 4                | 5                         |    |

(3) 参考資料について、「参考例」、「データ分析集」へのご意見（たとえば、その内容や、提供時期・方法等）や、大学等に提供することが必要な他の参考情報についてのご意見がありましたら、以下にご記入ください。

問4 貴大学等から提出した現況調査表について

提出した現況調査表について、どのような感想をお持ちですか、以下の項目ごとに当てはまる番号をご回答ください。

|                                      |         |            |                |       |    |
|--------------------------------------|---------|------------|----------------|-------|----|
|                                      | 当てはまらない | あまり当てはまらない | どちらかとおおむね当てはまる | 当てはまる | 回答 |
| a. 学部・研究科等の目的を明確に記載することができた。         | 1       | 2          | 3              | 4     | 5  |
| b. 「想定する関係者の期待」を明確に記載することができた。       | 1       | 2          | 3              | 4     | 5  |
| c. 研究活動による成果を具体的に説明することができた。         | 1       | 2          | 3              | 4     | 5  |
| d. 研究活動の優れている点を具体的に説明することができた。       | 1       | 2          | 3              | 4     | 5  |
| e. 評価するのに必要な根拠・データを現況調査表に記載することができた。 | 1       | 2          | 3              | 4     | 5  |
| f. 一般社会の人にも理解しやすい現況調査表を作成することができた。   | 1       | 2          | 3              | 4     | 5  |
| g. 全体的に見て、現況調査表の完成度は満足できるものとなった。     | 1       | 2          | 3              | 4     | 5  |

II 大学改革支援・学位授与機構による評価方法・評価結果について

問1 確認事項の照会について

今回の評価では、評価者から大学等に確認事項の照会や資料提出の依頼を行いました。これらの方法について、適切だったと感じますか、以下の項目ごとに当てはまる番号をご回答ください。

|                             |         |            |                 |        |    |
|-----------------------------|---------|------------|-----------------|--------|----|
|                             | 適切でなかった | あまり適切でなかった | どちらかとおおむね適切であった | 適切であった | 回答 |
| a. 確認事項の照会や資料提出の依頼の方法（時期や量） | 1       | 2          | 3               | 4      | 5  |
| b. 確認事項の照会や資料提出の依頼の内容       | 1       | 2          | 3               | 4      | 5  |

問2 評価結果（現況分析結果）について

平成29年6月に公表しました貴学部・研究科等の評価結果（現況分析結果）の内容について、全体的にどのように思われましたか、以下の項目ごとに当てはまる番号をご回答ください。

|  |         |            |                |       |    |
|--|---------|------------|----------------|-------|----|
|  | 当てはまらない | あまり当てはまらない | どちらかとおおむね当てはまる | 当てはまる | 回答 |
| a. 貴学部・研究科等の目的を踏まえていた。                 | 1       | 2          | 3              | 4     | 5  |
| b. 貴学部・研究科等の研究の実態を反映していた。              | 1       | 2          | 3              | 4     | 5  |
| c. 各分析項目・観点の段階判定は納得のいくものであった。          | 1       | 2          | 3              | 4     | 5  |
| d. 観点の判断理由に書かれた内容（指摘点）は納得のいくものであった。    | 1       | 2          | 3              | 4     | 5  |
| e. 質の向上度の段階判定は納得のいくものであった。             | 1       | 2          | 3              | 4     | 5  |
| f. 質の向上度の判断理由に書かれた内容（指摘点）は納得のいくものであった。 | 1       | 2          | 3              | 4     | 5  |
| g. 全体的に、適正に評価された。                      | 1       | 2          | 3              | 4     | 5  |

問3 研究業績の水準判定結果について

(1) 現況分析結果には、2人の評価者が「SS」と判定した研究業績の名称を記載しました。その結果は納得のいくものでしたか、当てはまる番号をご回答ください。

|          |             |                |       |    |
|----------|-------------|----------------|-------|----|
| 納得できなかった | あまり納得できなかった | どちらかとおおむね納得できた | 納得できた | 回答 |
| 1        | 2           | 3              | 4     | 5  |

(2) 現況分析結果には、提出された研究業績のうち、「SS」や「S」と判定された割合を記載しました。その結果は納得のいくものでしたか、当てはまる番号をご回答ください。

|          |             |                |       |    |
|----------|-------------|----------------|-------|----|
| 納得できなかった | あまり納得できなかった | どちらかとおおむね納得できた | 納得できた | 回答 |
| 1        | 2           | 3              | 4     | 5  |

問4 評価報告書や評価結果について、ご意見がありましたら、以下にご記入ください。

Ⅲ 評価による貴学部・研究科等の研究活動への効果・影響について

問1 評価の効果について

今行った、研究の現況を自己分析して報告し、外部者の評価を受けるという一連の過程によって、貴学部・研究科等において以下の効果や影響があった（あるいは今後に顕在化する）と思われませんか、項目ごとに当てはまる番号をご回答ください。

|   | 当てはまらない | あまり当てはまらない | どちらともおおよそ | 当てはまる | 回答 |
|---|---------|------------|-----------|-------|----|
| a. 研究成果の質や水準を重視するようになった。                  | 1       | 2          | 3         | 4     | 5  |
| b. 研究成果の社会・経済・文化的意義を重視するようになった。           | 1       | 2          | 3         | 4     | 5  |
| c. 萌芽的な研究や挑戦的な研究を重視するようになった。              | 1       | 2          | 3         | 4     | 5  |
| d. 研究に関する学部・研究科等内の戦略（重点分野等）形成を重視するようになった。 | 1       | 2          | 3         | 4     | 5  |
| e. 研究活動の今後の課題を把握できた。                      | 1       | 2          | 3         | 4     | 5  |
| f. 教職員の間で研究活動についての組織的な方向性が共有された。          | 1       | 2          | 3         | 4     | 5  |
| g. 学部長・研究科長等のリーダーシップが高まった。                | 1       | 2          | 3         | 4     | 5  |
| h. 若手教員の研究活動が把握され、活性化できた。                 | 1       | 2          | 3         | 4     | 5  |
| i. 社会に対し大学等の研究活動を説明することの重要性が浸透した。         | 1       | 2          | 3         | 4     | 5  |
| j. 学部・研究科や学科・専攻等の部局間の競争意識が高まった。           | 1       | 2          | 3         | 4     | 5  |
| k. 大学等間の競争意識が生まれた。                        | 1       | 2          | 3         | 4     | 5  |
| l. 全体的に見て、研究活動の改善に寄与した。                   | 1       | 2          | 3         | 4     | 5  |

問2 評価結果の活用予定について

貴学部・研究科等において、今回の現況分析結果の具体的な活用の予定や、評価実施による良い効果・影響、悪い効果・影響がありましたら、以下にご記入ください。

<具体的な活用の予定>

<良い効果・影響>

Ⅳ 自己評価のための体制等について

問1 自己評価の体制・作業負担について

(1) 研究に関する現況調査表の作成（各分析項目・観点の記載や研究業績説明書の作成）を開始した時期をご回答ください。

回答  平成  年  月頃

(2) 上の問いで回答された作成開始時期以降、研究に関する現況調査表の作成作業を行った体制についてお聞きます。

① 学部・研究科等内に自己評価委員会などの組織を設置して現況調査表の作成作業を行った場合、その大まかな体制（組織構成および、それらの構成員数・現況調査表作成に係る会議の開催回数）を以下にご記入ください。

【記載例】 ○○学部自己評価委員会（10人、6回開催）、研究業績選定CC（10人、8回開催）

② 貴学部・研究科等の現況調査表の作成を主な職務として担当した教員・職員のうち、研究に関する現況調査表の作成（達成状況報告書は除く）を担当したおおよわの人数について、フルタイム換算により分かる範囲でご回答ください（たとえば、現況調査表作成開始以降から提出までの職務の半分が、研究の現況調査表作成に関する業務であれば、0.5人、フルタイム換算での回答がしづらければ、入/日、入/月などの回答でも結構です）。

| 回答     |               | 人 |
|--------|---------------|---|
| 教員等    | 理事・副学長、評備室等の長 | 人 |
|        | 学部長・研究科長等     | 人 |
|        | 副学部長・副研究科長等   | 人 |
| 職員     | 上記以外の教員       | 人 |
|        | 部長、課長級        | 人 |
|        | 課長補佐、係長級      | 人 |
|        | 主任、係員級        | 人 |
|        | 事務補佐員等        | 人 |
| その他（ ） | 人             |   |

<悪い効果・影響>

問3 他大学等の評価結果の分析状況について

同一学系内の他大学等の学部・研究科等について、評価結果（現況分析結果）の内容の分析を行いましたか。当てはまる番号をご回答ください。

(1) 他大学等の評価結果の内容を分析しましたか。

| 分析した | 分析しなかった | 回答 |
|------|---------|----|
| 1    | 2       |    |

(2) 上の問いで「分析した」と回答された場合、分析した結果は役に立ちましたか。

| 役に立たなかった | あまり役に立たなかった | どちらとも言えない | おおむね役に立った | 役に立った | 回答 |
|----------|-------------|-----------|-----------|-------|----|
| 1        | 2           | 3         | 4         | 5     |    |

(3) 研究に関する現況調査表の作成において、大学等内あるいは部局内において研究に関するデータの収集や分析を行う専門的な部署や人員（IRやIRAなど）が関与しましたか。関与していた場合、関与した専門部署名や専門人材の職名等を以下にご記入いただき、関与の程度を以下の5段階からご回答ください。

| 回答    | 部署名、専門人材の職名等 | 関与の程度  |
|-------|--------------|--------|
| 【記載例】 | IR室<br>IRA   | 4<br>2 |

- 2割未満の記載についてデータ作成・分析に関与した
- 2～4割の記載についてデータ作成・分析に関与した
- 4～6割の記載についてデータ作成・分析に関与した
- 6～8割の記載についてデータ作成・分析に関与した
- 8割以上の記載についてデータ作成・分析に関与した

(4) 今回の現況調査表の作成に要した人員・時間は、国立大学法人評価の持つ意義を鑑みて、多かったですか、少なかったですか。当てはまる番号をご回答ください。

| 多かった | やや多かった | 適切であった | やや少なかった | 少なかった | 回答 |
|------|--------|--------|---------|-------|----|
| 1    | 2      | 3      | 4       | 5     |    |

(5) 今回の現況調査表の作成作業を効率的に実施できた要因、反対に作業負担が多くなった要因がありましたら、以下にご記入ください。

問2 実績報告書作成要領について

現況調査表の作成方法は、実績報告書作成要領により理解できましたか。当てはまる番号をご回答ください。

| 理解できなかった | 一部しか理解できなかった | どちらとも言えない | おおむね理解できた | 理解できた | 回答 |
|----------|--------------|-----------|-----------|-------|----|
| 1        | 2            | 3         | 4         | 5     |    |

問3 評価の作業全般について、お気づきの点がありましたら、以下にご記入ください。

**Ⅳ 今後の評価のあり方について**

**問1 今後の評価の方向性について**

第3期中期目標期間の国立大学法人評価では、**どのような評価のあり方を望まれますか**。以下の項目ごとに当てはまる番号をご回答ください。

|  | 全く<br>思わない | そう<br>思わ<br>ない | ど<br>ちら<br>も<br>評<br>え<br>な<br>い | そ<br>う<br>思<br>う | 強<br>く<br>そ<br>う<br>思<br>う | 回答 |
|--|------------|----------------|----------------------------------|------------------|----------------------------|----|
| <b>【現況分析】</b>  |            |                |                                  |                  |                            |    |
| a. 今後も各学系（分野）の大学教員を中心とする評価者が現況調査表を評価する方法で実施すべきである。   | 1          | 2              | 3                                | 4                | 5                          |    |
| b. 現況調査表に共通的に記載すべき内容を定めるべきである。                       | 1          | 2              | 3                                | 4                | 5                          |    |
| c. 共通的に設定したデータ・指標をより用いた評価とすべきである。                    | 1          | 2              | 3                                | 4                | 5                          |    |
| d. 学系（分野）ごとの記載項目や評価基準をより明確にすべきである。                   | 1          | 2              | 3                                | 4                | 5                          |    |
| e. 現況調査表の分量をより少なくすべきである。                             | 1          | 2              | 3                                | 4                | 5                          |    |
| f. 評価報告書の分量をより少なくすべきである。                             | 1          | 2              | 3                                | 4                | 5                          |    |
| g. 評価報告書に詳細な結果を記載することが必要である。                         | 1          | 2              | 3                                | 4                | 5                          |    |
| h. 評価報告書に評価者による改善提案等のコメントを記載すべきである。                  | 1          | 2              | 3                                | 4                | 5                          |    |
| <b>【研究業績水準判定】</b>                                    |            |                |                                  |                  |                            |    |
| i. 今後も研究業績ごとに、同一分野の研究者が判定を行う方法（ピア・レビュー）で評価を実施すべきである。 | 1          | 2              | 3                                | 4                | 5                          |    |
| j. 提出する研究業績教の上限を増やすべきである。                            | 1          | 2              | 3                                | 4                | 5                          |    |
| k. 提出した個々の研究業績について、その判定結果を大学等に通知すべきである。              | 1          | 2              | 3                                | 4                | 5                          |    |
| l. 提出した個々の研究業績について、その判定結果を公表すべきである。                  | 1          | 2              | 3                                | 4                | 5                          |    |
| m. 個々の研究業績の提出内容（研究業績説明書）についても、現況調査表とあわせて公表すべきである。    | 1          | 2              | 3                                | 4                | 5                          |    |

**問2 今後の現況分析(研究業績水準判定含む)のあり方について、ご意見がありましたら、以下にご記入ください。**

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。

第2期国立大学法人等教育研究評価  
達成状況判定会議 専門委員 各位

独立行政法人大学改革支援・学位授与機構長  
福田 秀樹  
[ 公 印 省 略 ]

国立大学法人等の教育研究評価に係るアンケートについて（依頼）

平素より、当機構における評価事業に対し、格別のご理解とご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

このたびは、中期目標の達成状況評価に係る作業にご協力いただき、誠にありがとうございます。

当機構では、このたびの国立大学法人等の教育研究評価について、評価をご担当いただいた委員から、評価作業の課題やご意見をいただき、今後の評価の改善に向けて参考にさせていただきたいと考えております。

つきましては、下記のとおりアンケートを実施させていただきたいので、ご多忙のところお手数をかけますが、ご協力いただけますようよろしくお願い申し上げます。

なお、いただいたご回答は集計の上、当機構が発行する報告書にて、個人が特定されない形式で公表する予定であることを申し添えます。

記

1. 回答期限 平成29年5月10日（水）

2. 実施方法

① 下記URLのWEBアンケートシステムにアクセスして下さい。

[https://www6.webeas.net/form/pub/niad/tassei\\_e5dk23hmze](https://www6.webeas.net/form/pub/niad/tassei_e5dk23hmze)

② メールアドレス（本件依頼の連絡を受信したもの）、パスワード（依頼後に別メールにてお知らせしたもの）を入力し、ログインの上、回答して下さい（全35問）。

[本件連絡先]  
独立行政法人 大学改革支援・学位授与機構  
評価事業部 評価企画課 法人評価第2係  
浜田、山谷、野入  
Tel 042-307-7910、7911、7912  
Fax 042-307-1622  
E-mail tassei3@niad.ac.jp

中期目標の達成状況評価作業に関するアンケート  
ご協力をお願い

このたびは、第2期中期目標期間の教育研究評価における中期目標の達成状況評価にご協力を賜り、心より御礼申し上げます。

機構では評価実施後に、評価者の皆様から、評価作業の課題や今後の評価の在り方についてご意見をいただき、改善に役立てていくこととしております。つきましては、アンケートにご回答くださいますよう、お願い申し上げます。

なお、回答は個人名が特定されないよう処理いたします。また、本アンケートは、評価結果を確定し公表する前に実施しておりますが、ご回答の内容が評価結果に影響を与えることはないことを付言いたします。

メールアドレス(本件依頼の連絡を受信したもの)・パスワード(依頼後に別メールにてお知らせしたもの)をご入力ください。

メールアドレス (本件依頼の連絡を受信したもの) [ ]  
パスワード (依頼後に別メールにてお知らせしたもの) [ ]  
ログイン

中期目標の達成状況評価作業に関するアンケート  
大学改革支援・学位授与機構

○今回実施した達成状況評価の概要

達成状況評価は、各国立大学法人等から提出された「達成状況報告書」等を基に、主担当、副担当の方に評価作業を行っていただき、その結果を、達成状況判定会議、ヒアリングの場で、チーム主査、主担当、副担当、有識者に審議・確認いただく方法としておりました。

評価では、中期目標・計画の段階判定、判断理由、特記すべき点(優れた点、特色ある点、改善を要する点)を判断いただきました。その際には、戦略性が高く意欲的な目標・計画、個性の伸長に向けた取組、現況分析結果、「データ分析集」等も参考にさせていただきました。

○本アンケートの構成

以下の質問では、達成状況評価を行うにあたって、達成状況報告書の内容が評価のために十分に記述されていたかや、達成状況報告書と参考資料に基づいて評価を適切に実施できたか等をお伺いします。

アンケートは下記6項目(35問)で構成されています。

- I 大学等から提出された達成状況報告書について
- II 評価方法・結果について
- III 大学等への質問事項およびヒアリングについて
- IV 参考資料について
- V 評価作業と事前研修について
- VI その他(自由記述)

○回答にあたって

ご回答にあたっては、主担当として担当された大学等がある方は、その大学等について、チーム主査、副担当、有識者の方は、チームで担当した大学等全般について、ご担当の役割に応じ、可能な範囲でご回答ください。

回答を開始する

中期目標の達成状況評価作業に関するアンケート  
大学改革支援・学位授与機構

I 大学等から提出された達成状況報告書について

(1) 主担当・副担当をされた大学等(主担当・副担当がない場合にはチームで担当された大学等全体)の達成状況報告書について、どのように思われましたか。以下のa.~h.について、5段階から当てはまるものを選択してください。

担当した大学等の報告書全体のうち、

|                                    | 2割未満の記述が当てはまった | 2~4割の記述が当てはまった | 4~6割の記述が当てはまった | 6~8割の記述が当てはまった | 8割以上の記述が当てはまった |
|------------------------------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|
| a. 中期目標・計画の達成状況が明確に記述されていた         | ○              | ○              | ○              | ○              | ○              |
| b. 計画実施により得られた成果が明確に示されていた         | ○              | ○              | ○              | ○              | ○              |
| c. 評価するのに必要な根拠・データが報告書内に記述されていた    | ○              | ○              | ○              | ○              | ○              |
| d. 大学等の教育研究活動の実態がわかるものであった         | ○              | ○              | ○              | ○              | ○              |
| e. 優れた点や特色ある点がわかるものであった            | ○              | ○              | ○              | ○              | ○              |
| f. 改善を要する点がわかるものであった               | ○              | ○              | ○              | ○              | ○              |
| g. 一般社会にも理解しやすい報告書であった             | ○              | ○              | ○              | ○              | ○              |
| h. 全体的に見て、達成状況報告書は評価を行うのに十分に書かれていた | ○              | ○              | ○              | ○              | ○              |

(2) 達成状況報告書の記載についてお聞きします。

① 評価作業を実施する上で、以下のような達成状況報告書の記載方法は適切なものでしたか。a.~d.について、5段階から当てはまるものを選択してください。

|                                  | 適切でない | あまり適切でない | どちらともいえない | おおむね適切 | 適切 |
|----------------------------------|-------|----------|-----------|--------|----|
| a. 大学等が中期計画ごとに達成状況を記載すること        | ○     | ○        | ○         | ○      | ○  |
| b. 大学等が中期計画ごとに段階判定とその判断理由を記載すること | ○     | ○        | ○         | ○      | ○  |
| c. 大学等が優れた点・改善を要する点等を判断して記載すること  | ○     | ○        | ○         | ○      | ○  |
| d. 個性の伸長に向けた取組に関わる計画を大学等が指定すること  | ○     | ○        | ○         | ○      | ○  |

② 達成状況の具体的な記述内容や、どのような根拠データ・資料を示すかは、各大学等に委ねていました。このような方法によって、以下のような課題を感じられましたか。a～cについて、5段階から当てはまるものを選択してください。

|   | 全く思わない                | 思わない                  | どちらともいえない             | 思う                    | 強く思う                  |
|---|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|
| a. 活動や成果の記載内容が大学等ごとに多様であったために、評価がしづらかった     | <input type="radio"/> |
| b. 記述の分量が大学等ごとに多様であったために、評価がしづらかった          | <input type="radio"/> |
| c. 根拠データ・資料の内容や記載方法が大学等ごとに多様であったため、解釈しづらかった | <input type="radio"/> |

(3) 提出された達成状況報告書のページ数(分量)は、評価を実施する上で適切でしたか。以下の5段階から当てはまるものを選択してください。

|      | 少ない                   | やや少ない                 | 適切                    | やや多い                  | 多い                    |
|------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|
| 1つ選択 | <input type="radio"/> |

(4) 達成状況報告書の形式や記載されていた内容について良かった点、悪かった点があれば、以下にご記入ください。

回答が終わりましたら、「2/6 ページへ進む」を押してください。

【注意】「2/6 ページへ進む」を押す前に「先頭へ戻る」を押すと、本ページ(1/6)に回答した内容は保存されません。  
一度進んだのちに戻っていたら、回答内容を保存した上で、以前のページを確認できます。

結果を参照し、評価することとしていました。

① 評価の際に現況分析結果を参照されましたか。

|      | 参照した                  | 参照すべき中期計画がなかった        | 参照することを認識していなかった      |
|------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|
| 1つ選択 | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |

② ①で参照したと回答された方にお聞きします。

該当する学部・研究科等の現況分析結果は、評価の際、どの程度参考になりましたか。以下の5段階から当てはまるものを選択してください。

|      | 参考になる情報ではなかった         | 参考になる情報ではあったが、評価の根拠とはならなかった | 評価の参考になる情報としてある程度役に立った | 評価の参考になる情報として多くの場合に役に立った | 評価の際に参考になる重要な情報であった   |
|------|-----------------------|-----------------------------|------------------------|--------------------------|-----------------------|
| 1つ選択 | <input type="radio"/> | <input type="radio"/>       | <input type="radio"/>  | <input type="radio"/>    | <input type="radio"/> |

(3) 研究業績の水準判定結果の活用

今回の評価では、大学等が達成状況報告書に記載する際に、中期計画の実施状況の内容に関連する場合、該当する研究業績説明書に記載することとし、評価者はその研究業績の水準判定結果を参照し、評価することとしていました。

① 評価の際に研究業績の水準判定結果を参照されましたか。

|      | 参照した                  | 参照すべき中期計画がなかった        | 参照することを認識していなかった      |
|------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|
| 1つ選択 | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |

② ①で参照したと回答された方にお聞きします。

該当する研究業績の水準判定結果は、評価の際、どの程度参考になりましたか。以下の5段階から当てはまるものを選択してください。

|      | 参考になる情報ではなかった         | 参考になる情報ではあったが、評価の根拠とはならなかった | 評価の参考になる情報としてある程度役に立った | 評価の参考になる情報として多くの場合に役に立った | 評価の際に参考になる重要な情報であった   |
|------|-----------------------|-----------------------------|------------------------|--------------------------|-----------------------|
| 1つ選択 | <input type="radio"/> | <input type="radio"/>       | <input type="radio"/>  | <input type="radio"/>    | <input type="radio"/> |

## Ⅱ 評価方法・結果について

(1) 「戦略性が高く意欲的な目標・計画」の評価について

今回の評価では、「戦略性が高く意欲的な目標・計画」の評価にあたっては、計画どおり実施できていない場合においても、教育研究の質の向上や高い研究水準の実現が確認できる場合には、プロセスや内容等を考慮し、判定することになっていました。

① 「戦略性が高く意欲的な目標・計画」に該当する中期計画の評価をされましたか。

|      | 評価した                  | 該当する中期計画がなかった         | 「戦略性が高く意欲的な目標・計画」を認識していなかった |
|------|-----------------------|-----------------------|-----------------------------|
| 1つ選択 | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/>       |

② ①で評価したと回答された方にお聞きします。

評価を問題なくできましたか。以下の5段階から当てはまるものを選択してください。

|      | 評価しづらかった              | やや評価しづらかった            | どちらともいえない             | おおむね評価しやすかった          | 評価しやすかった              |
|------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|
| 1つ選択 | <input type="radio"/> |

③ 「戦略性が高く意欲的な目標・計画」について、今回のような方法で評価を行ったことで、良かった点や、評価がしづらかった点があれば、以下にご記入ください。

(2) 現況分析結果の活用

今回の評価では、大学等が達成状況報告書に記載する際に、中期計画の実施状況の内容に関連する場合、該当の学部・研究科等の現況調査表を記載することとし、評価者はその学部・研究科等の現況分析

(4) 機関別認証評価結果の活用

今回の評価では、大学等が達成状況報告書に記載する際に、必要に応じ、直近の機関別認証評価結果等を根拠資料として示すことができるとし、評価者は該当の資料を参照し、評価することとしていました。

① 評価の際に機関別認証評価結果を参照されましたか。

|      | 参照した                  | 参照すべき中期計画がなかった        | 参照することを認識していなかった      |
|------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|
| 1つ選択 | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |

② ①で参照したと回答された方にお聞きします。

該当する機関別認証評価結果は、評価の際、どの程度参考になりましたか。以下の5段階から当てはまるものを選択してください。

|      | 参考になる情報ではなかった         | 参考になる情報ではあったが、評価の根拠とはならなかった | 評価の参考になる情報としてある程度役に立った | 評価の参考になる情報として多くの場合に役に立った | 評価の際に参考になる重要な情報であった   |
|------|-----------------------|-----------------------------|------------------------|--------------------------|-----------------------|
| 1つ選択 | <input type="radio"/> | <input type="radio"/>       | <input type="radio"/>  | <input type="radio"/>    | <input type="radio"/> |

(5) 書面調査について

① 主担当・副担当をされた大学等がある方にお聞きします。書面調査段階において評価判断(段階判定や判断理由の作成)を確信をもって行うことができましたか。以下の5段階から選択してください。

|      | 2割未満の中期計画のみに確信をもって判断を下すことができた | 2～4割の中期計画に確信をもって判断を下すことができた | 4～6割の中期計画に確信をもって判断を下すことができた | 6～8割の中期計画に確信をもって判断を下すことができた | 8割以上の中期計画に確信をもって判断を下すことができた |
|------|-------------------------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|
| 1つ選択 | <input type="radio"/>         | <input type="radio"/>       | <input type="radio"/>       | <input type="radio"/>       | <input type="radio"/>       |

② 書面調査の段階で、評価の判断に役立った点、また、戸惑った点などがあれば、以下にご記入ください。

- (6) 書面調査の後に、2回の達成状況判定会議やヒアリングを行い、最終的な評価結果を決定しました。最終的に決定された評価結果報告書の内容は、評価者として納得のいくものとなりましたか。

| 担当した大学等の報告書全体のうち、 |                              |                              |                              |                              |                              |
|-------------------|------------------------------|------------------------------|------------------------------|------------------------------|------------------------------|
|                   | 2割未満の中期計画の判定や記載内容が納得いくものとなった | 2～4割の中期計画の判定や記載内容が納得いくものとなった | 4～6割の中期計画の判定や記載内容が納得いくものとなった | 6～8割の中期計画の判定や記載内容が納得いくものとなった | 8割以上の中期計画の判定や記載内容が納得いくものとなった |
| 1つ選択              | <input type="radio"/>        |

- (7) 中期計画の段階判定(「非常に優れている」や「良好」などの判定)の基準は以下のようなものでした(下表参照)。これらの基準は明確でしたか。以下の5段階から当てはまるものを選択してください。

(参考)

| 中期計画の段階判定  |   |
|------------|---|
| 【中期計画】     | 判断の基準   |
| 非常に優れている   | ○次の2つの条件を満たす場合<br>1. 計画が実施されている<br>2. 計画を実施した結果、得られた成果が特筆すべきものである<br>※「特筆すべき成果」とは、以下のいずれかまたは複数に該当する場合を指す<br>① 教育研究の大きな質の向上<br>② 国際的視点から判断して極めて高い教育研究水準の達成<br>③ 個性の伸長への大きな寄与 |
| 良好         | ○次の2つの条件を満たす場合<br>1. 計画が実施されている<br>2. 計画を実施した結果、得られた成果が優れている<br>○次の2つの条件を満たす場合<br>1. 計画が実施されている<br>2. 計画を実施した結果、得られた成果が相応である  |
| おおむね良好【標準】 | ○次のいずれかに該当する場合<br>1. 計画が実施されているが、得られた成果が相応である<br>2. 計画は実施されているが、得られた成果が不十分である   |

|      | 判断基準に迷った              | 判断基準にやや迷った            | どちらともいえない             | 判断基準はおおむね明確であった       | 判断基準は明確であった           |
|------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|
| 1つ選択 | <input type="radio"/> |

- (8) 評価がやりやすかった点、やりにくかった点があれば、以下にご記入ください(ヒアリングについては次頁

8

でお聞きします)。

回答が завершиましたら、「3/6 ページへ進む」を押してください。

【注意】「3/6 ページへ進む」を押す前に「1/6 ページへ戻る」を押すと、本ページ(2/6)に回答した内容は保存されません。  
一度進んだのちに戻っていただければ、回答内容を保存した上で、以前のページを確認できます。

3/6 ページへ進む

1/6 ページへ戻る

中期目標の達成状況評価作業に関するアンケート

大学改革支援・学位授与機構

### Ⅲ 大学等への確認事項の照会及びヒアリングについて

- (1) 今回の評価では、大学等にヒアリングに向けての確認事項の照会や資料提出の依頼を行った上で、対面又はテレビ会議システムの利用によるヒアリングを行うという方法をとりました。これらの方法によって、評価作業を適切に行うことができましたか。5段階から当てはまるものを選択してください。

|                                   | 適切でない                 | あまり適切でない              | どちらともいえない             | おおむね適切                | 適切                    |
|-----------------------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|
| a. 大学等へのヒアリングに向けての確認事項の照会や資料提出の依頼 | <input type="radio"/> |
| b. ヒアリングにおける質疑応答による調査             | <input type="radio"/> |

- (2) ヒアリングは、大学によってはテレビ会議システムを用いて実施しました。テレビ会議システムを用いたヒアリングに参加された場合、ヒアリングでの質疑応答や意思疎通は適切に行うことができましたか。以下の5段階から当てはまるものを選択してください。

|      | 適切でない                 | あまり適切でない              | どちらともいえない             | おおむね適切                | 適切                    |
|------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|
| 1つ選択 | <input type="radio"/> |

- (3) 確認事項の照会やヒアリングについて、お気づきの課題点や良かった点があればご記入ください。

回答が завершиましたら、「4/6 ページへ進む」を押してください。

【注意】「4/6 ページへ進む」を押す前に「2/6 ページへ戻る」を押すと、本ページ(3/6)に回答した内容は保存されません。  
一度進んだのちに戻っていただければ、回答内容を保存した上で、以前のページを確認できます。

4/6 ページへ進む

2/6 ページへ戻る

10

### Ⅳ 参考資料について

- (1) データ分析集の活用について

- ① 今回の評価では「データ分析集」として、学生数や外部資金の推移などの定量的データを評価者に提供しました。「データ分析集」は参照されましたか。

|      | 参照した                  | 参照していない               |
|------|-----------------------|-----------------------|
| 1つ選択 | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |

- ② ①で参照したと回答された方にお聞きします。評価にどの程度参考になりましたか。以下の5段階から当てはまるものを選択してください。

|      | 参考になる情報ではなかった         | 参考になる情報ではあったが、評価の根拠とはならなかった | 評価の参考になる情報としてある程度役に立った | 評価の参考になる情報として多くの場合に役に立った | 評価の際に参考になる重要な情報であった   |
|------|-----------------------|-----------------------------|------------------------|--------------------------|-----------------------|
| 1つ選択 | <input type="radio"/> | <input type="radio"/>       | <input type="radio"/>  | <input type="radio"/>    | <input type="radio"/> |

- (2) 今回のデータ分析集へのご意見や、次回(4年後)の評価であればよいと思うデータや参考資料があれば、以下にご記入ください。

回答が завершиましたら、「5/6 ページへ進む」を押してください。

【注意】「5/6 ページへ進む」を押す前に「3/6 ページへ戻る」を押すと、本ページ(4/6)に回答した内容は保存されません。  
一度進んだのちに戻っていただければ、回答内容を保存した上で、以前のページを確認できます。

5/6 ページへ進む

3/6 ページへ戻る

11

## V 評価作業と事前研修について

### (1) 書面調査シートについて

主担当・副担当の方にお伺いします。評価作業はマイクロソフト社のExcelによる「書面調査シート」で行っていただきました。その使い勝手はいかがでしたか。以下の5段階から当てはまるものを選択してください。

|      | 作業しづらかった              | <中間>                  | 多少戸惑ったが作業はできた         | <<中間>>                | 問題なく作業ができた            |
|------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|
| 1つ選択 | <input type="radio"/> |

### (2) ウェブサイト(書面調査システム)による作業について

ファイルの受け渡しを、ウェブサイト(書面調査システム)を用いて行いました。その使い勝手はいかがでしたか。以下の5段階から当てはまるものを選択してください。

|      | 作業しづらかった              | <中間>                  | 多少戸惑ったが作業はできた         | <<中間>>                | 問題なく作業ができた            |
|------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|
| 1つ選択 | <input type="radio"/> |

### (3) 作業時間等について

① 評価作業(会議等への出席時間を除き、書面調査シートへの入力や達成状況報告書の確認など)にかかった、おおむねの作業時間をお答えください。

a. 主担当の方にお伺いします。

主担当の大学等の書面調査等にかかった時間として、おおむね  時間  
副担当の大学等の書面調査等にかかった時間として、おおむね  時間

b. 副担当(主担当大学等がない方)、チーム主査、有識者の方にお伺いします。

チームの大学等の書面調査等にかかった時間として、おおむね  時間

② チームごとの担当大学等の数は適切でしたか。多すぎて全ての大学等の情報の精査について負担が大きかったですか、それとも、少なすぎて他大学等の情報が無くて評価がしにくいなどの問題がありましたか。以下の5段階から当てはまるものを選択してください。

12

(7) 評価作業の事務的側面や研修について、ご希望やお気づきの点があればご記入ください(例として事務局の対応や、模擬評価の実践研修の開催など)。

回答が終わりましたら、「6/6 ページへ進む」を押してください。

【注意】「6/6 ページへ進む」を押す前に「4/6 ページへ戻る」を押すと、本ページ(5/6)に回答した内容は保存されません。  
一度進んだのちに戻っていただければ、回答内容を保存した上で、以前のページを確認できます。

6/6 ページへ進む

4/6 ページへ戻る

中期目標の達成状況(評価作業に関するアンケート)  
大学改革支援・学位授与機構

|      | 非常に多かった               | 若干多かった                | 適切であった                | 若干少なかった               | 非常に少なかった              |
|------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|
| 1つ選択 | <input type="radio"/> |

③ 今回の評価作業で時間を多く費やした要因がもしあれば、以下にご記入ください。

### (4) チームの大学等の構成について

担当チーム内の大学等の構成について、それぞれの教育研究分野や規模の違いなどにより、評価がやりやすかった点、やりにくかった点があれば、以下にご記入ください。

### (5) 評価者研修会について

評価方法は、評価者研修会により理解できましたか。以下の5段階から当てはまるものを選択してください。

|      | 理解できなかった              | 一部しか理解できなかった          | どちらともいえない             | おおむね理解できた             | 理解できた                 |
|------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|
| 1つ選択 | <input type="radio"/> |

### (6) 評価作業マニュアルについて

評価方法は、評価作業マニュアルにより理解できましたか。以下の5段階から当てはまるものを選択してください。

|      | 理解できなかった              | 一部しか理解できなかった          | どちらともいえない             | おおむね理解できた             | 理解できた                 |
|------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|
| 1つ選択 | <input type="radio"/> |

13

## VI その他(自由記述)

(1) その他、全体的にお気づきの課題点や良かった点があればご記入ください。

設問は以上です。ご協力ありがとうございました。

回答が終わりましたら、「確認」を押してください。

【注意】「確認」を押す前に「5/6 ページへ戻る」を押すと、本ページ(6/6)に回答した内容は保存されません。  
一度進んだのちに戻っていただければ、回答内容を保存した上で、以前のページを確認できます。

[ 確 認 ]

5/6 ページへ戻る

中期目標の達成状況(評価作業に関するアンケート)  
大学改革支援・学位授与機構

現況分析部会 専門委員 各位

独立行政法人大学改革支援・学位授与機構長  
福田 秀樹  
〔公 印 省 略 〕

国立大学法人等の教育研究評価に係るアンケートについて（依頼）

平素より、当機構における評価事業に対し、格別のご理解とご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

このたびは、現況分析に係る作業にご協力いただき、誠にありがとうございました。  
当機構では、このたびの国立大学法人等の教育研究評価について、評価をご担当いただいた委員から、評価作業の課題やご意見をいただき、今後の評価の改善に向けて参考させていただきたいと考えております。

つきましては、下記のとおりアンケートを実施させていただきたいので、ご多忙のところお手数をおかけしますが、ご協力いただけますようよろしくお願い申し上げます。

なお、いただいたご回答は集計の上、当機構が発行する報告書にて、個人が特定されない形式で公表する予定であることを申し添えます。

記

1. 回答期限 平成29年3月6日（月）

2. 実施方法

① 下記URLのWEBアンケートシステムにアクセスして下さい。

[https://www6.webcas.net/form/pub/niad/genkyo\\_qk86x1pse3](https://www6.webcas.net/form/pub/niad/genkyo_qk86x1pse3)

② メールアドレス（本件依頼の連絡を差上げたもの）、パスワード（依頼後に別メールにてお知らせしたもの）を入力し、ログインの上、回答して下さい（全27問、所要時間20分程度）。

〔本件連絡先〕  
独立行政法人 大学改革支援・学位授与機構  
評価事業部 評価企画課 国立大学評価室  
現況分析第3係  
川上、上、佐々木  
Tel 042-307-7936、7937、7939  
Fax 042-307-7993  
E-mail genkyo3@niad.ac.jp

学部・研究科等の現況分析作業に関するアンケート  
ご協力をお願い

機構では評価実施後に、評価者の皆様から、評価作業の課題や今後の評価の在り方についてご意見をいただき、改善に役立てていくこととしております。つきましては、アンケートにご回答くださいますよう、お願い申し上げます。

なお、回答は個人名が特定されないよう処理いたします。また、本アンケートは、評価結果を確定し公表する前に実施しておりますが、ご回答の内容が評価結果に影響を与えることではないことを付言いたします。

メールアドレス（本件依頼の連絡を差上げたもの）・パスワード（依頼後に別メールにてお知らせしたもの）をご入力ください。

メールアドレス  
(本件依頼の連絡を差上げたもの)

パスワード  
(依頼後に別メールにてお知らせしたもの)

学部・研究科等の現況分析作業に関するアンケート  
大学改革支援・学位授与機構

○今回実施した現況分析の概要

現況分析は、各大学の学部・研究科等から「現況調査表」を提出していただき、それを基に評価者（現況分析部会専門委員）に評価をしていただく方法としておりました。

学部・研究科等は、現況調査表に教育・研究の目的と特徴を述べるとともに、「想定される関係者とその期待」を明記しました。評価者には、学部・研究科等の教育研究活動や成果が関係者の期待を上回る水準にあるか等を判断する評価をしていただきました。現況調査表に記述する内容については、機構にて「分析項目」と「観点」を事前に定めておりましたが、その中に具体的に記述する事項については大学に委ねていました。また、記述内容の「参考例」や、定量的なデータベースによる「データ分析集」を、大学と評価者の双方に提供して参考資料としていただきました。

○本アンケートの構成

以下の質問では、現況分析を行うにあたって、現況調査表の内容が評価のために十分に記述されていたかや、現況調査表と参考資料に基づいて評価を適切に実施できたか等をおきします。

アンケートは下記5項目（全27問）で構成されています。所要時間の目安は20分程度です。

- I 大学から提出された現況調査表について
- II 評価方法について
- III 参考資料について
- IV 評価作業と事前研修について
- V その他（自由記述）

学部・研究科等の現況分析作業に関するアンケート  
大学改革支援・学位授与機構

I 大学から提出された現況調査表について

(1) 主・副担当をされた現況調査表について（部会長・副部会長は確認された現況調査表全体について）、どのように思われましたか。以下のa.～f.について、5段階から当てはまるものを選択してください。

|                                  | 2割未満の現況調査表が当てはまった     | 2～4割の現況調査表が当てはまった     | 4～6割の現況調査表が当てはまった     | 6～8割の現況調査表が当てはまった     | 8割以上の現況調査表が当てはまった     |
|----------------------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|
| a. 学部・研究科等の目的が明確に記されていた          | <input type="radio"/> |
| b. 「想定する関係者の期待」が明確に記されていた        | <input type="radio"/> |
| c. 評価するのに必要な根拠・データが報告書内に記されていた   | <input type="radio"/> |
| d. 教育・研究活動の優れている点が具体的に説明されていた    | <input type="radio"/> |
| e. 教育・研究活動による成果が具体的に説明されていた      | <input type="radio"/> |
| f. 全体的に見て、現況調査表は評価を行うのに十分に書かれていた | <input type="radio"/> |

(2) 現況調査表は、評価項目・観点ごとに具体的に何を記載するかやどのような根拠データ・資料を示すかは、各大学に委ねています。

① このような方法により、各学部・研究科等の個性的な取組が把握できたと思われませんか。

|      | 全く思わない                | 思わない                  | どちらとも言えない             | 思う                    | 強く思う                  |
|------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|
| 1つ選択 | <input type="radio"/> |

② このような方法によって、以下のような課題を感じられましたか。

|  | 全く思わない                | 思わない                  | どちらとも言えない             | 思う                    | 強く思う                  |
|--|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|
| a. 活動や成果の記載内容が大学ごとに多様であったために、評価がしづらかった       | <input type="radio"/> |
| b. 根拠データ・資料の記述内容や記載様式が大学ごとに多様であったため、解釈しづらかった | <input type="radio"/> |

(3) 提出された現況調査票のページ数（分量）は、評価を実施する上で適切でしたか。以下の5段階から選択ください。

## II 評価方法について

- (1) 主・副担当をされた学部・研究科等について(部会長・副部会長は全体について)、書面調査段階において評価判断を確信をもって行うことができましたか。教育水準と研究水準についてそれぞれ以下の5段階から選択ください。

|      |                                |                              |                              |                              |                              |
|------|--------------------------------|------------------------------|------------------------------|------------------------------|------------------------------|
|      | 2割未満の現況調査表のみに確信をもって判断を下すことができた | 2~4割の現況調査表に確信をもって判断を下すことができた | 4~6割の現況調査表で確信をもって判断を下すことができた | 6~8割の現況調査表で確信をもって判断を下すことができた | 8割以上の現況調査表で確信をもって判断を下すことができた |
| 教育水準 | <input type="radio"/>          | <input type="radio"/>        | <input type="radio"/>        | <input type="radio"/>        | <input type="radio"/>        |
| 研究水準 | <input type="radio"/>          | <input type="radio"/>        | <input type="radio"/>        | <input type="radio"/>        | <input type="radio"/>        |

- (2) 評価者による書面調査の後に、機構内の2回の部会において評価結果(段階判定を含む)の調整を行いました。調整を経て決定された評価結果は、評価者として納得のいくものとなりましたか。

|      |                       |                       |                       |                       |                       |
|------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|
|      | 納得のいくものではなかった         | あまり納得のいくものではなかった      | どちらともいえない             | おおむね納得のいくものであった       | 納得のいくものであった           |
| 1つ選択 | <input type="radio"/> |

- (3) 分析項目ごとに評価を行う難しさは異なりましたか。以下の5段階から選択ください。

|                                   |                       |                       |                       |                       |                       |
|-----------------------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|
|                                   | 難しかった                 | やや難しかった               | どちらとも言えない             | やや容易だった               | 容易だった                 |
| I 教育活動の状況(教育実施体制、教育内容・方法)         | <input type="radio"/> |
| II 教育成果の状況(学業の成果、進路・就職の状況)        | <input type="radio"/> |
| 教育の質の向上度                          | <input type="radio"/> |
| I 研究活動の状況(研究活動の状況、共同利用・共同研究の実施状況) | <input type="radio"/> |
| II 研究成果の状況                        | <input type="radio"/> |
| 研究の質の向上度                          | <input type="radio"/> |

- (4)-① 「研究成果の状況」の分析項目については、学部・研究科等を代表する研究業績(専任教員数の

4

5

|      |                       |                       |                       |                       |                       |
|------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|
|      | 少ない                   | やや少ない                 | 適切                    | やや多い                  | 多い                    |
| 1つ選択 | <input type="radio"/> |

- (4) 現況調査表の形式や記載されていた内容について良かった点、悪かった点があれば、以下にご記入ください。

回答が завершиましたら、「2 / 5 ページへ進む」を押してください。

【注意】「2 / 5 ページへ進む」を押す前に「先頭へ戻る」を押すと、本ページ(1 / 5)に回答した内容は保存されません。一度進んだのちに戻っていただければ、回答内容を保存した上で、以前のページを確認できます。

学部・研究科等の現況分析作業に関するアンケート  
大学改革支援・学位授与機構

20%程度を目安の「研究業績水準判定結果一覧表」(SS、S、S未満の数・割合やSSとした判断根拠)を評価者に提供しました。研究業績水準判定結果は、「研究成果の状況」を判定する資料として参考になるものでしたか。以下の5段階から選択ください。

|      |                       |                             |                       |                          |                       |
|------|-----------------------|-----------------------------|-----------------------|--------------------------|-----------------------|
|      | 参考になる情報ではなかった         | 参考になる情報ではあったが、判断の根拠とはならなかった | 判断の参考になる程度役に立った       | 判断の参考になる情報として多くの場合に役に立った | 判断の際に参考にできる重要な情報であった  |
| 1つ選択 | <input type="radio"/> | <input type="radio"/>       | <input type="radio"/> | <input type="radio"/>    | <input type="radio"/> |

- (4)-② 参考にならなかった理由があれば、当てはまる選択肢全てにチェックを付けてください(複数選択可)。

- a. 専任教員数の20%程度の研究業績では全体状況がわからないから  
 b. SS、S、S未満と判断された基準が不明瞭であったから  
 c. 他大学の学部・研究科等の判定結果との比較ができなかったから  
 d. 大学によって業績数の提出状況が異なるから

e. その他(自由記述)

- (5) 評価は、大学が記載した「想定する関係者の期待」に基づいて判断を行っていただきました。このような判断基準で評価を問題なくできましたか。以下の5段階から選択ください。

|      |                       |                       |                       |                       |                       |
|------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|
|      | 評価がしづらかった             | 評価がややしづらかった           | どちらともいえない             | おおむね問題なく評価ができた        | 問題なく評価ができた            |
| 1つ選択 | <input type="radio"/> |

- (6) 段階判定(「期待される水準を上回る」や「期待される水準にある」などの判定)の基準は明確でしたか。以下の5段階から選択ください。

6

参考 - 45

(参考)

| 判断を示す記述                       | 判断の基準   |
|-------------------------------|---|
| 期待される水準を大きく上回る(分析項目「I・II」下欄記) | 「期待される水準を上回る」と判断された分析項目のうち、学部・研究科等の目的(分析項目「I・II」下欄記)に照らして、取組や活動(或いは成果)が期待や成果に明らかに判断できる場合。 |
| 期待される水準を上回る                   | 学部・研究科等の目的に照らして、取組・活動や成果の状況が期待であり、想定する関係者の期待を上回ると判断される場合。                                 |
| 期待される水準にある【標準】                | 学部・研究科等の目的に照らして、取組・活動や成果の状況が期待であり、想定する関係者の期待に当てはまると判断される場合。                               |
| 期待される水準を下回る                   | 学部・研究科等の目的に照らして、取組・活動や成果の状況が期待であり、想定する関係者の期待に当てはまると判断される場合。                               |

|      |                       |                       |                       |                       |                       |
|------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|
|      | 判断基準に迷った              | 判断基準にやや迷った            | どちらとも言えない             | 判断基準はおおむね明確であった       | 判断基準は明確であった           |
| 1つ選択 | <input type="radio"/> |

- (7) 評価がやりやすかった点、やりにくかった点があれば、以下にご記入ください。

回答が завершиましたら、「3 / 5 ページへ進む」を押してください。

【注意】「3 / 5 ページへ進む」を押す前に「1 / 5 ページへ戻る」を押すと、本ページ(2 / 5)に回答した内容は保存されません。一度進んだのちに戻っていただければ、回答内容を保存した上で、以前のページを確認できます。

学部・研究科等の現況分析作業に関するアンケート  
大学改革支援・学位授与機構

7

### Ⅲ 参考資料について

(1)－① 人文、社会、理学、工学、農学、保健、教育学系については、現況調査表に記載されることが期待される取組や成果の事例を挙げた「参考例」を研修会にて配付しました。評価作業の前に「参考例」は確認されましたか。

|      | 確認した                  | 確認していない               |
|------|-----------------------|-----------------------|
| 1つ選択 | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |

(1)－② 上の問いで「確認した」と回答した場合、以下から当てはまるものを全て選んでください(複数選択可)。

- a. 事前に優れた取組や成果のイメージがあった
- b. 評価判断をする際の参考になった
- c. 例示がもっと多種類であると良いと感じた
- d. 例示の数を少なくすると良いと感じた
- e. 例示をもっと具体的にすると良いと感じた
- f. 担当の学系にふさわしい例示が少ないと感じた
- g. 実際の現況調査表には参考例を踏まえた記述がなされていた

(2)－① 今回の評価では「データ分析集」として、学部・研究科等に関する定量的データを評価者に提供しました。「データ分析集」は参照されましたか。

|      | 参照した                  | 参照していない               |
|------|-----------------------|-----------------------|
| 1つ選択 | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |

(2)－② 上の問いで「参照した」と回答した場合、判定にどの程度参考になりましたか。以下の5段階から選択ください。

|      | 参考になる情報ではなかった         | 参考になる情報ではあったが、判定の根拠とはならなかった | 判定の参考になる情報としてある程度役に立った | 判定の参考になる情報として多くの場合に役に立った | 判定の際に参考になる重要な情報であった   |
|------|-----------------------|-----------------------------|------------------------|--------------------------|-----------------------|
| 1つ選択 | <input type="radio"/> | <input type="radio"/>       | <input type="radio"/>  | <input type="radio"/>    | <input type="radio"/> |

8

(2)－③ ご担当の学系の教育・研究活動や成果を評価する際に、共通して示されていると望ましいデータがありましたら、お教えください(ない場合は記載不要です)。

(3) 今回の参考例やデータ分析集へのご意見や、次回(4年後)の現況分析であればよいと思う参考資料があれば、以下にご記入下さい。

回答が終わりましたら、「4/5 ページへ進む」を押してください。

【注意】「4/5 ページへ進む」を押す前に「2/5 ページへ戻る」を押すと、本ページ(3/5)に回答した内容は保存されません。一度進んだのちに戻っていただければ、回答内容を保存した上で、以前のページを確認できます。

4/5 ページへ進む      2/5 ページへ戻る

学部・研究科等の現況分析作業に関するアンケート  
大学改革支援・学位授与機構

9

### Ⅳ 評価作業と事前研修について

(1) 書面調査シートについて

評価作業はマイクロソフト社のExcelによる「書面調査シート」で行っていただきました。その使い勝手はいかがでしたか。以下の5段階から選択ください。

|      | 作業しづらかった              | <中間>                  | 多少戸惑ったが作業はできた         | <<中間>>                | 問題なく作業ができた            |
|------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|
| 1つ選択 | <input type="radio"/> |

(2) ウェブ(書面調査システム)による作業について

ファイルの受け渡しを、ウェブサイト(書面調査システム)を用いて行いました。その使い勝手はいかがでしたか。以下の5段階から選択ください。

|      | 作業しづらかった              | <中間>                  | 多少戸惑ったが作業はできた         | <<中間>>                | 問題なく作業ができた            |
|------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|
| 1つ選択 | <input type="radio"/> |

(3)－① 書面調査にかかった、おおむねの作業時間を教えてください。

おおむね  時間

(3)－② 評価担当の現況調査表の数(担当の学部・研究科等の数)は多すぎましたか、それとも、少なすぎて他大学の情報が無くして評価がしにくい等の問題がありましたか。当てはまるものを以下の5段階から選択ください。

|      | 分量が非常に多かった            | 若干多かった                | 適切な分量であった             | 若干少なかった               | 非常に少なかった              |
|------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|
| 1つ選択 | <input type="radio"/> |

(3)－③ 今回の評価作業で時間を多く費やした要因がもしあればご記入ください。

(4) 評価者研修会について

評価方法は、評価者研修会により理解できましたか。

|      | 理解できなかった              | 一部しか理解できなかった          | どちらとも言えない             | 概ね理解できた               | 理解できた                 |
|------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|
| 1つ選択 | <input type="radio"/> |

(5) 評価作業マニュアルについて

評価方法は、評価作業マニュアルにより理解できましたか。

|      | 理解できなかった              | 一部しか理解できなかった          | どちらとも言えない             | 概ね理解できた               | 理解できた                 |
|------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|
| 1つ選択 | <input type="radio"/> |

(6) 評価作業の事務的側面や研修について、お気づきの点があればご記入ください。

回答が終わりましたら、「5/5 ページへ進む」を押してください。

【注意】「5/5 ページへ進む」を押す前に「3/5 ページへ戻る」を押すと、本ページ(4/5)に回答した内容は保存されません。一度進んだのちに戻っていただければ、回答内容を保存した上で、以前のページを確認できます。

5/5 ページへ進む      3/5 ページへ戻る



以下の5段階から選択ください。

|      |                       |                         |                       |                       |                       |
|------|-----------------------|-------------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|
|      | 1: 判定の参考にはしなかった       | 2: 判定の参考として若干利用することがあった | 3: 根拠の一つとして随時参考にした    | 4: 重要な根拠の一つとして参考にした   | 5: 最も重要な根拠として参考にした    |
| 1つ選択 | <input type="radio"/> | <input type="radio"/>   | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |

(2)―① 6月初旬に配付しました、「被引用数の閾値リスト」を判定の際に参照されましたか。

|      |                       |                       |
|------|-----------------------|-----------------------|
|      | 1: 参照した               | 2: 参照していない            |
| 1つ選択 | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |

(2)―② 上の問いで「1: 参照した」と回答した場合、判定にどの程度参考になりましたか。以下の5段階から選択ください。

|      |                       |                               |                           |                             |                         |
|------|-----------------------|-------------------------------|---------------------------|-----------------------------|-------------------------|
|      | 1: 参考になる情報ではなかった      | 2: 参考になる情報ではあったが、判定の根拠とはしなかった | 3: 判定の参考になる情報としてある程度役に立った | 4: 判定の参考になる情報として多くの場合に役に立った | 5: 判定の際に参考に行ける重要な情報であった |
| 1つ選択 | <input type="radio"/> | <input type="radio"/>         | <input type="radio"/>     | <input type="radio"/>       | <input type="radio"/>   |

(3)―① 評価者研修会にて「参考例」として卓越した研究業績の根拠データの分野ごとの例を配付しました。判定作業の前に参照されましたか。

|      |                       |                       |
|------|-----------------------|-----------------------|
|      | 1: 参照した               | 2: 参照していない            |
| 1つ選択 | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |

(3)―② 上の問いで「1: 参照した」と回答した場合、以下から当てはまるものを全て選んでください(複数選択可)。

- 事前に根拠データのイメージがついた。
- 多様な根拠データがありうることが理解できた。
- 例示がもっと多種類であると良いと感じた。
- 例示をもっと限定すると良いと感じた。
- 自分の細目に適した根拠データの例示が少ないと感じた。
- 根拠データ例ごとにSS、S、S未満の判定の基準の提示が必要と感じた。

(4) ご担当の細目において判定をする際に、大学からある程度共通して示されていると望ましい根拠

3

(4) 今回の研究業績判定では、一つの「研究業績」に三編までの論文等を記載する方式をとり、「研究業績」を単位として判定をしていただきました。この方法で判定がしづらかったですか。あった場合は、具体的な内容もご記入ください。

|      |                       |                       |
|------|-----------------------|-----------------------|
|      | 1: なかった               | 2: あった                |
| 1つ選択 | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |

→ 「2: あった」場合、具体的に記入ください。



### 4. 作業について

(1) 作業時間について

研究業績判定にかかった、おおむねの作業時間をお答えください。(半角数字)  
おおむね  時間

(2) 判定した業績数に関するご認識について、当てはまるものを以下の5段階から選択ください。

|      |                       |                       |                         |                       |                       |
|------|-----------------------|-----------------------|-------------------------|-----------------------|-----------------------|
|      | 1: 分量が非常に多かった         | 2: <中間>               | 3: 若干多いが、作業できない分量ではなかった | 4: <中間>               | 5: 問題なく作業できる分量であった    |
| 1つ選択 | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/>   | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |

(3) ウェブ(オンラインストレージ)による作業について

ファイルの受け渡しを、ウェブサイト(オンラインストレージ)を用いて行いました。その使い勝手はいかがでしたか。以下の5段階から選択ください。

|      |                       |                       |                       |                       |                       |
|------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|
|      | 1: 作業しづらかった           | 2: <中間>               | 3: 多少戸惑ったが作業はできた      | 4: <中間>               | 5: 問題なく作業ができた         |
| 1つ選択 | <input type="radio"/> |

5

データがもしありましたら、お教えください(ない場合は記載不要です)。



### 3. 判定について

(1) ご担当の細目の専門領域の範囲を超える(担当細目の専門知識では判断しづらい)研究業績がありましたか。あった場合は、およその割合もお答えください。

|      |                       |                       |
|------|-----------------------|-----------------------|
|      | 1: なかった               | 2: あった                |
| 1つ選択 | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |

→ 「2: あった」場合、およその割合(半角数字)

およそ  割

(2) 学術的意義について、「SS」「S」「S未満」の間の判断はしやすかったですか? 判定された業績の中で確信をもって判定を下すことができた割合を以下の5段階から選択ください。

|      |                                |                                |                              |                              |                              |
|------|--------------------------------|--------------------------------|------------------------------|------------------------------|------------------------------|
|      | 1: 2割未満の業績のみに確信をもって判断を下すことができた | 2: 2~4割の業績のみに確信をもって判断を下すことができた | 3: 4~6割の業績で確信をもって判断を下すことができた | 4: 6~8割の業績で確信をもって判断を下すことができた | 5: 8割以上の業績で確信をもって判断を下すことができた |
| 1つ選択 | <input type="radio"/>          | <input type="radio"/>          | <input type="radio"/>        | <input type="radio"/>        | <input type="radio"/>        |

(3) 社会・経済・文化的意義について、「SS」「S」「S未満」の間の判断はしやすかったですか? 判定された業績の中で確信をもって判定を下すことができた割合を以下の5段階から選択ください。

|      |                                |                                |                              |                              |                              |
|------|--------------------------------|--------------------------------|------------------------------|------------------------------|------------------------------|
|      | 1: 2割未満の業績のみに確信をもって判断を下すことができた | 2: 2~4割の業績のみに確信をもって判断を下すことができた | 3: 4~6割の業績で確信をもって判断を下すことができた | 4: 6~8割の業績で確信をもって判断を下すことができた | 5: 8割以上の業績で確信をもって判断を下すことができた |
| 1つ選択 | <input type="radio"/>          | <input type="radio"/>          | <input type="radio"/>        | <input type="radio"/>        | <input type="radio"/>        |

4

(4) Excelを用いた作業について

研究業績の判定はマイクロソフト社のExcelのファイルを用いて行いました。その使い勝手はいかがでしたか。以下の5段階から選択ください。

|      |                       |                       |                       |                       |                       |
|------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|
|      | 1: 作業しづらかった           | 2: <中間>               | 3: 多少戸惑ったが作業はできた      | 4: <中間>               | 5: 問題なく作業ができた         |
| 1つ選択 | <input type="radio"/> |



5. 以下、判定作業へのご意見や、判定作業で難しかったこと、参考資料のあり方、そのほかコメントがございましたら、ご自由にお書きください(空欄でも結構です)。

自由記述欄

回答が終わりましたら「確認」ボタンを押してください。

↓

## 2 教育研究評価に係るアンケート結果

### 教育研究の「中期目標の達成状況評価」に関する検証アンケート 法人向け

n= 90

#### I 貴大学等における「達成状況報告書」の作成作業について

##### 問1 達成状況報告書の形式や作成方法について

(1) 達成状況報告書を作成された際、今回の達成状況報告書の形式や作成方法は適切と思われましたか。

【1: 適切でなかった～5: 適切であった】

|   |  | 1    | 2     | 3     | 4     | 5     | 無回答 |
|---|--|------|-------|-------|-------|-------|-----|
| a | 中期計画ごとに達成状況を記載すること。                                | 0    | 0     | 2     | 50    | 38    | 0   |
|   |  | 0.0% | 0.0%  | 2.2%  | 55.6% | 42.2% |     |
| b | 中期計画ごとに大学等が段階判定とその判断理由を記載すること。                     | 0    | 1     | 3     | 50    | 36    | 0   |
|   |  | 0.0% | 1.1%  | 3.3%  | 55.6% | 40.0% |     |
| c | 優れた点・改善を要する点等を大学等が判断して記載すること。                      | 0    | 4     | 9     | 51    | 26    | 0   |
|   |  | 0.0% | 4.4%  | 10.0% | 56.7% | 28.9% |     |
| d | 個性の伸長に向けた取組に関連する中期計画を大学等が指定すること。                   | 0    | 6     | 22    | 39    | 23    | 0   |
|   |  | 0.0% | 6.7%  | 24.4% | 43.3% | 25.6% |     |
| e | 中期計画に関連する学部・研究科等の「現況調査表」の分析項目・観点名等を達成状況報告書に記載すること。 | 1    | 16    | 34    | 29    | 10    | 0   |
|   |  | 1.1% | 17.8% | 37.8% | 32.2% | 11.1% |     |
| f | 中期計画に関連する「研究業績説明書」の研究業績番号等を達成状況報告書に記載すること。         | 1    | 15    | 34    | 29    | 11    | 0   |
|   |  | 1.1% | 16.7% | 37.8% | 32.2% | 12.2% |     |

(2) 今回の評価では、「戦略性が高く意欲的な目標・計画」は、計画どおり実施できていなくとも、プロセスや内容等を考慮し、判定することとしていました。「戦略性が高く意欲的な目標・計画」について、自己評価を行いやすかったですか。

【1: 行いづらかった～5: 行いやすかった】

【「戦略性が高く意欲的な目標・計画」がある法人 (n=63)】

|  | 1    | 2    | 3     | 4     | 5    | 無回答 |
|--|------|------|-------|-------|------|-----|
|  | 0    | 3    | 24    | 30    | 6    | 0   |
|  | 0.0% | 4.8% | 38.1% | 47.6% | 9.5% |     |

(3) 達成状況報告書を作成された際、自己評価を行いにくい点がありましたか。

【1: 当てはまらない～5: 当てはまる】

|   |  | 1     | 2     | 3     | 4     | 5    | 無回答 |
|---|--|-------|-------|-------|-------|------|-----|
| a | 中期目標・計画の中に達成状況を自己評価しづらい点があった。                        | 6     | 39    | 23    | 21    | 1    | 0   |
|   |  | 6.7%  | 43.3% | 25.6% | 23.3% | 1.1% |     |
| b | 大学等として重要な事項が中期目標・計画とは別に実施されており、現在の活動実態と適合しないところがあった。 | 9     | 38    | 29    | 12    | 2    | 0   |
|   |  | 10.0% | 42.2% | 32.2% | 13.3% | 2.2% |     |
| c | 自己評価における段階判定の基準が理解しづらかった。                            | 11    | 33    | 19    | 25    | 2    | 0   |
|   |  | 12.2% | 36.7% | 21.1% | 27.8% | 2.2% |     |

(4) 達成状況報告書の具体的な記載内容や、どのような根拠となる資料・データを示すかは、各大学等に委ねていました。このような方法によって、以下のような問題を感じましたか。

【1: 全くそう思わない～5: 強くそう思う】

|   |                               | 1    | 2     | 3     | 4     | 5     | 無回答 |
|---|-------------------------------|------|-------|-------|-------|-------|-----|
| a | 活動や成果の記載内容に迷うことがあった。          | 2    | 34    | 23    | 30    | 1     | 0   |
|   |                               | 2.2% | 37.8% | 25.6% | 33.3% | 1.1%  |     |
| b | どの程度詳しく記載すべきか迷うことがあった。        | 1    | 15    | 15    | 50    | 9     | 0   |
|   |                               | 1.1% | 16.7% | 16.7% | 55.6% | 10.0% |     |
| c | 根拠となる資料・データの内容や記載方法に迷うことがあった。 | 2    | 22    | 20    | 42    | 4     | 0   |
|   |                               | 2.2% | 24.4% | 22.2% | 46.7% | 4.4%  |     |

(5) 達成状況報告書の字数の上限は、達成状況報告書を作成する上で適切でしたか。

【1: 少なかった～5: 多かった】

| 1     | 2     | 3     | 4    | 5    | 無回答 |
|-------|-------|-------|------|------|-----|
| 18    | 32    | 36    | 4    | 0    | 0   |
| 20.0% | 35.6% | 40.0% | 4.4% | 0.0% |     |

問2 参考資料「データ分析集」の活用について

今回の評価では「データ分析集」として、学生数や外部資金の推移などの定量的データを提供しました。

(1) 貴大学等では達成状況報告書を作成するにあたり、「データ分析集」を確認されましたか。

【1: 確認した 2: 確認しなかった】

| 1     | 2     | 無回答 |
|-------|-------|-----|
| 63    | 27    | 0   |
| 70.0% | 30.0% |     |

(2) 上の問いで「確認した」と回答された場合、達成状況報告書を作成する上で根拠となる資料・データとして参考になりましたか。(n=63)

【1: 参考になる情報ではなかった～5: 根拠となる資料・データとして参考になる重要な情報であった】

| 1    | 2     | 3     | 4    | 5    | 無回答 |
|------|-------|-------|------|------|-----|
| 4    | 35    | 24    | 0    | 0    | 0   |
| 6.3% | 55.6% | 38.1% | 0.0% | 0.0% |     |

(3) (1)の問いで「確認した」と回答された場合、他大学等のデータや全大学等の傾向等の情報を参照されましたか。(n=63)

【1: 他大学等のデータは確認しなかった～5: 他大学等のデータは参考になる重要な情報であった】

| 1     | 2     | 3     | 4    | 5    | 無回答 |
|-------|-------|-------|------|------|-----|
| 11    | 31    | 21    | 0    | 0    | 0   |
| 17.5% | 49.2% | 33.3% | 0.0% | 0.0% |     |

問3 貴大学等から提出した達成状況報告書について

提出した達成状況報告書について、どのような感想をお持ちですか。

【1: 当てはまらない～5: 当てはまる】

|   |                                     | 1     | 2    | 3     | 4     | 5    | 無回答 |
|---|-------------------------------------|-------|------|-------|-------|------|-----|
| a | 中期目標・計画の達成状況を明確に記載することができた。         | 0     | 0    | 16    | 67    | 7    | 0   |
|   |                                     | 0.0%  | 0.0% | 17.8% | 74.4% | 7.8% |     |
| b | 計画実施により得られた成果を明確に示すことができた。          | 0     | 3    | 25    | 60    | 2    | 0   |
|   |                                     | 0.0%  | 3.3% | 27.8% | 66.7% | 2.2% |     |
| c | 評価するのに必要な根拠・データを達成状況報告書に記載することができた。 | 0     | 3    | 30    | 53    | 4    | 0   |
|   |                                     | 0.0%  | 3.3% | 33.3% | 58.9% | 4.4% |     |
| d | 大学等の教育研究活動の実態をわかりやすく示すことができた。       | 0     | 2    | 32    | 52    | 4    | 0   |
|   |                                     | 0.0%  | 2.2% | 35.6% | 57.8% | 4.4% |     |
| e | 優れた点や特色ある点をわかりやすく示すことができた。          | 0     | 1    | 25    | 57    | 7    | 0   |
|   |                                     | 0.0%  | 1.1% | 27.8% | 63.3% | 7.8% |     |
| f | 改善を要する点をわかりやすく示すことができた。             | 10    | 5    | 37    | 32    | 3    | 3   |
|   |                                     | 11.5% | 5.7% | 42.5% | 36.8% | 3.4% |     |
| g | 一般社会の人にも理解しやすい達成状況報告書を作成することができた。   | 0     | 6    | 45    | 37    | 2    | 0   |
|   |                                     | 0.0%  | 6.7% | 50.0% | 41.1% | 2.2% |     |
| h | 全体として、十分に自己評価を行うことができた。             | 0     | 1    | 21    | 63    | 5    | 0   |
|   |                                     | 0.0%  | 1.1% | 23.3% | 70.0% | 5.6% |     |

## II 大学改革支援・学位授与機構による評価方法・評価結果について

### 問1 確認事項の照会・ヒアリングについて

(1) 今回の評価では、機構から大学等に確認事項の照会や資料提出の依頼を行った上で、対面又はテレビ会議システムの利用によるヒアリングを行いました。これらの方法について、適切だったと感じますか。

【1:適切でなかった～5:適切であった】

|   |                          | 1    | 2     | 3     | 4     | 5     | 無回答 |
|---|--------------------------|------|-------|-------|-------|-------|-----|
| a | 確認事項の照会や資料提出の依頼の方法(時期や量) | 0    | 5     | 11    | 67    | 7     | 0   |
|   |                          | 0.0% | 5.6%  | 12.2% | 74.4% | 7.8%  |     |
| b | 確認事項の照会や資料提出の依頼の内容       | 0    | 2     | 11    | 68    | 9     | 0   |
|   |                          | 0.0% | 2.2%  | 12.2% | 75.6% | 10.0% |     |
| c | ヒアリングの実施方法(時間や進行)        | 1    | 5     | 15    | 58    | 11    | 0   |
|   |                          | 1.1% | 5.6%  | 16.7% | 64.4% | 12.2% |     |
| d | ヒアリングにおける質疑応答の内容         | 1    | 10    | 23    | 48    | 8     | 0   |
|   |                          | 1.1% | 11.1% | 25.6% | 53.3% | 8.9%  |     |

(2) テレビ会議システムを用いたヒアリングを実施した大学等にお聞きます。ヒアリングでの質疑応答や意思疎通は適切に行うことができましたか。(n=36)

【1:できなかった～5:できた】

|  | 1    | 2     | 3     | 4     | 5    | 無回答 |
|--|------|-------|-------|-------|------|-----|
|  | 2    | 8     | 4     | 20    | 2    | 0   |
|  | 5.6% | 22.2% | 11.1% | 55.6% | 5.6% |     |

### 問3 評価結果(評価報告書)について

平成29年6月に公表しました貴大学等の評価結果の内容について、全体的にどのように思われましたか。

【1:当てはまらない～5:当てはまる】

|   |  | 1    | 2     | 3     | 4     | 5     | 無回答 |
|---|--|------|-------|-------|-------|-------|-----|
| a | 貴大学等の中期目標・計画を踏まえていた。                   | 0    | 0     | 15    | 60    | 15    | 0   |
|   |  | 0.0% | 0.0%  | 16.7% | 66.7% | 16.7% |     |
| b | 貴大学等の中期目標・計画の達成状況を反映していた。              | 0    | 3     | 25    | 52    | 10    | 0   |
|   |  | 0.0% | 3.3%  | 27.8% | 57.8% | 11.1% |     |
| c | 貴大学等において中期目標・計画により得られた教育研究上の成果を反映していた。 | 0    | 4     | 27    | 49    | 10    | 0   |
|   |  | 0.0% | 4.4%  | 30.0% | 54.4% | 11.1% |     |
| d | 段階判定結果は納得のいくものであった。                    | 2    | 14    | 31    | 36    | 7     | 0   |
|   |  | 2.2% | 15.6% | 34.4% | 40.0% | 7.8%  |     |
| e | 判定結果の根拠は明確であった。                        | 3    | 13    | 36    | 32    | 6     | 0   |
|   |  | 3.3% | 14.4% | 40.0% | 35.6% | 6.7%  |     |
| f | 総じて、貴大学等の中期目標・計画の達成状況が適正に評価された。        | 1    | 8     | 32    | 40    | 9     | 0   |
|   |  | 1.1% | 8.9%  | 35.6% | 44.4% | 10.0% |     |

### 問4 第1期中期目標期間評価からの評価報告書構成の変更点について

第2期中期目標期間における評価では、評価報告書の構成を以下のように変更しました。これらの変更について、適切と思われましたか。

【1:適切でない～5:適切である】

|   |   | 1    | 2    | 3     | 4     | 5     | 無回答 |
|---|---|------|------|-------|-------|-------|-----|
| a | 「特記すべき点」欄の「優れた点」、「特色ある点」、「改善を要する点」のうち主なものを「主な特記すべき点」欄に記載すること。 | 0    | 1    | 17    | 56    | 16    | 0   |
|   |   | 0.0% | 1.1% | 18.9% | 62.2% | 17.8% |     |
| b | 現況分析結果の「注目すべき質の向上」等の事項を関連する中項目の「優れた点」として記載すること。               | 0    | 0    | 22    | 53    | 14    | 1   |
|   |   | 0.0% | 0.0% | 24.7% | 59.6% | 15.7% |     |
| c | 中期計画ごとの「判定結果一覧表」を記載すること。                                      | 0    | 0    | 8     | 42    | 40    | 0   |
|   |   | 0.0% | 0.0% | 8.9%  | 46.7% | 44.4% |     |

### Ⅲ 評価による貴大学等での効果・影響について

#### 問1 評価の効果について

中期目標・計画に基づいて評価を行うことによって、貴大学等において以下の効果や影響があった(あるいは今後に顕在化する)と思われるか。

【1:当てはまらない～5:当てはまる】

|   |                                  | 1    | 2     | 3     | 4     | 5     | 無回答 |
|---|----------------------------------|------|-------|-------|-------|-------|-----|
| a | 貴大学等の中期目標・計画に基づく運営サイクルが確立できた。    | 1    | 4     | 12    | 62    | 11    | 0   |
|   |                                  | 1.1% | 4.4%  | 13.3% | 68.9% | 12.2% |     |
| b | 教育研究の課題が把握できた。                   | 1    | 1     | 16    | 63    | 9     | 0   |
|   |                                  | 1.1% | 1.1%  | 17.8% | 70.0% | 10.0% |     |
| c | 全体的にみて、教育活動が改善した。                | 0    | 1     | 42    | 40    | 6     | 1   |
|   |                                  | 0.0% | 1.1%  | 47.2% | 44.9% | 6.7%  |     |
| d | 全体的にみて、研究活動が改善した。                | 0    | 2     | 46    | 36    | 6     | 0   |
|   |                                  | 0.0% | 2.2%  | 51.1% | 40.0% | 6.7%  |     |
| e | 貴大学等の個性の伸長を促進できた。                | 0    | 4     | 40    | 38    | 8     | 0   |
|   |                                  | 0.0% | 4.4%  | 44.4% | 42.2% | 8.9%  |     |
| f | 教職員の間で大学等の目標や方向性が共有された。          | 0    | 8     | 35    | 44    | 3     | 0   |
|   |                                  | 0.0% | 8.9%  | 38.9% | 48.9% | 3.3%  |     |
| g | 執行部のリーダーシップが高まった。                | 2    | 3     | 33    | 46    | 6     | 0   |
|   |                                  | 2.2% | 3.3%  | 36.7% | 51.1% | 6.7%  |     |
| h | 社会に対し貴大学等の活動を説明することの重要さが学内に浸透した。 | 2    | 13    | 37    | 34    | 4     | 0   |
|   |                                  | 2.2% | 14.4% | 41.1% | 37.8% | 4.4%  |     |
| i | 社会への説明責任が果たされた。                  | 0    | 3     | 31    | 50    | 6     | 0   |
|   |                                  | 0.0% | 3.3%  | 34.4% | 55.6% | 6.7%  |     |
| j | 大学等間の競争意識が生まれた。                  | 6    | 16    | 39    | 26    | 3     | 0   |
|   |                                  | 6.7% | 17.8% | 43.3% | 28.9% | 3.3%  |     |

#### 問3 他大学等の評価結果の分析状況について

他大学等の中期目標の達成状況に関する評価結果の内容の分析を行いましたか。

(1) 他大学等の評価結果の内容を分析しましたか。

【1:分析した 2:分析しなかった】

| 1     | 2     | 無回答 |
|-------|-------|-----|
| 61    | 29    | 0   |
| 67.8% | 32.2% |     |

(2) 上の問いで「分析した」と回答された場合、分析した結果は役に立ちましたか。(n=61)

【1:役に立たなかった～5:役に立った】

| 1    | 2    | 3     | 4     | 5    | 無回答 |
|------|------|-------|-------|------|-----|
| 0    | 2    | 20    | 34    | 5    | 0   |
| 0.0% | 3.3% | 32.8% | 55.7% | 8.2% |     |

#### Ⅳ 自己評価のための体制等について

##### 問1 自己評価の体制・作業負担について

(1) 達成状況報告書の作成を開始した時期(各中期目標・計画の実施状況の記載を開始した時期)をご回答ください。

|          |    |       |
|----------|----|-------|
| ～平成26年3月 | 1  | 1.1%  |
| 4月       | 0  | 0.0%  |
| 5月       | 0  | 0.0%  |
| 6月       | 1  | 1.1%  |
| 7月       | 1  | 1.1%  |
| 8月       | 0  | 0.0%  |
| 9月       | 2  | 2.2%  |
| 10月      | 1  | 1.1%  |
| 11月      | 0  | 0.0%  |
| 12月      | 2  | 2.2%  |
| 平成27年1月  | 0  | 0.0%  |
| 2月       | 0  | 0.0%  |
| 3月       | 2  | 2.2%  |
| 4月       | 4  | 4.4%  |
| 5月       | 2  | 2.2%  |
| 6月       | 4  | 4.4%  |
| 7月       | 8  | 8.9%  |
| 8月       | 8  | 8.9%  |
| 9月       | 10 | 11.1% |
| 10月      | 15 | 16.7% |
| 11月      | 3  | 3.3%  |
| 12月      | 8  | 8.9%  |
| 平成28年1月  | 5  | 5.6%  |
| 2月       | 4  | 4.4%  |
| 3月       | 5  | 5.6%  |
| 4月       | 4  | 4.4%  |
| 無回答      | 0  |       |

(2) 上の問いで回答された作成開始時期以降、達成状況報告書の作成作業を行った体制についてお聞きします。

②評価を主な職務として担当した教員・職員のうち、達成状況報告書の作成(現況調査表は除く)を担当したおおむねの人数について、フルタイム換算により分かる範囲でご回答ください(たとえば、達成状況報告書作成開始以降から提出までの職務の半分が報告書作成に関する業務であれば0.5人。フルタイム換算での回答がしづらければ、人/日、人/月などの回答でも結構です)。

|     |               | 作成担当者として記載あり | 記載なし  |
|-----|---------------|--------------|-------|
| 教員等 | 理事・副学長、評価室等の長 | 76           | 14    |
|     |               | 84.4%        | 15.6% |
|     | 上記以外の教員       | 49           | 41    |
|     |               | 54.4%        | 45.6% |
| 職員  | 部長、課長級        | 73           | 17    |
|     |               | 81.1%        | 18.9% |
|     | 課長補佐、係長級      | 87           | 3     |
|     |               | 96.7%        | 3.3%  |
|     | 主任、係員級        | 78           | 12    |
|     | 86.7%         | 13.3%        |       |
|     | 事務補佐員等        | 18           | 72    |
|     |               | 20.0%        | 80.0% |
| その他 |               | 4            | 86    |
|     |               | 4.4%         | 95.6% |

(3) 達成状況報告書の作成において、大学等内でデータの収集や分析を行う専門的な部署や人員(IR、URAなど)が関与しましたか。関与していた場合、中期目標の教育・研究・その他の目標ごとに、関与した専門部署名や専門人材の職名等を以下にご記入いただき、関与の程度を以下の5段階からご回答ください。

(関与の有無)

|                   | 関与あり  | 関与なし  |
|-------------------|-------|-------|
| 教育に関する目標          | 41    | 49    |
|                   | 45.6% | 54.4% |
| 研究に関する目標          | 49    | 41    |
|                   | 54.4% | 45.6% |
| その他の目標(社会連携・国際など) | 32    | 58    |
|                   | 35.6% | 64.4% |

(関与の程度)

【1:2割未満の中期計画についてデータ作成・分析に関与した  
～5:8割以上の中期計画についてデータ作成・分析に関与した】

|                   | 1     | 2     | 3     | 4     | 5     |
|-------------------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 教育に関する目標          | 21    | 12    | 7     | 7     | 6     |
|                   | 39.6% | 22.6% | 13.2% | 13.2% | 11.3% |
| 研究に関する目標          | 22    | 20    | 8     | 6     | 6     |
|                   | 35.5% | 32.3% | 12.9% | 9.7%  | 9.7%  |
| その他の目標(社会連携・国際など) | 18    | 18    | 3     | 3     | 6     |
|                   | 37.5% | 37.5% | 6.3%  | 6.3%  | 12.5% |

※関与した専門部署名や専門人材の職名等ごとに集計しているため、割合の母数は上記設問「関与あり」の回答数と異なる。

(4) 今回の達成状況報告書の作成に要した人員・時間は、国立大学法人評価の持つ意義を鑑みて、多かったですか、少なかったですか。

【1:多かった～5:少なかった】

| 1     | 2     | 3     | 4     | 5    | 無回答 |
|-------|-------|-------|-------|------|-----|
| 10    | 26    | 28    | 21    | 5    | 0   |
| 11.1% | 28.9% | 31.1% | 23.3% | 5.6% |     |

(5) 学部・研究科等から本部に提出された教育・研究の現況調査表(研究業績説明書含む)について、本部において各現況調査表の記載内容の精査や調整を行いましたか。

【1:ほとんど行わなかった(全ての記載内容の2割未満)～5:十分に行った(8割以上)】

| 1    | 2    | 3     | 4     | 5     | 無回答 |
|------|------|-------|-------|-------|-----|
| 1    | 4    | 14    | 21    | 48    | 2   |
| 1.1% | 4.5% | 15.9% | 23.9% | 54.5% |     |

(6) 達成状況報告書の作成にかかる作業負担、あるいはその効率化の要因についてお聞きます。

①作業を効率的に実施できた要因について、以下から当てはまるものを全て選んでください(複数選択可)。

|   |  | 回答あり  | 回答なし  |
|---|--|-------|-------|
| a | 大学等内に目標・計画の進捗管理のためのデータベースがあることで、効率的に作業できた。 | 32    | 58    |
|   |  | 35.6% | 64.4% |
| b | これまでの年度目標・計画の進捗状況を積み重ねることで、効率的に作業できた。      | 71    | 19    |
|   |  | 78.9% | 21.1% |
| c | 目標・計画ごとに責任者が指定されていることで、効率的に作業できた。          | 54    | 36    |
|   |  | 60.0% | 40.0% |

問2 機構による説明会(平成27年7月実施)について

達成状況報告書の作成方法や評価全体の進め方については、機構が実施した説明会により理解できましたか。

【1:理解できなかった～5:理解できた 0:参加していない】

| 1    | 2    | 3     | 4     | 5    | 0    |
|------|------|-------|-------|------|------|
| 0    | 5    | 18    | 58    | 8    | 1    |
| 0.0% | 5.6% | 20.0% | 64.4% | 8.9% | 1.1% |
|      |      |       |       |      | 無回答  |
|      |      |       |       |      | 0    |

問3 実績報告書作成要領について

達成状況報告書の作成方法は、実績報告書作成要領により理解できましたか。

【1:理解できなかった～5:理解できた】

| 1    | 2    | 3     | 4     | 5     | 無回答 |
|------|------|-------|-------|-------|-----|
| 0    | 2    | 9     | 67    | 12    | 0   |
| 0.0% | 2.2% | 10.0% | 74.4% | 13.3% |     |

V 今後の評価のあり方について

問1 今後の評価の方向性について

第3期中期目標期間の国立大学法人評価では、評価実施の目的として、どのようなことを重視すべきと思われますか。

【1:全くそう思わない～5:強くそう思う】

|  | 1    | 2     | 3     | 4     | 5     | 無回答 |
|--|------|-------|-------|-------|-------|-----|
| a 大学等の個性の伸長に、より寄与すべきである。   | 0    | 0     | 10    | 63    | 17    | 0   |
|  | 0.0% | 0.0%  | 11.1% | 70.0% | 18.9% |     |
| b 大学の類型(各国立大学法人の機能強化の方向性に応じた運営費交付金に係る3つの重点支援枠など)ごとの機能強化に、より寄与すべきである。 | 1    | 4     | 32    | 42    | 8     | 3   |
|  | 1.1% | 4.6%  | 36.8% | 48.3% | 9.2%  |     |
| c 中期目標・計画の達成状況の報告による社会への説明責任に、より焦点をおくべきである。                          | 0    | 4     | 38    | 45    | 3     | 0   |
|  | 0.0% | 4.4%  | 42.2% | 50.0% | 3.3%  |     |
| d 大学等内の管理運営サイクルの向上に、より寄与すべきである。                                      | 0    | 0     | 25    | 56    | 9     | 0   |
|  | 0.0% | 0.0%  | 27.8% | 62.2% | 10.0% |     |
| e 教育・研究活動の質的向上に、より寄与すべきである。  | 1    | 1     | 9     | 60    | 19    | 0   |
|  | 1.1% | 1.1%  | 10.0% | 66.7% | 21.1% |     |
| f 大学等の教育研究の国際的水準や国際的競争力の向上に、より寄与すべきである。                              | 1    | 3     | 36    | 43    | 7     | 0   |
|  | 1.1% | 3.3%  | 40.0% | 47.8% | 7.8%  |     |
| g 大学等内における業務や組織の改廃の判断へ、より寄与すべきである。                                   | 1    | 12    | 54    | 19    | 3     | 1   |
|  | 1.1% | 13.5% | 60.7% | 21.3% | 3.4%  |     |
| h 運営費交付金の算定へ、より影響すべきである。   | 3    | 12    | 57    | 14    | 3     | 1   |
|  | 3.4% | 13.5% | 64.0% | 15.7% | 3.4%  |     |
| i 大学等への公的支出の意義の明確化に、より寄与すべきである。                                      | 0    | 8     | 45    | 33    | 3     | 1   |
|  | 0.0% | 9.0%  | 50.6% | 37.1% | 3.4%  |     |
| j 大学等間の競争意識の向上に、より寄与すべきである。  | 5    | 24    | 49    | 11    | 0     | 1   |
|  | 5.6% | 27.0% | 55.1% | 12.4% | 0.0%  |     |
| k 大学等に対する他の評価との関係を含めて、評価内容を整理すべきである。                                 | 0    | 1     | 8     | 36    | 45    | 0   |
|  | 0.0% | 1.1%  | 8.9%  | 40.0% | 50.0% |     |

# 学部・研究科等の教育の「現況分析」に関する検証アンケート 法人向け

n= 821

## I 貴学部・研究科等における「教育に関する現況調査表」の作成作業について

### 問1 現況調査表の形式や作成方法について

(1) 現況調査表では「想定する関係者とその期待」を記載し、学部・研究科等で想定する関係者の期待に応えているか、という視点で記載していただきました。このような方法で現況調査表を問題なく作成できましたか。

【1: 作成しづらかった～5: 問題なく作成できた】

| 1    | 2     | 3     | 4     | 5    | 無回答 |
|------|-------|-------|-------|------|-----|
| 50   | 198   | 175   | 355   | 43   | 0   |
| 6.1% | 24.1% | 21.3% | 43.2% | 5.2% |     |

(2) 現況調査表では、分析項目「I 教育活動の状況」、「II 教育成果の状況」の各観点、及び「質の向上度」ごとに記載していただきました。それぞれの項目について、記載は容易でしたか、難しかったですか。

【1: 難しかった～5: 容易だった】

|   |                                   | 1     | 2     | 3     | 4     | 5    | 無回答 |
|---|-----------------------------------|-------|-------|-------|-------|------|-----|
| a | 「I 教育活動の状況」<br>教育実施体制<br>教育内容・方法  | 19    | 108   | 293   | 324   | 76   | 1   |
|   |                                   | 2.3%  | 13.2% | 35.7% | 39.5% | 9.3% |     |
| b | 「II 教育成果の状況」<br>学業の成果<br>進路・就職の状況 | 35    | 194   | 303   | 242   | 46   | 1   |
|   |                                   | 4.3%  | 23.7% | 37.0% | 29.5% | 5.6% |     |
| c | 「質の向上度」                           | 85    | 311   | 287   | 112   | 23   | 3   |
|   |                                   | 10.4% | 38.0% | 35.1% | 13.7% | 2.8% |     |

(3) 現況調査表では、評価項目・観点ごとに具体的に何を記載するかや、どのような根拠となる資料・データを示すかは、各大学等に委ねていました。

①このような方法により、貴学部・研究科等の個性的な取組を記載できたと思われませんか。

【1: 全くそう思わない～5: 強くそう思う】

| 1    | 2    | 3     | 4     | 5    | 無回答 |
|------|------|-------|-------|------|-----|
| 6    | 48   | 232   | 483   | 52   | 0   |
| 0.7% | 5.8% | 28.3% | 58.8% | 6.3% |     |

②このような方法によって、以下のような問題を感じましたか。

【1: 全くそう思わない～5: 強くそう思う】

|   |  | 1    | 2     | 3     | 4     | 5    | 無回答 |
|---|--|------|-------|-------|-------|------|-----|
| a | 活動や成果をどのように記載すればよいか迷うことがあった。           | 12   | 180   | 185   | 386   | 58   | 0   |
|   |  | 1.5% | 21.9% | 22.5% | 47.0% | 7.1% |     |
| b | 根拠となる資料・データの内容や様式をどのようにすればよいか迷うことがあった。 | 8    | 166   | 173   | 395   | 79   | 0   |
|   |  | 1.0% | 20.2% | 21.1% | 48.1% | 9.6% |     |

(4) 観点ごとに水準判定された際、実績報告書作成要領に記載された段階判定（「期待される水準を上回る」や「期待される水準にある」などの判定）の基準は明確でしたか。

【1: わかりづらかった～5: 明確であった】

| 1    | 2     | 3     | 4     | 5    | 無回答 |
|------|-------|-------|-------|------|-----|
| 66   | 196   | 266   | 280   | 13   | 0   |
| 8.0% | 23.9% | 32.4% | 34.1% | 1.6% |     |

(5) 現況調査表の字数の上限は、現況調査表を作成する上で適切でしたか。

【1: 少なかった～5: 多かった】

| 1    | 2     | 3     | 4    | 5    | 無回答 |
|------|-------|-------|------|------|-----|
| 68   | 233   | 467   | 42   | 5    | 6   |
| 8.3% | 28.6% | 57.3% | 5.2% | 0.6% |     |

問2 参考資料の活用について

(1) 学系ごとの「参考例」について

人文、社会、理学、工学、農学、保健、教育の7学系については、分野ごとの教育活動や成果の特徴を踏まえて、大学等が現況調査表に記載することが予想される取組や成果の事例を挙げた「参考例」を事前に公表しました。

① 現況調査表の作成にあたり、「参考例」は確認されましたか。

【1: 確認した 2: 確認しなかった(該当する学系の「参考例」が公表されていない場合を含む)】

| 1     | 2     | 無回答 |
|-------|-------|-----|
| 531   | 286   | 4   |
| 65.0% | 35.0% |     |

② 上の問いで「確認した」と回答された場合、以下から当てはまるものを全て選んでください(複数選択可)。(n=531)

|   |                           |              |
|---|---------------------------|--------------|
| a | 事前に記載する取組や成果のイメージがついた。    | 434<br>81.7% |
| b | 現況調査表に「参考例」を踏まえた記載をした。    | 339<br>63.8% |
| c | 観点ごとの段階判定をする際の参考になった。     | 220<br>41.4% |
| d | 例示の種類がより多ければ良いと感じた。       | 235<br>44.3% |
| e | 例示の数を少なくすると良いと感じた。        | 9<br>1.7%    |
| f | 例示をより具体的にすると良いと感じた。       | 269<br>50.7% |
| g | 自学部・研究科等にふさわしい例示が少ないと感じた。 | 161<br>30.3% |

(2) 「データ分析集」について

① 今回の評価では「データ分析集」として、学生数や外部資金の推移などの定量的データを提供しました。現況調査表を作成するにあたり、「データ分析集」を確認されましたか。

【1: 確認した 2: 確認しなかった】

| 1     | 2     | 無回答 |
|-------|-------|-----|
| 376   | 407   | 38  |
| 48.0% | 52.0% |     |

② 上の問いで「確認した」と回答された場合、現況調査表を作成する上で根拠となる資料・データとして参考になりましたか。(n=376)

【1: 参考になる情報ではなかった～5: 根拠となる資料・データとして参考になる重要な情報であった】

| 1    | 2     | 3     | 4    | 5    | 無回答 |
|------|-------|-------|------|------|-----|
| 12   | 107   | 218   | 28   | 9    | 2   |
| 3.2% | 28.6% | 58.3% | 7.5% | 2.4% |     |

問3 貴大学等から提出した現況調査表について

提出した現況調査表について、どのような感想をお持ちですか。

【1:当てはまらない～5:当てはまる】

|   |                                   | 1    | 2    | 3     | 4     | 5     | 無回答 |
|---|-----------------------------------|------|------|-------|-------|-------|-----|
| a | 学部・研究科等の目的を明確に記載することができた。         | 1    | 11   | 63    | 536   | 210   | 0   |
|   |                                   | 0.1% | 1.3% | 7.7%  | 65.3% | 25.6% |     |
| b | 「想定する関係者の期待」を明確に記載することができた。       | 6    | 59   | 278   | 404   | 74    | 0   |
|   |                                   | 0.7% | 7.2% | 33.9% | 49.2% | 9.0%  |     |
| c | 教育活動による成果を具体的に説明することができた。         | 1    | 27   | 140   | 529   | 124   | 0   |
|   |                                   | 0.1% | 3.3% | 17.1% | 64.4% | 15.1% |     |
| d | 教育活動の優れている点を具体的に説明することができた。       | 1    | 15   | 123   | 523   | 159   | 0   |
|   |                                   | 0.1% | 1.8% | 15.0% | 63.7% | 19.4% |     |
| e | 評価するのに必要な根拠・データを現況調査表に記載することができた。 | 3    | 29   | 212   | 492   | 85    | 0   |
|   |                                   | 0.4% | 3.5% | 25.8% | 59.9% | 10.4% |     |
| f | 一般社会の人にも理解しやすい現況調査表を作成することができた。   | 14   | 72   | 428   | 273   | 34    | 0   |
|   |                                   | 1.7% | 8.8% | 52.1% | 33.3% | 4.1%  |     |
| g | 全体的に見て、現況調査表の完成度は満足できるものとなった。     | 4    | 28   | 205   | 517   | 67    | 0   |
|   |                                   | 0.5% | 3.4% | 25.0% | 63.0% | 8.2%  |     |

II 大学改革支援・学位授与機構による評価方法・評価結果について

問1 確認事項の照会について

今回の評価では、評価者から大学等に確認事項の照会や資料提出の依頼を行いました。これらの方法について、適切だったと感じますか。

【確認事項・資料提出依頼のあった学部・研究科等のみ(n=255)】

【1:適切でなかった～5:適切であった】

|   |                          | 1    | 2    | 3     | 4     | 5     | 無回答 |
|---|--------------------------|------|------|-------|-------|-------|-----|
| a | 確認事項の照会や資料提出の依頼の方法(時期や量) | 3    | 20   | 91    | 112   | 25    | 4   |
|   |                          | 1.2% | 8.0% | 36.3% | 44.6% | 10.0% |     |
| b | 確認事項の照会や資料提出の依頼の内容       | 2    | 12   | 93    | 121   | 23    | 4   |
|   |                          | 0.8% | 4.8% | 37.1% | 48.2% | 9.2%  |     |

問2 評価結果(現況分析結果)について

平成29年6月に公表しました貴学部・研究科等の評価結果(現況分析結果)の内容について、全体的にどのように思われましたか。

【1:当てはまらない～5:当てはまる】

|   |                                     | 1    | 2    | 3     | 4     | 5     | 無回答 |
|---|-------------------------------------|------|------|-------|-------|-------|-----|
| a | 貴学部・研究科等の目的を踏まえていた。                 | 1    | 39   | 123   | 549   | 108   | 1   |
|   |                                     | 0.1% | 4.8% | 15.0% | 67.0% | 13.2% |     |
| b | 貴学部・研究科等の教育の実態を反映していた。              | 2    | 48   | 124   | 545   | 101   | 1   |
|   |                                     | 0.2% | 5.9% | 15.1% | 66.5% | 12.3% |     |
| c | 各分析項目・観点の段階判定は納得のいくものであった。          | 4    | 56   | 184   | 469   | 107   | 1   |
|   |                                     | 0.5% | 6.8% | 22.4% | 57.2% | 13.0% |     |
| d | 観点の判断理由に書かれた内容(指摘点)は納得のいくものであった。    | 4    | 35   | 208   | 490   | 83    | 1   |
|   |                                     | 0.5% | 4.3% | 25.4% | 59.8% | 10.1% |     |
| e | 質の向上度の段階判定は納得のいくものであった。             | 10   | 42   | 246   | 417   | 105   | 1   |
|   |                                     | 1.2% | 5.1% | 30.0% | 50.9% | 12.8% |     |
| f | 質の向上度の判断理由に書かれた内容(指摘点)は納得のいくものであった。 | 5    | 26   | 261   | 449   | 79    | 1   |
|   |                                     | 0.6% | 3.2% | 31.8% | 54.8% | 9.6%  |     |
| g | 全体的に、適正に評価された。                      | 4    | 34   | 165   | 504   | 113   | 1   |
|   |                                     | 0.5% | 4.1% | 20.1% | 61.5% | 13.8% |     |

### Ⅲ 評価による貴学部・研究科等の教育活動への効果・影響について

#### 問1 評価の効果について

今回行った、教育の現況を自己分析して報告し、外部者の評価を受けるという一連の過程によって、貴学部・研究科等において以下の効果や影響があった(あるいは今後に顕在化する)と思われますか。

【1:当てはまらない～5:当てはまる】

|   |                                | 1     | 2     | 3     | 4     | 5     | 無回答 |
|---|--------------------------------|-------|-------|-------|-------|-------|-----|
| a | 教育・学習の成果を重視するようになった。           | 14    | 39    | 216   | 460   | 90    | 2   |
|   |                                | 1.7%  | 4.8%  | 26.4% | 56.2% | 11.0% |     |
| b | 教育活動の質保証体制を構築した。               | 19    | 44    | 318   | 379   | 56    | 5   |
|   |                                | 2.3%  | 5.4%  | 39.0% | 46.4% | 6.9%  |     |
| c | 教育内容の体系性を意識するようになった。           | 15    | 43    | 273   | 394   | 92    | 4   |
|   |                                | 1.8%  | 5.3%  | 33.4% | 48.2% | 11.3% |     |
| d | 特色ある取り組みを促進した。                 | 14    | 27    | 245   | 428   | 105   | 2   |
|   |                                | 1.7%  | 3.3%  | 29.9% | 52.3% | 12.8% |     |
| e | 学生のニーズを踏まえた教育を行うようになった。        | 13    | 39    | 341   | 376   | 47    | 5   |
|   |                                | 1.6%  | 4.8%  | 41.8% | 46.1% | 5.8%  |     |
| f | 教育活動の今後の課題を把握できた。              | 20    | 37    | 241   | 414   | 107   | 2   |
|   |                                | 2.4%  | 4.5%  | 29.4% | 50.5% | 13.1% |     |
| g | 教職員の間で教育活動についての組織的な方向性が共有された。  | 18    | 97    | 425   | 255   | 23    | 3   |
|   |                                | 2.2%  | 11.9% | 52.0% | 31.2% | 2.8%  |     |
| h | 学部長・研究科長等のリーダーシップが高まった。        | 37    | 115   | 388   | 245   | 33    | 3   |
|   |                                | 4.5%  | 14.1% | 47.4% | 30.0% | 4.0%  |     |
| i | 社会に対し大学等の教育活動を説明することの重要性が浸透した。 | 25    | 70    | 307   | 379   | 38    | 2   |
|   |                                | 3.1%  | 8.5%  | 37.5% | 46.3% | 4.6%  |     |
| j | 学部・研究科や学科・専攻等の部局間の競争意識が高まった。   | 88    | 225   | 402   | 93    | 7     | 6   |
|   |                                | 10.8% | 27.6% | 49.3% | 11.4% | 0.9%  |     |
| k | 大学等間の競争意識が生まれた。                | 72    | 206   | 408   | 120   | 11    | 4   |
|   |                                | 8.8%  | 25.2% | 49.9% | 14.7% | 1.3%  |     |
| l | 全体的に見て、教育活動の改善に寄与した。           | 19    | 34    | 248   | 473   | 44    | 3   |
|   |                                | 2.3%  | 4.2%  | 30.3% | 57.8% | 5.4%  |     |

#### 問3 他大学等の評価結果の分析状況について

同一学系内の他大学等の学部・研究科等について、評価結果(現況分析結果)の内容の分析を行いましたか。

(1)他大学等の評価結果の内容を分析しましたか。

【1:分析した 2:分析しなかった】

| 1     | 2     | 無回答 |
|-------|-------|-----|
| 198   | 616   | 7   |
| 24.3% | 75.7% |     |

(2)上の問いで「分析した」と回答された場合、分析した結果は役に立ちましたか。(n=198)

【1:役に立たなかった～5:役に立った】

| 1    | 2    | 3     | 4     | 5    | 無回答 |
|------|------|-------|-------|------|-----|
| 0    | 19   | 91    | 83    | 3    | 2   |
| 0.0% | 9.7% | 46.4% | 42.3% | 1.5% |     |

#### IV 自己評価のための体制等について

##### 問1 自己評価の体制・作業負担について

(1) 教育に関する現況調査表の作成(各分析項目・観点の記載)を開始した時期をご回答ください。

|          |     |       |
|----------|-----|-------|
| ～平成26年3月 | 26  | 3.2%  |
| 4月       | 13  | 1.6%  |
| 5月       | 6   | 0.7%  |
| 6月       | 6   | 0.7%  |
| 7月       | 10  | 1.2%  |
| 8月       | 6   | 0.7%  |
| 9月       | 7   | 0.9%  |
| 10月      | 8   | 1.0%  |
| 11月      | 7   | 0.9%  |
| 12月      | 3   | 0.4%  |
| 平成27年1月  | 19  | 2.3%  |
| 2月       | 7   | 0.9%  |
| 3月       | 19  | 2.3%  |
| 4月       | 86  | 10.5% |
| 5月       | 53  | 6.5%  |
| 6月       | 53  | 6.5%  |
| 7月       | 91  | 11.2% |
| 8月       | 60  | 7.4%  |
| 9月       | 61  | 7.5%  |
| 10月      | 113 | 13.8% |
| 11月      | 53  | 6.5%  |
| 12月      | 32  | 3.9%  |
| 平成28年1月  | 23  | 2.8%  |
| 2月       | 16  | 2.0%  |
| 3月       | 15  | 1.8%  |
| 4月       | 18  | 2.2%  |
| 5月       | 1   | 0.1%  |
| 6月       | 4   | 0.5%  |
| 無回答      | 5   |       |

(2)上の問いで回答された作成開始時期以降、教育に関する現況調査表の作成作業を行った体制についてお聞きます。

②貴学部・研究科等の現況調査表の作成を主な職務として担当した教員・職員のうち、教育に関する現況調査表の作成(達成状況報告書は除く)を担当したおおむねの人数について、フルタイム換算により分かる範囲でご回答ください(たとえば、現況調査表作成開始以降から提出までの職務の半分が、教育の現況調査表作成に関する業務であれば、0.5人。フルタイム換算での回答がしづらければ、人/日、人/月などの回答でも結構です)。

|     |               | 作成担当者として記載あり | 記載なし         |
|-----|---------------|--------------|--------------|
| 教員等 | 理事・副学長、評価室等の長 | 131<br>16.0% | 690<br>84.0% |
|     | 学部長・研究科長等     | 452<br>55.1% | 369<br>44.9% |
|     | 副学部長・副研究科長等   | 507<br>61.8% | 314<br>38.2% |
|     | 上記以外の教員       | 592<br>72.1% | 229<br>27.9% |
| 職員  | 部長、課長級        | 317<br>38.6% | 504<br>61.4% |
|     | 課長補佐、係長級      | 642<br>78.2% | 179<br>21.8% |
|     | 主任、係員級        | 401<br>48.8% | 420<br>51.2% |
|     | 事務補佐員等        | 148<br>18.0% | 673<br>82.0% |
| その他 |               | 47<br>5.7%   | 774<br>94.3% |

(3)教育に関する現況調査表の作成において、大学等内あるいは部局内において教育に関するデータの収集や分析を行う専門的な部署や人員(IRなど)が関与しましたか。関与していた場合、関与した専門部署名や専門人材の職名等を以下にご記入いただき、関与の程度を以下の5段階からご回答ください。

(関与の有無)

| 関与あり         | 関与なし         |
|--------------|--------------|
| 284<br>34.6% | 537<br>65.4% |

(関与の程度)

【1:2割未満の中期計画についてデータ作成・分析に関与した  
~5:8割以上の中期計画についてデータ作成・分析に関与した】

| 1            | 2           | 3           | 4          | 5           |
|--------------|-------------|-------------|------------|-------------|
| 116<br>32.7% | 97<br>27.3% | 53<br>14.9% | 28<br>7.9% | 61<br>17.2% |

※関与した専門部署名や専門人材の職名等ごとに集計しているため、割合の母数は上記設問「関与あり」の回答数と異なる。

(4)今回の現況調査表の作成に要した人員・時間は、国立大学法人評価の持つ意義を鑑みて、多かったですか、少なかったですか。

【1:多かった~5:少なかった】

| 1            | 2            | 3            | 4            | 5          | 無回答 |
|--------------|--------------|--------------|--------------|------------|-----|
| 137<br>17.1% | 202<br>25.3% | 266<br>33.3% | 149<br>18.6% | 46<br>5.8% | 21  |

問2 実績報告書作成要領について

現況調査表の作成方法は、実績報告書作成要領により理解できましたか。

【1:理解できなかった～5:理解できた】

| 1    | 2    | 3     | 4     | 5    | 無回答 |
|------|------|-------|-------|------|-----|
| 7    | 40   | 212   | 491   | 67   | 4   |
| 0.9% | 4.9% | 25.9% | 60.1% | 8.2% |     |

V 今後の評価のあり方について

問1 今後の評価の方向性について

第3期中期目標期間の国立大学法人評価では、どのような評価のあり方を望まれますか。

【1:全くそう思わない～5:強くそう思う】

|   |   | 1    | 2     | 3     | 4     | 5     | 無回答 |
|---|---|------|-------|-------|-------|-------|-----|
| a | 今後も各学系(分野)の大学教員を中心とする評価者が現況調査表を評価する方法で実施すべきである。 | 14   | 58    | 232   | 453   | 60    | 4   |
|   |   | 1.7% | 7.1%  | 28.4% | 55.4% | 7.3%  |     |
| b | 現況調査表に共通的に記載すべき内容を定めるべきである。                     | 15   | 109   | 291   | 310   | 92    | 4   |
|   |   | 1.8% | 13.3% | 35.6% | 37.9% | 11.3% |     |
| c | 共通的に設定したデータ・指標をより用いた評価とすべきである。                  | 27   | 154   | 334   | 246   | 56    | 4   |
|   |   | 3.3% | 18.8% | 40.9% | 30.1% | 6.9%  |     |
| d | 学系(分野)ごとの記載項目や評価基準をより明確にすべきである。                 | 7    | 66    | 244   | 398   | 102   | 4   |
|   |   | 0.9% | 8.1%  | 29.9% | 48.7% | 12.5% |     |
| e | 現況調査表の分量をより少なくすべきである。                           | 7    | 102   | 320   | 278   | 110   | 4   |
|   |   | 0.9% | 12.5% | 39.2% | 34.0% | 13.5% |     |
| f | 評価報告書の分量をより少なくすべきである。                           | 19   | 149   | 413   | 166   | 69    | 5   |
|   |   | 2.3% | 18.3% | 50.6% | 20.3% | 8.5%  |     |
| g | 評価報告書に詳細な結果を記載することが必要である。                       | 30   | 152   | 400   | 186   | 48    | 5   |
|   |   | 3.7% | 18.6% | 49.0% | 22.8% | 5.9%  |     |
| h | 評価報告書に評価者による改善提案等のコメントを記載すべきである。                | 21   | 104   | 333   | 289   | 68    | 6   |
|   |   | 2.6% | 12.8% | 40.9% | 35.5% | 8.3%  |     |

# 学部・研究科等の研究の「現況分析」に関する検証アンケート 法人向け

n= 591

## I 貴学部・研究科等における「研究に関する現況調査表」の作成作業について

### 問1 現況調査表の作成方法について

(1) 現況調査表では「想定する関係者とその期待」を記載し、学部・研究科等で想定する関係者の期待に応えているか、という視点で記載していただきました。このような方法で現況調査表を問題なく作成できましたか。

【1: 作成しづらかった～5: 問題なく作成できた】

| 1    | 2     | 3     | 4     | 5    | 無回答 |
|------|-------|-------|-------|------|-----|
| 32   | 124   | 108   | 288   | 38   | 1   |
| 5.4% | 21.0% | 18.3% | 48.8% | 6.4% |     |

(2) 現況調査表では、分析項目「I 研究活動の状況」、「II 研究成果の状況」の各観点、及び「質の向上度」ごとに記載していただきました。それぞれの項目について、記載は容易でしたか、難しかったですか。

【1: 難しかった～5: 容易だった】

|   |  | 1    | 2     | 3     | 4     | 5    | 無回答 |
|---|--|------|-------|-------|-------|------|-----|
| a | 「I 研究活動の状況」<br>研究活動の状況<br>共同利用・共同研究の実施状況 | 7    | 90    | 219   | 225   | 49   | 1   |
|   |  | 1.2% | 15.3% | 37.1% | 38.1% | 8.3% |     |
| b | 「II 研究成果の状況」<br>研究成果の状況                  | 12   | 119   | 225   | 193   | 40   | 2   |
|   |  | 2.0% | 20.2% | 38.2% | 32.8% | 6.8% |     |
| c | 「質の向上度」                                  | 40   | 232   | 203   | 96    | 16   | 4   |
|   |  | 6.8% | 39.5% | 34.6% | 16.4% | 2.7% |     |

(3) 現況調査表では、評価項目・観点ごとに具体的に何を記載するかや、どのような根拠となる資料・データを示すかは、各大学等に委ねていました。

①このような方法により、貴学部・研究科等の個性的な取組を記載できたと思われましたか。

【1: 全くそう思わない～5: 強くそう思う】

| 1    | 2    | 3     | 4     | 5    | 無回答 |
|------|------|-------|-------|------|-----|
| 3    | 29   | 166   | 360   | 31   | 2   |
| 0.5% | 4.9% | 28.2% | 61.1% | 5.3% |     |

②このような方法によって、以下のような問題を感じましたか。

【1: 全くそう思わない～5: 強くそう思う】

|   |  | 1    | 2     | 3     | 4     | 5    | 無回答 |
|---|--|------|-------|-------|-------|------|-----|
| a | 活動や成果をどのように記載すればよいか迷うことがあった。           | 8    | 138   | 117   | 296   | 31   | 1   |
|   |  | 1.4% | 23.4% | 19.8% | 50.2% | 5.3% |     |
| b | 根拠となる資料・データの内容や様式をどのようにすればよいか迷うことがあった。 | 5    | 127   | 114   | 304   | 39   | 2   |
|   |  | 0.8% | 21.6% | 19.4% | 51.6% | 6.6% |     |

(4) 観点ごとに水準判定された際、実績報告書作成要領に記載された段階判定（「期待される水準を上回る」や「期待される水準にある」などの判定）の基準は明確でしたか。

【1: わかりづらかった～5: 明確であった】

| 1    | 2     | 3     | 4     | 5    | 無回答 |
|------|-------|-------|-------|------|-----|
| 28   | 150   | 192   | 201   | 18   | 2   |
| 4.8% | 25.5% | 32.6% | 34.1% | 3.1% |     |

(5) 現況調査表の字数の上限は、現況調査表を作成する上で適切でしたか。

【1: 少なかった～5: 多かった】

| 1    | 2     | 3     | 4    | 5    | 無回答 |
|------|-------|-------|------|------|-----|
| 36   | 157   | 360   | 31   | 3    | 4   |
| 6.1% | 26.7% | 61.3% | 5.3% | 0.5% |     |

## 問2 研究業績説明書について

(1) 今回の研究業績説明書では、論文等ごとの提出ではなく、1つの「研究業績」に代表的な研究成果(論文等)を最大3つまで記載する方式をとり、「研究業績」を単位として提出していただきました。この方法で研究業績説明書を作成しづらい点がありましたか。作成しづらい点があった場合は、具体的な内容もご記入ください。

【1: 作成しづらい点があった 2: 作成しづらい点はなかった】

| 1     | 2     | 無回答 |
|-------|-------|-----|
| 209   | 378   | 4   |
| 35.6% | 64.4% |     |

(2) 研究業績説明書では、各研究業績について「SS」あるいは「S」と判断した根拠を第三者による評価結果や客観的指標に基づいて記載していただきました。

①「学術的意義」を有すると判断した研究業績について、根拠を十分に記載できましたか。提出した業績の中で根拠を十分に記載できたと思う割合を以下の5段階からご回答ください。

【1: 非常に少なかった(～2割未満)～5: 非常に多かった(8割～)】

| 1    | 2    | 3     | 4     | 5     | 無回答 |
|------|------|-------|-------|-------|-----|
| 1    | 29   | 217   | 235   | 104   | 5   |
| 0.2% | 4.9% | 37.0% | 40.1% | 17.7% |     |

②「社会、経済、文化的意義」を有すると判断した研究業績について、根拠を十分に記載できましたか。提出した業績の中で根拠を十分に記載できたと思う割合を以下の5段階からご回答ください。

【1: 非常に少なかった(～2割未満)～5: 非常に多かった(8割～)】

| 1    | 2     | 3     | 4     | 5     | 無回答 |
|------|-------|-------|-------|-------|-----|
| 12   | 76    | 249   | 174   | 66    | 14  |
| 2.1% | 13.2% | 43.2% | 30.2% | 11.4% |     |

(3) 研究業績の選定に際しては、「学術的意義」および／あるいは「社会、経済、文化的意義」について、「SS」あるいは「S」に該当する研究業績を選定していただきました。

①学術的意義について、「SS」、「S」、「S未満」の間の判断はしやすかったですか。提出した研究業績の中で確信をもって判断を下すことができた割合を以下の5段階からご回答ください。

【1: 2割未満の業績のみに確信をもって判断を下すことができた  
～5: 8割以上の業績で確信をもって判断を下すことができた】

| 1    | 2     | 3     | 4     | 5     | 無回答 |
|------|-------|-------|-------|-------|-----|
| 11   | 62    | 172   | 235   | 104   | 7   |
| 1.9% | 10.6% | 29.5% | 40.2% | 17.8% |     |

②社会、経済、文化的意義について、「SS」、「S」、「S未満」の間の判断はしやすかったですか。提出した研究業績の中で確信をもって判断を下すことができた割合を以下の5段階からご回答ください。

【1: 2割未満の業績のみに確信をもって判断を下すことができた  
～5: 8割以上の業績で確信をもって判断を下すことができた】

| 1    | 2     | 3     | 4     | 5    | 無回答 |
|------|-------|-------|-------|------|-----|
| 26   | 99    | 209   | 182   | 56   | 19  |
| 4.5% | 17.3% | 36.5% | 31.8% | 9.8% |     |

(4)第1期中期目標期間の国立大学法人評価では、各研究業績の意義について「学術的意義」と「社会、経済、文化的意義」のどちらか一方から選択することを求めていましたが、今回の評価では、各研究業績で両方の意義を同時に選択することも可能としました。それにより研究業績説明書は作成しやすかったですか、作成しづらかったですか。

【1:作成しづらかった～5:作成しやすかった】

| 1    | 2    | 3     | 4     | 5     | 無回答 |
|------|------|-------|-------|-------|-----|
| 6    | 55   | 238   | 215   | 70    | 7   |
| 1.0% | 9.4% | 40.8% | 36.8% | 12.0% |     |

### 問3 参考資料の活用について

#### (1)学系ごとの「参考例」について

人文、社会、理学、工学、農学、保健、教育の7学系については、分野ごとの研究活動や成果の特徴を踏まえて、大学等が現況調査表に記載することが予想される取組や成果の事例を挙げた「参考例」を事前に公表しました。

①現況調査表の作成にあたり、「参考例」は確認されましたか。

【1:確認した 2:確認しなかった(該当する学系の「参考例」が公表されていない場合を含む)】

| 1     | 2     | 無回答 |
|-------|-------|-----|
| 394   | 194   | 3   |
| 67.0% | 33.0% |     |

②上の問いで「確認した」と回答された場合、以下から当てはまるものを全て選んでください(複数選択可)。(n=394)

|   |                           |              |
|---|---------------------------|--------------|
| a | 事前に記載する取組や成果のイメージがついた。    | 317<br>80.5% |
| b | 現況調査表に「参考例」を踏まえた記載をした。    | 270<br>68.5% |
| c | 観点ごとの段階判定をする際の参考になった。     | 189<br>48.0% |
| d | 例示の種類がより多ければ良いと感じた。       | 202<br>51.3% |
| e | 例示の数を少なくすると良いと感じた。        | 6<br>1.5%    |
| f | 例示をより具体的にすると良いと感じた。       | 212<br>53.8% |
| g | 自学部・研究科等にふさわしい例示が少ないと感じた。 | 136<br>34.5% |

③「参考例」には、研究業績説明書を作成する際に参考にし得るよう「卓越した研究業績の根拠・データ例」を記載していました。研究業績説明書の作成において参照されましたか。

【1:参照した 2:参照しなかった】

| 1     | 2     | 無回答 |
|-------|-------|-----|
| 385   | 200   | 6   |
| 65.8% | 34.2% |     |

④上の問いで「参照した」と回答された場合、以下から当てはまるものを全て選んでください(複数選択可)。(n=385)

|   |   |       |
|---|---|-------|
| a | 事前に根拠データのイメージがついた。                      | 306   |
|   |   | 79.5% |
| b | 多様な根拠データがありうる事が理解できた。                   | 257   |
|   |   | 66.8% |
| c | 例示の種類がより多ければ良いと感じた。                     | 198   |
|   |   | 51.4% |
| d | 例示をより限定すると良いと感じた。                       | 15    |
|   |   | 3.9%  |
| e | 選定した研究業績の細目に適した根拠データの例示が少ないと感じた。        | 103   |
|   |   | 26.8% |
| f | 根拠データ例ごとに「SS」、「S」、「S未満」の判定基準の提示が必要と感じた。 | 244   |
|   |   | 63.4% |

(2)「データ分析集」について

①今回の評価では「データ分析集」として、学生数や外部資金の推移などの定量的データを提供しました。現況調査表を作成するにあたり、「データ分析集」を確認されましたか。

【1:確認した 2:確認しなかった】

|       |       |     |
|-------|-------|-----|
| 1     | 2     | 無回答 |
| 279   | 283   | 29  |
| 49.6% | 50.4% |     |

②上の問いで「確認した」と回答された場合、現況調査表を作成する上で根拠となる資料・データとして参考になりましたか。(n=279)

【1:参考になる情報ではなかった～5:根拠となる資料・データとして参考になる重要な情報であった】

|      |       |       |       |      |     |
|------|-------|-------|-------|------|-----|
| 1    | 2     | 3     | 4     | 5    | 無回答 |
| 6    | 69    | 160   | 38    | 4    | 2   |
| 2.2% | 24.9% | 57.8% | 13.7% | 1.4% |     |

問4 貴大学等から提出した現況調査表について

提出した現況調査表について、どのような感想をお持ちですか。

【1:当てはまらない～5:当てはまる】

|   |                                   |      |       |       |       |       |     |
|---|-----------------------------------|------|-------|-------|-------|-------|-----|
| a | 学部・研究科等の目的を明確に記載することができた。         | 1    | 8     | 43    | 398   | 140   | 無回答 |
|   |                                   | 0.2% | 1.4%  | 7.3%  | 67.5% | 23.7% | 1   |
| b | 「想定する関係者の期待」を明確に記載することができた。       | 1    | 51    | 163   | 305   | 70    | 1   |
|   |                                   | 0.2% | 8.6%  | 27.6% | 51.7% | 11.9% | 1   |
| c | 研究活動による成果を具体的に説明することができた。         | 0    | 13    | 70    | 380   | 127   | 1   |
|   |                                   | 0.0% | 2.2%  | 11.9% | 64.4% | 21.5% | 1   |
| d | 研究活動の優れている点を具体的に説明することができた。       | 0    | 12    | 75    | 372   | 131   | 1   |
|   |                                   | 0.0% | 2.0%  | 12.7% | 63.1% | 22.2% | 1   |
| e | 評価するのに必要な根拠・データを現況調査表に記載することができた。 | 1    | 13    | 131   | 352   | 93    | 1   |
|   |                                   | 0.2% | 2.2%  | 22.2% | 59.7% | 15.8% | 1   |
| f | 一般社会の人にも理解しやすい現況調査表を作成することができた。   | 5    | 71    | 289   | 205   | 20    | 1   |
|   |                                   | 0.8% | 12.0% | 49.0% | 34.7% | 3.4%  | 1   |
| g | 全体的に見て、現況調査表の完成度は満足できるものとなった。     | 1    | 15    | 147   | 360   | 67    | 1   |
|   |                                   | 0.2% | 2.5%  | 24.9% | 61.0% | 11.4% | 1   |

## II 大学改革支援・学位授与機構による評価方法・評価結果について

### 問1 確認事項の照会について

今回の評価では、評価者から大学等に確認事項の照会や資料提出の依頼を行いました。これらの方法について、適切だったと感じますか。

【確認事項・資料提出依頼のあった学部・研究科等のみ(n=117)】

【1:適切でなかった～5:適切であった】

|   |                          | 1    | 2    | 3     | 4     | 5    | 無回答 |
|---|--------------------------|------|------|-------|-------|------|-----|
| a | 確認事項の照会や資料提出の依頼の方法(時期や量) | 0    | 3    | 45    | 59    | 7    | 3   |
|   |                          | 0.0% | 2.6% | 39.5% | 51.8% | 6.1% |     |
| b | 確認事項の照会や資料提出の依頼の内容       | 1    | 3    | 46    | 56    | 8    | 3   |
|   |                          | 0.9% | 2.6% | 40.4% | 49.1% | 7.0% |     |

### 問2 評価結果(現況分析結果)について

平成29年6月に公表しました貴学部・研究科等の評価結果(現況分析結果)の内容について、全体的にどのように思われましたか。

【1:当てはまらない～5:当てはまる】

|   |                                     | 1    | 2    | 3     | 4     | 5     | 無回答 |
|---|-------------------------------------|------|------|-------|-------|-------|-----|
| a | 貴学部・研究科等の目的を踏まえていた。                 | 1    | 26   | 78    | 388   | 96    | 2   |
|   |                                     | 0.2% | 4.4% | 13.2% | 65.9% | 16.3% |     |
| b | 貴学部・研究科等の研究の実態を反映していた。              | 2    | 33   | 102   | 351   | 101   | 2   |
|   |                                     | 0.3% | 5.6% | 17.3% | 59.6% | 17.1% |     |
| c | 各分析項目・観点の段階判定は納得のいくものであった。          | 5    | 45   | 108   | 322   | 109   | 2   |
|   |                                     | 0.8% | 7.6% | 18.3% | 54.7% | 18.5% |     |
| d | 観点の判断理由に書かれた内容(指摘点)は納得のいくものであった。    | 2    | 35   | 136   | 330   | 85    | 3   |
|   |                                     | 0.3% | 6.0% | 23.1% | 56.1% | 14.5% |     |
| e | 質の向上度の段階判定は納得のいくものであった。             | 9    | 33   | 146   | 289   | 110   | 4   |
|   |                                     | 1.5% | 5.6% | 24.9% | 49.2% | 18.7% |     |
| f | 質の向上度の判断理由に書かれた内容(指摘点)は納得のいくものであった。 | 7    | 23   | 160   | 301   | 96    | 4   |
|   |                                     | 1.2% | 3.9% | 27.3% | 51.3% | 16.4% |     |
| g | 全体的に、適正に評価された。                      | 6    | 31   | 94    | 344   | 114   | 2   |
|   |                                     | 1.0% | 5.3% | 16.0% | 58.4% | 19.4% |     |

### 問3 研究業績の水準判定結果について

(1) 現況分析結果には、2人の評価者が「SS」と判定した研究業績の名称を記載しました。その結果は納得のいくものでしたか。

【1:納得できなかった～5:納得できた】

|  | 1    | 2    | 3     | 4     | 5     | 無回答 |
|--|------|------|-------|-------|-------|-----|
|  | 3    | 35   | 141   | 316   | 78    | 18  |
|  | 0.5% | 6.1% | 24.6% | 55.1% | 13.6% |     |

(2) 現況分析結果には、提出された研究業績のうち、「SS」や「S」と判定された割合を記載しました。その結果は納得のいくものでしたか。

【1:納得できなかった～5:納得できた】

|  | 1    | 2    | 3     | 4     | 5     | 無回答 |
|--|------|------|-------|-------|-------|-----|
|  | 2    | 56   | 159   | 310   | 59    | 5   |
|  | 0.3% | 9.6% | 27.1% | 52.9% | 10.1% |     |

### Ⅲ 評価による貴学部・研究科等の研究活動への効果・影響について

#### 問1 評価の効果について

今回行った、研究の現況を自己分析して報告し、外部者の評価を受けるという一連の過程によって、貴学部・研究科等において以下の効果や影響があった(あるいは今後 to 顕在化する)と思われるか。

【1: 当てはまらない～5: 当てはまる】

|   |  | 1    | 2     | 3     | 4     | 5     | 無回答 |
|---|--|------|-------|-------|-------|-------|-----|
| a | 研究成果の質や水準を重視するようになった。                  | 12   | 40    | 168   | 307   | 63    | 1   |
|   |  | 2.0% | 6.8%  | 28.5% | 52.0% | 10.7% |     |
| b | 研究成果の社会・経済・文化的意義を重視するようになった。           | 11   | 43    | 228   | 260   | 46    | 3   |
|   |  | 1.9% | 7.3%  | 38.8% | 44.2% | 7.8%  |     |
| c | 萌芽的な研究や挑戦的な研究を重視するようになった。              | 20   | 84    | 337   | 119   | 29    | 2   |
|   |  | 3.4% | 14.3% | 57.2% | 20.2% | 4.9%  |     |
| d | 研究に関する学部・研究科等内の戦略(重点分野等)形成を重視するようになった。 | 10   | 51    | 205   | 255   | 69    | 1   |
|   |  | 1.7% | 8.6%  | 34.7% | 43.2% | 11.7% |     |
| e | 研究活動の今後の課題を把握できた。                      | 10   | 53    | 227   | 244   | 56    | 1   |
|   |  | 1.7% | 9.0%  | 38.5% | 41.4% | 9.5%  |     |
| f | 教職員の間で研究活動についての組織的な方向性が共有された。          | 16   | 67    | 307   | 182   | 17    | 2   |
|   |  | 2.7% | 11.4% | 52.1% | 30.9% | 2.9%  |     |
| g | 学部長・研究科長等のリーダーシップが高まった。                | 20   | 79    | 295   | 163   | 32    | 2   |
|   |  | 3.4% | 13.4% | 50.1% | 27.7% | 5.4%  |     |
| h | 若手教員の研究活動が把握され、活性化できた。                 | 15   | 81    | 300   | 178   | 15    | 2   |
|   |  | 2.5% | 13.8% | 50.9% | 30.2% | 2.5%  |     |
| i | 社会に対し大学等の研究活動を説明することの重要性が浸透した。         | 12   | 42    | 232   | 270   | 34    | 1   |
|   |  | 2.0% | 7.1%  | 39.3% | 45.8% | 5.8%  |     |
| j | 学部・研究科や学科・専攻等の部局間の競争意識が高まった。           | 47   | 131   | 309   | 90    | 10    | 4   |
|   |  | 8.0% | 22.3% | 52.6% | 15.3% | 1.7%  |     |
| k | 大学等間の競争意識が生まれた。                        | 46   | 134   | 288   | 107   | 13    | 3   |
|   |  | 7.8% | 22.8% | 49.0% | 18.2% | 2.2%  |     |
| l | 全体的に見て、研究活動の改善に寄与した。                   | 14   | 39    | 223   | 279   | 34    | 2   |
|   |  | 2.4% | 6.6%  | 37.9% | 47.4% | 5.8%  |     |

#### 問3 他大学等の評価結果の分析状況について

同一学系内の他大学等の学部・研究科等について、評価結果(現況分析結果)の内容の分析を行いましたか。

(1) 他大学等の評価結果の内容を分析しましたか。

【1: 分析した 2: 分析しなかった】

| 1     | 2     | 無回答 |
|-------|-------|-----|
| 145   | 444   | 2   |
| 24.6% | 75.4% |     |

(2) 上の問いで「分析した」と回答された場合、分析した結果は役に立ちましたか。(n=145)

【1: 役に立たなかった～5: 役に立った】

| 1    | 2    | 3     | 4     | 5    | 無回答 |
|------|------|-------|-------|------|-----|
| 0    | 13   | 52    | 75    | 4    | 1   |
| 0.0% | 9.0% | 36.1% | 52.1% | 2.8% |     |

#### IV 自己評価のための体制等について

##### 問1 自己評価の体制・作業負担について

(1) 研究に関する現況調査表の作成(各分析項目・観点の記載や研究業績説明書の作成)を開始した時期をご回答ください。

|          |    |       |
|----------|----|-------|
| ～平成26年3月 | 21 | 3.6%  |
| 4月       | 4  | 0.7%  |
| 5月       | 6  | 1.0%  |
| 6月       | 6  | 1.0%  |
| 7月       | 10 | 1.7%  |
| 8月       | 2  | 0.3%  |
| 9月       | 4  | 0.7%  |
| 10月      | 12 | 2.1%  |
| 11月      | 8  | 1.4%  |
| 12月      | 6  | 1.0%  |
| 平成27年1月  | 12 | 2.1%  |
| 2月       | 8  | 1.4%  |
| 3月       | 14 | 2.4%  |
| 4月       | 54 | 9.2%  |
| 5月       | 41 | 7.0%  |
| 6月       | 35 | 6.0%  |
| 7月       | 60 | 10.3% |
| 8月       | 40 | 6.8%  |
| 9月       | 48 | 8.2%  |
| 10月      | 86 | 14.7% |
| 11月      | 34 | 5.8%  |
| 12月      | 26 | 4.4%  |
| 平成28年1月  | 8  | 1.4%  |
| 2月       | 14 | 2.4%  |
| 3月       | 8  | 1.4%  |
| 4月       | 10 | 1.7%  |
| 5月       | 2  | 0.3%  |
| 6月～      | 6  | 1.0%  |
| 無回答      | 6  |       |

(2)上の問いで回答された作成開始時期以降、研究に関する現況調査表の作成作業を行った体制についてお聞きます。

②貴学部・研究科等の現況調査表の作成を主な職務として担当した教員・職員のうち、研究に関する現況調査表の作成(達成状況報告書は除く)を担当したおおむねの人数について、フルタイム換算により分かる範囲でご回答ください(たとえば、現況調査表作成開始以降から提出までの職務の半分が、研究の現況調査表作成に関する業務であれば、0.5人。フルタイム換算での回答がしづらければ、人/日、人/月などの回答でも結構です)。

|     |               | 作成担当者として記載あり | 記載なし         |
|-----|---------------|--------------|--------------|
| 教員等 | 理事・副学長、評価室等の長 | 85<br>14.4%  | 506<br>85.6% |
|     | 学部長・研究科長等     | 372<br>62.9% | 219<br>37.1% |
|     | 副学部長・副研究科長等   | 380<br>64.3% | 211<br>35.7% |
|     | 上記以外の教員       | 422<br>71.4% | 169<br>28.6% |
| 職員  | 部長、課長級        | 226<br>38.2% | 365<br>61.8% |
|     | 課長補佐、係長級      | 442<br>74.8% | 149<br>25.2% |
|     | 主任、係員級        | 282<br>47.7% | 309<br>52.3% |
|     | 事務補佐員等        | 126<br>21.3% | 465<br>78.7% |
| その他 |               | 49<br>8.3%   | 542<br>91.7% |

(3)研究に関する現況調査表の作成において、大学等内あるいは部局内において研究に関するデータの収集や分析を行う専門的な部署や人員(IRやURAなど)が関与しましたか。関与していた場合、関与した専門部署名や専門人材の職名等を以下にご記入いただき、関与の程度を以下の5段階からご回答ください。

(関与の有無)

| 関与あり  | 関与なし  |
|-------|-------|
| 234   | 357   |
| 39.6% | 60.4% |

(関与の程度)

【1:2割未満の中期計画についてデータ作成・分析に関与した  
~5:8割以上の中期計画についてデータ作成・分析に関与した】

| 1     | 2     | 3     | 4     | 5     |
|-------|-------|-------|-------|-------|
| 92    | 63    | 36    | 38    | 46    |
| 33.5% | 22.9% | 13.1% | 13.8% | 16.7% |

※関与した専門部署名や専門人材の職名等ごとに集計しているため、割合の母数は上記設問「関与あり」の回答数と異なる。

(4)今回の現況調査表の作成に要した人員・時間は、国立大学法人評価の持つ意義を鑑みて、多かったですか、少なかったですか。

【1:多かった~5:少なかった】

| 1     | 2     | 3     | 4     | 5    | 無回答 |
|-------|-------|-------|-------|------|-----|
| 77    | 177   | 208   | 93    | 26   | 10  |
| 13.3% | 30.5% | 35.8% | 16.0% | 4.5% |     |

問2 実績報告書作成要領について

現況調査表の作成方法は、実績報告書作成要領により理解できましたか。

【1:理解できなかった～5:理解できた】

| 1    | 2    | 3     | 4     | 5    | 無回答 |
|------|------|-------|-------|------|-----|
| 2    | 26   | 142   | 376   | 39   | 6   |
| 0.3% | 4.4% | 24.3% | 64.3% | 6.7% |     |

V 今後の評価のあり方について

問1 今後の評価の方向性について

第3期中期目標期間の国立大学法人評価では、どのような評価のあり方を望まれますか。

【1:全くそう思わない～5:強くそう思う】

【現況分析】

|   |   | 1    | 2     | 3     | 4     | 5     | 無回答 |
|---|---|------|-------|-------|-------|-------|-----|
| a | 今後も各学系(分野)の大学教員を中心とする評価者が現況調査表を評価する方法で実施すべきである。 | 13   | 39    | 137   | 348   | 51    | 3   |
|   |   | 2.2% | 6.6%  | 23.3% | 59.2% | 8.7%  |     |
| b | 現況調査表に共通的に記載すべき内容を定めるべきである。                     | 12   | 76    | 216   | 224   | 61    | 2   |
|   |   | 2.0% | 12.9% | 36.7% | 38.0% | 10.4% |     |
| c | 共通的に設定したデータ・指標をより用いた評価とすべきである。                  | 14   | 112   | 240   | 178   | 45    | 2   |
|   |   | 2.4% | 19.0% | 40.7% | 30.2% | 7.6%  |     |
| d | 学系(分野)ごとの記載項目や評価基準をより明確にすべきである。                 | 1    | 57    | 164   | 288   | 79    | 2   |
|   |   | 0.2% | 9.7%  | 27.8% | 48.9% | 13.4% |     |
| e | 現況調査表の分量をより少なくすべきである。                           | 3    | 88    | 238   | 185   | 75    | 2   |
|   |   | 0.5% | 14.9% | 40.4% | 31.4% | 12.7% |     |
| f | 評価報告書の分量をより少なくすべきである。                           | 8    | 106   | 299   | 118   | 56    | 4   |
|   |   | 1.4% | 18.1% | 50.9% | 20.1% | 9.5%  |     |
| g | 評価報告書に詳細な結果を記載することが必要である。                       | 19   | 114   | 288   | 141   | 25    | 4   |
|   |   | 3.2% | 19.4% | 49.1% | 24.0% | 4.3%  |     |
| h | 評価報告書に評価者による改善提案等のコメントを記載すべきである。                | 13   | 61    | 226   | 228   | 59    | 4   |
|   |   | 2.2% | 10.4% | 38.5% | 38.8% | 10.1% |     |

【研究業績水準判定】

|   |   | 1    | 2     | 3     | 4     | 5     | 無回答 |
|---|---|------|-------|-------|-------|-------|-----|
| i | 今後も研究業績ごとに、同一分野の研究者が判定を行う方法(ピア・レビュー)で評価を実施すべきである。 | 9    | 26    | 117   | 355   | 81    | 3   |
|   |   | 1.5% | 4.4%  | 19.9% | 60.4% | 13.8% |     |
| j | 提出する研究業績数の上限を増やすべきである。                            | 18   | 135   | 308   | 106   | 21    | 3   |
|   |   | 3.1% | 23.0% | 52.4% | 18.0% | 3.6%  |     |
| k | 提出した個々の研究業績について、その判定結果を大学等に通知すべきである。              | 15   | 52    | 192   | 255   | 74    | 3   |
|   |   | 2.6% | 8.8%  | 32.7% | 43.4% | 12.6% |     |
| l | 提出した個々の研究業績について、その判定結果を公表すべきである。                  | 36   | 119   | 291   | 121   | 21    | 3   |
|   |   | 6.1% | 20.2% | 49.5% | 20.6% | 3.6%  |     |
| m | 個々の研究業績の提出内容(研究業績説明書)についても、現況調査表とあわせて公表すべきである。    | 30   | 106   | 301   | 128   | 22    | 4   |
|   |   | 5.1% | 18.1% | 51.3% | 21.8% | 3.7%  |     |

## 教育研究の「中期目標の達成状況評価」に関する検証アンケート 評価者向け

n= 145

### I 大学から提出された達成状況報告書について

(1) 主担当・副担当をされた大学等(主担当・副担当がない場合にはチームで担当された大学等全体)の達成状況報告書について、どのように思われましたか。

【1:2割未満の記述が当てはまった～5:8割以上の記述が当てはまった】

|   |                                 | 1     | 2     | 3     | 4     | 5     | 無回答 |
|---|---------------------------------|-------|-------|-------|-------|-------|-----|
| a | 中期目標・計画の達成状況が明確に記されていた          | 1     | 5     | 32    | 74    | 30    | 3   |
|   |                                 | 0.7%  | 3.5%  | 22.5% | 52.1% | 21.1% |     |
| b | 計画実施により得られた成果が明確に示されていた         | 3     | 15    | 42    | 62    | 20    | 3   |
|   |                                 | 2.1%  | 10.6% | 29.6% | 43.7% | 14.1% |     |
| c | 評価するのに必要な根拠・データが報告書内に記されていた     | 4     | 21    | 50    | 51    | 16    | 3   |
|   |                                 | 2.8%  | 14.8% | 35.2% | 35.9% | 11.3% |     |
| d | 大学等の教育研究活動の実態がわかるものであった         | 2     | 14    | 38    | 62    | 26    | 3   |
|   |                                 | 1.4%  | 9.9%  | 26.8% | 43.7% | 18.3% |     |
| e | 優れた点や特色ある点ができるものであった            | 3     | 13    | 29    | 64    | 33    | 3   |
|   |                                 | 2.1%  | 9.2%  | 20.4% | 45.1% | 23.2% |     |
| f | 改善を要する点ができるものであった               | 19    | 27    | 55    | 24    | 16    | 4   |
|   |                                 | 13.5% | 19.1% | 39.0% | 17.0% | 11.3% |     |
| g | 一般社会にも理解しやすい報告書であった             | 8     | 35    | 54    | 36    | 9     | 3   |
|   |                                 | 5.6%  | 24.6% | 38.0% | 25.4% | 6.3%  |     |
| h | 全体的に見て、達成状況報告書は評価を行うのに十分に書かれていた | 5     | 12    | 41    | 60    | 23    | 4   |
|   |                                 | 3.5%  | 8.5%  | 29.1% | 42.6% | 16.3% |     |

(2) 達成状況報告書の記載についてお聞きします。

① 評価作業を実施する上で、以下のような達成状況報告書の記載方法は適切なものでしたか。

【1:適切でない～5:適切】

|   |                               | 1    | 2    | 3     | 4     | 5     | 無回答 |
|---|-------------------------------|------|------|-------|-------|-------|-----|
| a | 大学等が中期計画ごとに達成状況を記載すること        | 2    | 3    | 14    | 96    | 28    | 2   |
|   |                               | 1.4% | 2.1% | 9.8%  | 67.1% | 19.6% |     |
| b | 大学等が中期計画ごとに段階判定とその判断理由を記載すること | 2    | 13   | 26    | 84    | 18    | 2   |
|   |                               | 1.4% | 9.1% | 18.2% | 58.7% | 12.6% |     |
| c | 大学等が優れた点・改善を要する点等を判断して記載すること  | 1    | 8    | 36    | 73    | 25    | 2   |
|   |                               | 0.7% | 5.6% | 25.2% | 51.0% | 17.5% |     |
| d | 個性の伸長に向けた取組に関わる計画を大学等が指定すること  | 2    | 8    | 31    | 67    | 35    | 2   |
|   |                               | 1.4% | 5.6% | 21.7% | 46.9% | 24.5% |     |

② 達成状況の具体的な記述内容や、どのような根拠データ・資料を示すかは、各大学等に委ねていました。このような方法によって、以下のような課題を感じられましたか。

【1:全く思わない～5:強く思う】

|   |  | 1    | 2     | 3     | 4     | 5     | 無回答 |
|---|--|------|-------|-------|-------|-------|-----|
| a | 活動や成果の記載内容が大学等ごとに多様であったために、評価がしづらかった     | 2    | 32    | 26    | 60    | 21    | 4   |
|   |  | 1.4% | 22.7% | 18.4% | 42.6% | 14.9% |     |
| b | 記述の分量が大学等ごとに多様であったために、評価がしづらかった          | 0    | 36    | 38    | 52    | 15    | 4   |
|   |  | 0.0% | 25.5% | 27.0% | 36.9% | 10.6% |     |
| c | 根拠データ・資料の内容や記載方法が大学等ごとに多様であったため、解釈しづらかった | 1    | 24    | 31    | 66    | 18    | 5   |
|   |  | 0.7% | 17.1% | 22.1% | 47.1% | 12.9% |     |

(3) 提出された達成状況報告書のページ数(分量)は、評価を実施する上で適切でしたか。

【1:少ない～5:多い】

| 1    | 2    | 3     | 4     | 5    | 無回答 |
|------|------|-------|-------|------|-----|
| 2    | 13   | 91    | 30    | 7    | 2   |
| 1.4% | 9.1% | 63.6% | 21.0% | 4.9% |     |

## II 評価方法・結果について

(1) 「戦略性が高く意欲的な目標・計画」の評価について

今回の評価では、「戦略性が高く意欲的な目標・計画」の評価にあたっては、計画どおり実施できていない場合においても、教育研究の質の向上や高い研究水準の実現が確認できる場合には、プロセスや内容等を考慮し、判定することになっていました。

① 「戦略性が高く意欲的な目標・計画」に該当する中期計画の評価をされましたか。

【1:評価した 2:該当する中期計画がなかった 3:「戦略性が高く意欲的な目標・計画」を認識していなかった】

| 1     | 2     | 3    | 無回答 |
|-------|-------|------|-----|
| 115   | 21    | 6    | 3   |
| 81.0% | 14.8% | 4.2% |     |

② ①で評価したと回答された方にお聞きます。  
評価を問題なくできましたか。(n=115)

【1:評価しづらかった～5:評価しやすかった】

| 1    | 2     | 3     | 4     | 5    | 無回答 |
|------|-------|-------|-------|------|-----|
| 2    | 29    | 26    | 51    | 7    | 0   |
| 1.7% | 25.2% | 22.6% | 44.3% | 6.1% |     |

(2) 現況分析結果の活用

今回の評価では、大学等が達成状況報告書を記載する際に、中期計画の実施状況の内容に関連する場合、該当の学部・研究科等の現況調査表を記載することとし、評価者はその学部・研究科等の現況分析結果を参照し、判定することとしていました。

① 評価の際に現況分析結果を参照されましたか。

【1:参照した 2:参照すべき中期計画がなかった 3:参照することを認識していなかった】

| 1     | 2    | 3    | 無回答 |
|-------|------|------|-----|
| 124   | 9    | 9    | 3   |
| 87.3% | 6.3% | 6.3% |     |

② ①で参照したと回答された方にお聞きます。

該当する学部・研究科等の現況分析結果は、評価の際、どの程度参考になりましたか。(n=124)

【1:参考になる情報ではなかった～5:評価の際に参考にできる重要な情報であった】

| 1    | 2     | 3     | 4     | 5    | 無回答 |
|------|-------|-------|-------|------|-----|
| 1    | 18    | 77    | 25    | 3    | 0   |
| 0.8% | 14.5% | 62.1% | 20.2% | 2.4% |     |

(3) 研究業績の水準判定結果の活用

今回の評価では、大学等が達成状況報告書を記載する際に、中期計画の実施状況の内容に関連する場合、該当する研究業績説明書を記載することとし、評価者はその研究業績の水準判定結果を参照し、判定することとしていました。

① 判定の際に研究業績の水準判定結果を参照されましたか。

【1:参照した 2:参照すべき中期計画がなかった 3:参照することを認識していなかった】

| 1     | 2     | 3    | 無回答 |
|-------|-------|------|-----|
| 113   | 18    | 10   | 4   |
| 80.1% | 12.8% | 7.1% |     |

② ①で参照したと回答された方にお聞きます。  
 該当する研究業績の水準判定結果は、判定の際、どの程度参考になりましたか。(n=113)

【1:参考になる情報ではなかった～5:評価の際に参考にできる重要な情報であった】

| 1    | 2     | 3     | 4     | 5    | 無回答 |
|------|-------|-------|-------|------|-----|
| 2    | 16    | 60    | 29    | 6    | 0   |
| 1.8% | 14.2% | 53.1% | 25.7% | 5.3% |     |

(4) 機関別認証評価結果の活用

今回の評価では、大学等が達成状況報告書を記載する際に、必要に応じ、直近の機関別認証評価結果等を根拠資料として示すことができることとし、評価者は該当の資料を参照し、判定することとしていました。

① 判定の際に機関別認証評価結果を参照されましたか。

【1:参照した 2:参照すべき中期計画がなかった 3:参照することを認識していなかった】

| 1     | 2     | 3     | 無回答 |
|-------|-------|-------|-----|
| 82    | 23    | 36    | 4   |
| 58.2% | 16.3% | 25.5% |     |

② ①で参照したと回答された方にお聞きます。

該当する機関別認証評価結果は、判定の際、どの程度参考になりましたか。(n=82)

【1:参考になる情報ではなかった～5:評価の際に参考にできる重要な情報であった】

| 1    | 2     | 3     | 4     | 5    | 無回答 |
|------|-------|-------|-------|------|-----|
| 2    | 17    | 51    | 12    | 0    | 0   |
| 2.4% | 20.7% | 62.2% | 14.6% | 0.0% |     |

(5) 書面調査について

① 主担当・副担当をされた大学等がある方にお聞きます。書面調査段階において評価判断(段階判定や判断理由の作成)を確信をもって行うことができましたか。(n=108)

【1:2割未満の中期計画のみに確信をもって判断を下すことができた  
 ～5:8割以上の中期計画に確信をもって判断を下すことができた】

| 1    | 2     | 3     | 4     | 5     | 無回答 |
|------|-------|-------|-------|-------|-----|
| 0    | 11    | 30    | 52    | 11    | 4   |
| 0.0% | 10.6% | 28.8% | 50.0% | 10.6% |     |

(6) 書面調査の後に、2回の達成状況判定会議やヒアリングを行い、最終的な評価結果を決定しました。最終的に決定された評価結果報告書の内容は、評価者として納得のいくものとなりましたか。

【1:2割未満の中期計画の判定や記載内容が納得のいくものとなった  
 ～5:8割以上の中期計画の判定や記載内容が納得のいくものとなった】

| 1    | 2    | 3     | 4     | 5     | 無回答 |
|------|------|-------|-------|-------|-----|
| 0    | 4    | 15    | 59    | 56    | 11  |
| 0.0% | 3.0% | 11.2% | 44.0% | 41.8% |     |

(7) 中期計画の段階判定(「非常に優れている」や「良好」などの判定)の基準は以下のようなものでした(下表参照)。これらの基準は明確でしたか。

【1:判断基準に迷った～5:判断基準は明確であった】

| 1    | 2     | 3     | 4     | 5    | 無回答 |
|------|-------|-------|-------|------|-----|
| 4    | 22    | 25    | 69    | 13   | 12  |
| 3.0% | 16.5% | 18.8% | 51.9% | 9.8% |     |

### Ⅲ 大学等への確認事項の照会及びヒアリングについて

(1) 今回の評価では、大学等にヒアリングに向けての確認事項の照会や資料提出の依頼を行った上で、対面又はテレビ会議システムの利用によるヒアリングを行うという方法をとりました。これらの方法によって、評価作業を適切に行うことができましたか。

【1:適切でない～5:適切】

|   |                                | 1    | 2    | 3     | 4     | 5     | 無回答 |
|---|--------------------------------|------|------|-------|-------|-------|-----|
| a | 大学等へのヒアリングに向けての確認事項の照会や資料提出の依頼 | 0    | 6    | 17    | 84    | 37    | 1   |
|   |                                | 0.0% | 4.2% | 11.8% | 58.3% | 25.7% |     |
| b | ヒアリングにおける質疑応答による調査             | 0    | 4    | 15    | 80    | 43    | 3   |
|   |                                | 0.0% | 2.8% | 10.6% | 56.3% | 30.3% |     |

(2) ヒアリングは、大学によってはテレビ会議システムを用いて実施しました。テレビ会議システムを用いたヒアリングに参加された場合、ヒアリングでの質疑応答や意思疎通は適切に行うことができましたか。

【1:適切でない～5:適切】

|  | 1    | 2     | 3     | 4     | 5     | 無回答 |
|--|------|-------|-------|-------|-------|-----|
|  | 1    | 16    | 13    | 62    | 21    | 32  |
|  | 0.9% | 14.2% | 11.5% | 54.9% | 18.6% |     |

### Ⅳ 参考資料について

(1) データ分析集の活用について

① 今回の評価では「データ分析集」として、学生数や外部資金の推移などの定量的データを評価者に提供しました。「データ分析集」は参照されましたか。

【1:参照した 2:参照していない】

|  | 1     | 2     | 無回答 |
|--|-------|-------|-----|
|  | 130   | 15    | 0   |
|  | 89.7% | 10.3% |     |

② ①で参照したと回答された方にお聞きします。評価にどの程度参考になりましたか。(n=130)

【1:参考になる情報ではなかった～5:評価の際に参考にできる重要な情報であった】

|  | 1    | 2     | 3     | 4     | 5    | 無回答 |
|--|------|-------|-------|-------|------|-----|
|  | 1    | 20    | 68    | 33    | 7    | 1   |
|  | 0.8% | 15.5% | 52.7% | 25.6% | 5.4% |     |

### Ⅴ 評価作業と事前研修について

(1) 書面調査シートについて

主担当・副担当の方にお伺いします。評価作業はマイクロソフト社のExcelによる「書面調査シート」で行っていただきました。その使い勝手はいかがでしたか。(n=108)

【1:作業しづらかった～5:問題なく作業ができた】

|  | 1    | 2    | 3     | 4     | 5     | 無回答 |
|--|------|------|-------|-------|-------|-----|
|  | 2    | 1    | 37    | 21    | 45    | 2   |
|  | 1.9% | 0.9% | 34.9% | 19.8% | 42.5% |     |

(2) ウェブサイト(書面調査システム)による作業について

ファイルの受け渡しを、ウェブサイト(書面調査システム)を用いて行いました。その使い勝手はいかがでしたか。

【1:作業しづらかった～5:問題なく作業ができた】

|  | 1    | 2    | 3     | 4     | 5     | 無回答 |
|--|------|------|-------|-------|-------|-----|
|  | 1    | 1    | 35    | 30    | 58    | 20  |
|  | 0.8% | 0.8% | 28.0% | 24.0% | 46.4% |     |

(3) 作業時間等について

① 評価作業(会議等への出席時間を除き、書面調査シートへの入力や達成状況報告書の確認など)にかかった、おおむねの作業時間をお答えください。

a 主担当の方にお伺いします。(n=77)

主担当の大学等の書面調査等にかかった時間

|            |    |
|------------|----|
| ～10時間      | 18 |
| 11時間～20時間  | 21 |
| 21時間～30時間  | 11 |
| 31時間～40時間  | 9  |
| 41時間～50時間  | 8  |
| 51時間～60時間  | 2  |
| 61時間～70時間  | 0  |
| 71時間～80時間  | 2  |
| 81時間～90時間  | 0  |
| 91時間～100時間 | 1  |
| 101時間～     | 5  |
| 無回答        | 0  |

副担当の大学等の書面調査等にかかった時間

|            |    |
|------------|----|
| ～10時間      | 32 |
| 11時間～20時間  | 19 |
| 21時間～30時間  | 12 |
| 31時間～40時間  | 4  |
| 41時間～50時間  | 3  |
| 51時間～60時間  | 2  |
| 61時間～70時間  | 1  |
| 71時間～80時間  | 1  |
| 81時間～90時間  | 0  |
| 91時間～100時間 | 0  |
| 101時間～     | 2  |
| 無回答        | 1  |

b 副担当(主担当大学等がない方)、チーム主査、有識者の方にお伺いします。(n=68)

チームの大学等の書面調査等にかかった時間

|           |    |
|-----------|----|
| ～10時間     | 24 |
| 11時間～20時間 | 11 |
| 21時間～30時間 | 2  |
| 31時間～40時間 | 4  |
| 41時間～     | 3  |
| 無回答       | 24 |

② チームごとの担当大学等の数は適切でしたか。多すぎて全ての大学等の情報の精査について負担が大きかったですか、それとも、少なすぎて他大学等の情報が無くて評価がしにくいなどの問題がありましたか。

【1:非常に少なかった～5:非常に多かった】

| 1    | 2    | 3     | 4     | 5    | 無回答 |
|------|------|-------|-------|------|-----|
| 0    | 5    | 113   | 16    | 1    | 10  |
| 0.0% | 3.7% | 83.7% | 11.9% | 0.7% |     |

(5) 評価者研修会について  
 評価方法は、評価者研修会により理解できましたか。

【1:理解できなかった～5:理解できた】

| 1    | 2     | 3     | 4     | 5     | 無回答 |
|------|-------|-------|-------|-------|-----|
| 1    | 15    | 37    | 62    | 20    | 10  |
| 0.7% | 11.1% | 27.4% | 45.9% | 14.8% |     |

(6) 評価作業マニュアルについて  
 評価方法は、評価作業マニュアルにより理解できましたか。

【1:理解できなかった～5:理解できた】

| 1    | 2    | 3     | 4     | 5     | 無回答 |
|------|------|-------|-------|-------|-----|
| 1    | 1    | 22    | 90    | 23    | 8   |
| 0.7% | 0.7% | 16.1% | 65.7% | 16.8% |     |

「国立大学法人及び大学共同利用機関法人における教育研究の状況についての評価」  
学部・研究科等の「現況分析」に関する検証アンケート 評価者向け

n= 199

I 大学から提出された現況調査表について

(1) 主・副担当をされた現況調査表について(部会長・副部会長は確認された現況調査表全体について)、どのように思われましたか。

【1: 2割未満の現況調査表が当てはまった～5: 8割以上の現況調査表が当てはまった】

|   |                               | 1    | 2    | 3     | 4     | 5     | 無回答 |
|---|-------------------------------|------|------|-------|-------|-------|-----|
| a | 学部・研究科等の目的が明確に記されていた          | 2    | 3    | 25    | 76    | 93    | 0   |
|   |                               | 1.0% | 1.5% | 12.6% | 38.2% | 46.7% |     |
| b | 「想定する関係者の期待」が明確に記されていた        | 2    | 19   | 56    | 76    | 46    | 0   |
|   |                               | 1.0% | 9.5% | 28.1% | 38.2% | 23.1% |     |
| c | 評価するのに必要な根拠・データが報告書内に記されていた   | 1    | 19   | 63    | 74    | 42    | 0   |
|   |                               | 0.5% | 9.5% | 31.7% | 37.2% | 21.1% |     |
| d | 教育・研究活動の優れている点が具体的に説明されていた    | 2    | 8    | 31    | 99    | 59    | 0   |
|   |                               | 1.0% | 4.0% | 15.6% | 49.7% | 29.6% |     |
| e | 教育・研究活動による成果が具体的に説明されていた      | 1    | 12   | 49    | 86    | 50    | 1   |
|   |                               | 0.5% | 6.1% | 24.7% | 43.4% | 25.3% |     |
| f | 全体的に見て、現況調査表は評価を行うのに十分に書かれていた | 2    | 12   | 55    | 80    | 47    | 3   |
|   |                               | 1.0% | 6.1% | 28.1% | 40.8% | 24.0% |     |

(2) 現況調査表は、評価項目・観点ごとに具体的に何を記載するかやどのような根拠データ・資料を示すかは、各大学に委ねています。

① このような方法により、各学部・研究科等の個性的な取組が把握できたと思われませんか。

【1: 全く思わない～5: 強く思う】

|  | 1    | 2     | 3     | 4     | 5    | 無回答 |
|--|------|-------|-------|-------|------|-----|
|  | 1    | 23    | 63    | 107   | 5    | 0   |
|  | 0.5% | 11.6% | 31.7% | 53.8% | 2.5% |     |

② このような方法によって、以下のような課題を感じられましたか。

【1: 全く思わない～5: 強く思う】

|   |   | 1    | 2     | 3     | 4     | 5    | 無回答 |
|---|---|------|-------|-------|-------|------|-----|
| a | 活動や成果の記載内容が大学ごとに多様であったために、評価がしづらかった       | 1    | 53    | 53    | 80    | 12   | 0   |
|   |   | 0.5% | 26.6% | 26.6% | 40.2% | 6.0% |     |
| b | 根拠データ・資料の記述内容や記載様式が大学ごとに多様であったため、解釈しづらかった | 0    | 47    | 43    | 97    | 12   | 0   |
|   |   | 0.0% | 23.6% | 21.6% | 48.7% | 6.0% |     |

(3) 提出された現況調査表のページ数(分量)は、評価を実施する上で適切でしたか。

【1: 少ない～5: 多い】

|  | 1    | 2     | 3     | 4     | 5    | 無回答 |
|--|------|-------|-------|-------|------|-----|
|  | 3    | 28    | 126   | 36    | 5    | 1   |
|  | 1.5% | 14.1% | 63.6% | 18.2% | 2.5% |     |

## II 評価方法について

(1)主・副担当をされた学部・研究科等について(部会長・副部会長は全体について)、書面調査段階において評価判断を確信をもって行うことができましたか。

【1:2割未満の現況調査表のみに確信をもって判断を下すことができた  
～5:8割以上の現況調査表で確信をもって判断を下すことができた】

|      | 1    | 2     | 3     | 4     | 5     | 無回答 |
|------|------|-------|-------|-------|-------|-----|
| 教育水準 | 2    | 23    | 44    | 93    | 35    | 2   |
|      | 1.0% | 11.7% | 22.3% | 47.2% | 17.8% |     |
| 研究水準 | 2    | 9     | 39    | 106   | 43    | 0   |
|      | 1.0% | 4.5%  | 19.6% | 53.3% | 21.6% |     |

(2)評価者による書面調査の後に、機構内の2回の部会において評価結果(段階判定を含む)の調整を行いました。調整を経て決定された評価結果は、評価者として納得のいくものとなりましたか。

【1:納得のいくものではなかった～5:納得のいくものであった】

| 1    | 2    | 3     | 4     | 5     | 無回答 |
|------|------|-------|-------|-------|-----|
| 3    | 11   | 26    | 117   | 42    | 0   |
| 1.5% | 5.5% | 13.1% | 58.8% | 21.1% |     |

(3)分析項目ごとに評価を行う難しさは異なりましたか。

【1:難しかった～5:容易だった】

|                                   | 1    | 2     | 3     | 4     | 5    | 無回答 |
|-----------------------------------|------|-------|-------|-------|------|-----|
| I 教育活動の状況(教育実施体制、教育内容・方法)         | 7    | 43    | 63    | 75    | 9    | 2   |
|                                   | 3.6% | 21.8% | 32.0% | 38.1% | 4.6% |     |
| II 教育成果の状況(学業の成果、進路・就職の状況)        | 3    | 61    | 62    | 66    | 4    | 3   |
|                                   | 1.5% | 31.1% | 31.6% | 33.7% | 2.0% |     |
| 教育の質の向上度                          | 18   | 92    | 56    | 23    | 2    | 8   |
|                                   | 9.4% | 48.2% | 29.3% | 12.0% | 1.0% |     |
| I 研究活動の状況(研究活動の状況、共同利用・共同研究の実施状況) | 3    | 18    | 65    | 103   | 9    | 1   |
|                                   | 1.5% | 9.1%  | 32.8% | 52.0% | 4.5% |     |
| II 研究成果の状況                        | 5    | 33    | 53    | 89    | 16   | 3   |
|                                   | 2.6% | 16.8% | 27.0% | 45.4% | 8.2% |     |
| 研究の質の向上度                          | 11   | 77    | 62    | 45    | 4    | 0   |
|                                   | 5.5% | 38.7% | 31.2% | 22.6% | 2.0% |     |

(4)－①「研究成果の状況」の分析項目については、学部・研究科等を代表する研究業績(専任教員数の20%程度を目安)の「研究業績水準判定結果一覧表」(SS, S, S未満の数・割合やSSとした判断根拠)を評価者に提供しました。研究業績水準判定結果は、「研究成果の状況」を判定する資料として参考になるものでしたか。

【1:参考になる情報ではなかった～5:判定の際に参考にできる重要な情報であった】

| 1    | 2    | 3     | 4     | 5     | 無回答 |
|------|------|-------|-------|-------|-----|
| 3    | 14   | 74    | 72    | 36    | 0   |
| 1.5% | 7.0% | 37.2% | 36.2% | 18.1% |     |

(4)－②参考にならなかった理由があれば、当てはまる選択肢全てにチェックを付けてください(複数選択可)。

|   |                                |       |
|---|--------------------------------|-------|
| a | 専任教員数の20%程度の研究業績では全体状況がわからないから | 29    |
|   |                                | 14.6% |
| b | SS, S, S未満と判断された基準が不明瞭であったから   | 60    |
|   |                                | 30.2% |
| c | 他大学の学部・研究科等の判定結果との比較ができなかったから  | 59    |
|   |                                | 29.6% |
| d | 大学によって業績数の提出状況が異なるから           | 40    |
|   |                                | 20.1% |

(5)評価は、大学が記載した「想定する関係者の期待」に基づいて判断を行っていただきました。このような判断基準で評価を問題なくできましたか。

【1:評価がしづらかった～5:問題なく評価ができた】

| 1    | 2     | 3     | 4     | 5    | 無回答 |
|------|-------|-------|-------|------|-----|
| 11   | 71    | 59    | 55    | 3    | 0   |
| 5.5% | 35.7% | 29.6% | 27.6% | 1.5% |     |

(6)段階判定(「期待される水準を上回る」や「期待される水準にある」などの判定)の基準は明確でしたか。

【1:判断基準に迷った～5:判断基準は明確であった】

| 1    | 2     | 3     | 4     | 5    | 無回答 |
|------|-------|-------|-------|------|-----|
| 12   | 84    | 35    | 66    | 2    | 0   |
| 6.0% | 42.2% | 17.6% | 33.2% | 1.0% |     |

### Ⅲ 参考資料について

(1)－①人文、社会、理学、工学、農学、保健、教育学系については、現況調査表に記載されることが期待される取組や成果の事例を挙げた「参考例」を研修会にて配付しました。評価作業の前に「参考例」は確認されましたか。

【1:確認した 2:確認していない】

| 1     | 2     | 無回答 |
|-------|-------|-----|
| 160   | 37    | 2   |
| 81.2% | 18.8% |     |

(1)－②上の問いで「確認した」と回答した場合、以下から当てはまるものを全て選んでください(複数選択可)。(n=160)

|   |                             |       |
|---|-----------------------------|-------|
| a | 事前に優れた取組や成果のイメージがついた        | 62    |
|   |                             | 38.8% |
| b | 評価判断をする際の参考になった             | 115   |
|   |                             | 71.9% |
| c | 例示がもっと多種類であると良いと感じた         | 47    |
|   |                             | 29.4% |
| d | 例示の数を少なくすると良いと感じた           | 3     |
|   |                             | 1.9%  |
| e | 例示をもっと具体的にすると良いと感じた         | 42    |
|   |                             | 26.3% |
| f | 担当の学系にふさわしい例示が少ないと感じた       | 31    |
|   |                             | 19.4% |
| g | 実際の現況調査表には参考例を踏まえた記述がなされていた | 12    |
|   |                             | 7.5%  |

(2)－①今回の評価では「データ分析集」として、学部・研究科等に関する定量的データを評価者に提供しました。「データ分析集」は参照されましたか。

【1:参照した 2:参照していない】

| 1     | 2     | 無回答 |
|-------|-------|-----|
| 177   | 21    | 1   |
| 89.4% | 10.6% |     |

(2)－②上の問いで「参照した」と回答した場合、判定にどの程度参考になりましたか。(n=177)

【1:参考になる情報ではなかった～5:判定の際に参考にできる重要な情報であった】

| 1    | 2     | 3     | 4     | 5    | 無回答 |
|------|-------|-------|-------|------|-----|
| 3    | 29    | 112   | 27    | 6    | 0   |
| 1.7% | 16.4% | 63.3% | 15.3% | 3.4% |     |

#### IV 評価作業と事前研修について

(1)書面調査シートについて

評価作業はマイクロソフト社のExcelによる「書面調査シート」で行っていただきました。その使い勝手はいかがでしたか。

【1:作業しづらかった～5:問題なく作業ができた】

| 1     | 2    | 3     | 4     | 5     | 無回答 |
|-------|------|-------|-------|-------|-----|
| 24    | 13   | 74    | 42    | 46    | 0   |
| 12.1% | 6.5% | 37.2% | 21.1% | 23.1% |     |

(2)ウェブ(書面調査システム)による作業について

ファイルの受け渡しを、ウェブサイト(書面調査システム)を用いて行いました。その使い勝手はいかがでしたか。

【1:作業しづらかった～5:問題なく作業ができた】

| 1    | 2    | 3     | 4     | 5     | 無回答 |
|------|------|-------|-------|-------|-----|
| 8    | 12   | 74    | 39    | 65    | 1   |
| 4.0% | 6.1% | 37.4% | 19.7% | 32.8% |     |

(3)－①書面調査にかかった、おおむねの作業時間をお答えください。

|           |    |
|-----------|----|
| ～5時間      | 23 |
| 6時間～15時間  | 56 |
| 16時間～25時間 | 43 |
| 26時間～35時間 | 23 |
| 36時間～45時間 | 18 |
| 46時間～55時間 | 11 |
| 56時間～65時間 | 5  |
| 66時間～     | 14 |
| その他・無回答   | 6  |

(3)－②評価担当の現況調査表の数(担当の学部・研究科等の数)は多すぎましたか、それとも、少なすぎて他大学の情報が無くて評価がしにくい等の問題がありましたか。

【1:非常に少なかった～5:分量が非常に多かった】

| 1    | 2    | 3     | 4     | 5    | 無回答 |
|------|------|-------|-------|------|-----|
| 3    | 13   | 108   | 62    | 11   | 2   |
| 1.5% | 6.6% | 54.8% | 31.5% | 5.6% |     |

(4) 評価者研修会について  
 評価方法は、評価者研修会により理解できましたか。

【1:理解できなかった～5:理解できた】

| 1    | 2     | 3     | 4     | 5    | 無回答 |
|------|-------|-------|-------|------|-----|
| 1    | 45    | 48    | 94    | 7    | 4   |
| 0.5% | 23.1% | 24.6% | 48.2% | 3.6% |     |

(5) 評価作業マニュアルについて  
 評価方法は、評価作業マニュアルにより理解できましたか。

【1:理解できなかった～5:理解できた】

| 1    | 2    | 3     | 4     | 5    | 無回答 |
|------|------|-------|-------|------|-----|
| 0    | 12   | 27    | 145   | 13   | 2   |
| 0.0% | 6.1% | 13.7% | 73.6% | 6.6% |     |

# 研究業績水準判定作業に関する検証アンケート 評価者向け

n= 416

## 1. 大学から提出された研究業績について

(1)「学術的意義」を判断する研究業績について、どの程度の割合の業績に判断を行うための根拠が十分に記述されていましたか。

【1:非常に少なかった(～2割未満)～5:非常に多かった(8割～)】

| 1    | 2     | 3     | 4     | 5    | 無回答 |
|------|-------|-------|-------|------|-----|
| 5    | 44    | 176   | 156   | 35   | 0   |
| 1.2% | 10.6% | 42.3% | 37.5% | 8.4% |     |

(2)「社会・経済・文化的意義」を判断する研究業績について、どの程度の割合の業績に判断を行うための根拠が十分に記述されていましたか。

【1:非常に少なかった(～2割未満)～5:非常に多かった(8割～)】

| 1    | 2     | 3     | 4     | 5    | 無回答 |
|------|-------|-------|-------|------|-----|
| 14   | 119   | 189   | 78    | 11   | 5   |
| 3.4% | 29.0% | 46.0% | 19.0% | 2.7% |     |

## 2. 参考資料について

(1)―①6月中旬に配付しました、各論文の被引用数等のデータ(研究業績説明書【被引用数データ付き】)を判定の際に参照されましたか。

【1:参照した 2:参照していない 3:担当細目には配付がなかった】

| 1     | 2     | 3    | 無回答 |
|-------|-------|------|-----|
| 339   | 68    | 9    | 0   |
| 81.5% | 16.3% | 2.2% |     |

(1)―②上の問いで「1:参照した」と回答した場合、被引用数データはどの程度参考になりましたか。(n=339)

【1:判定の参考にはしなかった～5:最も重要な根拠として参考にした】

| 1    | 2     | 3     | 4     | 5    | 無回答 |
|------|-------|-------|-------|------|-----|
| 22   | 95    | 148   | 65    | 9    | 0   |
| 6.5% | 28.0% | 43.7% | 19.2% | 2.7% |     |

(2)―①6月初旬に配付しました、「被引用数の閾値リスト」を判定の際に参照されましたか。

【1:参照した 2:参照していない】

| 1     | 2     | 無回答 |
|-------|-------|-----|
| 238   | 167   | 11  |
| 58.8% | 41.2% |     |

(2)―②上の問いで「1:参照した」と回答した場合、判定にどの程度参考になりましたか。(n=238)

【1:参考になる情報ではなかった～5:判定の際に参考にできる重要な情報であった】

| 1    | 2     | 3     | 4     | 5    | 無回答 |
|------|-------|-------|-------|------|-----|
| 12   | 65    | 119   | 32    | 9    | 1   |
| 5.1% | 27.4% | 50.2% | 13.5% | 3.8% |     |

(3)―①評価者研修会にて「参考例」として卓越した研究業績の根拠データの分野ごとの例を配付しました。判定作業の前に参照されましたか。

【1:参照した 2:参照していない】

| 1     | 2     | 無回答 |
|-------|-------|-----|
| 346   | 63    | 7   |
| 84.6% | 15.4% |     |

(3)―②上の問いで「1:参照した」と回答した場合、以下から当てはまるものを全て選んでください(複数選択可)。(n=346)

|                                   |              |
|-----------------------------------|--------------|
| 事前に根拠データのイメージがついた                 | 246<br>71.1% |
| 多様な根拠データがありうることが理解できた             | 183<br>52.9% |
| 例示がもっと多種類であると良いと感じた               | 87<br>25.1%  |
| 例示をもっと限定すると良いと感じた                 | 8<br>2.3%    |
| 自分の細目に適した根拠データの例示が少ないと感じた         | 50<br>14.5%  |
| 根拠データ例ごとにSS、S、S未満の判定の基準の提示が必要と感じた | 111<br>32.1% |

### 3. 判定について

(1)ご担当の細目の専門領域の範囲を超える(担当細目の専門知識では判断しづらい)研究業績がありましたか。あった場合は、およその割合もお答えください。

【1:なかった 2:あった】

| 1     | 2     | 無回答 |
|-------|-------|-----|
| 297   | 119   | 0   |
| 71.4% | 28.6% |     |

あった場合、およその割合(n=119)

|      |             |
|------|-------------|
| 0.5割 | 3<br>2.5%   |
| 1割   | 33<br>28.0% |
| 1.5割 | 1<br>0.8%   |
| 2割   | 47<br>39.8% |
| 3割   | 21<br>17.8% |
| 4割   | 7<br>5.9%   |
| 5割   | 4<br>3.4%   |
| 6割   | 1<br>0.8%   |
| 9割   | 1<br>0.8%   |
| 無回答  | 1           |

(2) 学術的意義について、「SS」「S」「S未満」の間の判断はしやすかったですか？

【1:2割未満の業績のみに確信をもって判断を下すことができた  
～5:8割以上の業績で確信をもって判断を下すことができた】

| 1    | 2    | 3     | 4     | 5     | 無回答 |
|------|------|-------|-------|-------|-----|
| 3    | 23   | 53    | 211   | 124   | 2   |
| 0.7% | 5.6% | 12.8% | 51.0% | 30.0% |     |

(3) 社会・経済・文化的意義について、「SS」「S」「S未満」の間の判断はしやすかったですか？

【1:2割未満の業績のみに確信をもって判断を下すことができた  
～5:8割以上の業績で確信をもって判断を下すことができた】

| 1    | 2    | 3     | 4     | 5     | 無回答 |
|------|------|-------|-------|-------|-----|
| 8    | 39   | 125   | 158   | 77    | 9   |
| 2.0% | 9.6% | 30.7% | 38.8% | 18.9% |     |

(4) 今回の研究業績判定では、一つの「研究業績」に三編までの論文等を記載する方式をとり、「研究業績」を単位として判定をしていただきました。この方法で判定がしづらいことがありましたか。あった場合は、具体的な内容もご記入ください。

【1:なかった 2:あった】

| 1     | 2     | 無回答 |
|-------|-------|-----|
| 324   | 90    | 2   |
| 78.3% | 21.7% |     |

#### 4. 作業について

(1) 作業時間について

研究業績判定にかかった、おおむねの作業時間をお答えください。

|         |     |       |
|---------|-----|-------|
| 3時間未満   | 39  | 10.4% |
| 3～5時間   | 117 | 31.2% |
| 6～10時間  | 120 | 32.0% |
| 11～15時間 | 33  | 8.8%  |
| 16～20時間 | 31  | 8.3%  |
| 21～30時間 | 20  | 5.3%  |
| 31～40時間 | 5   | 1.3%  |
| 41～50時間 | 8   | 2.1%  |
| 51時間以上  | 2   | 0.5%  |
| 無回答     | 41  |       |

(2) 判定した業績数に関するご認識について

【1:分量が非常に多かった～5:問題なく作業できる分量であった】

| 1    | 2    | 3     | 4     | 5     | 無回答 |
|------|------|-------|-------|-------|-----|
| 6    | 10   | 117   | 91    | 189   | 3   |
| 1.5% | 2.4% | 28.3% | 22.0% | 45.8% |     |

(3) ウェブ(オンラインストレージ)による作業について

ファイルの受け渡しを、ウェブサイト(オンラインストレージ)を用いて行いました。その使い勝手はいかがでしたか。

【1:作業しづらかった～5:問題なく作業ができた】

| 1    | 2    | 3     | 4     | 5     | 無回答 |
|------|------|-------|-------|-------|-----|
| 12   | 16   | 120   | 82    | 186   | 0   |
| 2.9% | 3.8% | 28.8% | 19.7% | 44.7% |     |

(4) Excelを用いた作業について

研究業績の判定はマイクロソフト社のExcelのファイルを用いて行いました。その使い勝手はいかがでしたか。

【1:作業しづらかった～5:問題なく作業ができた】

| 1    | 2    | 3     | 4     | 5     | 無回答 |
|------|------|-------|-------|-------|-----|
| 28   | 29   | 102   | 62    | 195   | 0   |
| 6.7% | 7.0% | 24.5% | 14.9% | 46.9% |     |

データ分析集指標一覧

| 区分               | 指標番号 | データ・指標                          | 指標の計算式                                | 対応する「入力データ集」                             |
|------------------|------|---------------------------------|---------------------------------------|--|
| 1. 学生入学・在籍状況データ  | 1    | 女性学生の割合                         | 女性学生数／全学生数                            | 3-1 学生(年次別)                              |
|                  | 2    | 社会人学生の割合                        | 社会人学生数／全学生数                           |  |
|                  | 3    | 留学生の割合                          | 留学生数／全学生数                             |  |
|                  | 4    | 正規課程学生に対する科目等履修生等の比率            | 科目等履修生数／全学生数                          | 3-1 学生(年次別)<br>3-3 科目等履修生等               |
|                  | 5    | 海外派遣率                           | 海外派遣学生数／全学生数                          | 3-1 学生(年次別)<br>7-3 学生海外派遣                |
|                  | 6    | 受験者倍率                           | 受験者数／募集人員                             | 3-4 入試状況(春期・入試区分別)<br>3-5 入試状況(秋期・入試区分別) |
|                  | 7    | 入学定員充足率                         | 入学者数／定員                               |  |
|                  | 8    | 学部生に対する大学院生の比率                  | 大学院生総数／学部学生総数                         | 3-1 学生(年次別)                              |
| 2. 教職員データ        | 9    | 専任教員あたり学生数                      | 学生数／専任教員数                             | 2-1 専任教員<br>3-1 学生(年次別)                  |
|                  | 10   | 専任教員に占める女性教員の割合                 | 女性専任教員数／専任教員数                         | 2-1 専任教員                                 |
|                  | 11   | 本務教員あたり研究員数                     | 研究員総数／本務教員数                           | 2-2 本務教員(基本)<br>2-9 兼務教員<br>2-11 研究員     |
|                  | 12   | 本務教員あたり職員数                      | 職員数／本務教員数                             | 2-2 本務教員(基本)<br>2-10 職員                  |
|                  | 13   | 本務教員あたり職員数(常勤、常勤以外別)            | 職員数(常勤)／本務教員数<br>職員数(常勤以外)／本務教員数      |  |
| 3. 進級・卒業データ      | 14   | 留年率                             | 留年者数／学生数                              | 3-1 学生(年次別)                              |
|                  | 15   | 退学率                             | 退学者・除籍者数／学生数                          | 4-5 学生(休学者・退学者・転部転科者・留年者)                |
|                  | 16   | 休学率                             | 休学者数／学生数                              |  |
|                  | 17   | 卒業・修了者のうち標準修業年限内卒業・修了者数         | 標準修業年限内での卒業・修了者数／卒業・修了者数              | 4-7 卒業・修了者                               |
|                  | 18   | 卒業・修了者のうち標準修業年限×1.5年以内での卒業・修了者数 | 標準修業年限×1.5年以内での卒業・修了者数／卒業・修了者数        |  |
|                  | 19   | 受験者数に対する資格取得率                   | 合格者数／受験者数                             | 4-6 学生(取得資格)                             |
|                  | 20   | 卒業・修了者数に対する資格取得率                | 合格者数／卒業・修了者数                          | 4-6 学生(取得資格)<br>4-7 卒業・修了者               |
|                  | 21   | 進学率                             | 進学者数／卒業・修了者数                          | 4-7 卒業・修了者                               |
|                  | 22   | 卒業者に占める就職者の割合                   | 就職者数／卒業・修了者数                          |  |
| 4. 卒業後の進路データ     | 23   | 職業別就職率                          | 職業区分別就職者数／就職者数合計                      | 4-8 就職者(職業別)                             |
|                  | 24   | 産業別就職率                          | 産業区分別就職者数／就職者数合計                      | 4-9 就職者(産業別)                             |
| 5. 競争的外部資金データ    | 25   | 本務教員あたりの科研費申請件数(新規)             | 申請件数(新規)／全本務教員数                       | 2-2 本務教員(基本)<br>6-2 科学研究費補助金             |
|                  | 26   | 本務教員あたりの科研費採択内定件数               | 内定件数(新規)／全本務教員数<br>内定件数(新規・継続)／全本務教員数 |  |
|                  | 27   | 科研費採択内定率(新規)                    | 内定件数(新規)／申請件数(新規)                     |  |
|                  | 28   | 本務教員あたりの科研費内定金額                 | 内定金額／全本務教員数<br>内定金額(間接経費含む)／全本務教員数    |  |
|                  | 29   | 本務教員あたりの競争的資金採択件数               | 採択件数／全本務教員数                           | 2-2 本務教員(基本)<br>6-3 競争的外部資金              |
|                  | 30   | 本務教員あたりの競争的資金受入金額               | 受入金額／全本務教員数                           |  |
| 6. その他外部資金・特許データ | 31   | 本務教員あたりの共同研究受入件数                | 共同研究受入件数／全本務教員数                       | 2-2 本務教員(基本)<br>6-4 共同研究・受託研究・受託研究員      |
|                  | 32   | 本務教員あたりの共同研究受入件数(国内・外国企業からのみ)   | 共同研究受入件数(国内・外国企業からのみ)／全本務教員数          |  |
|                  | 33   | 本務教員あたりの共同研究受入金額                | 共同研究受入金額／全本務教員数                       |  |
|                  | 34   | 本務教員あたりの共同研究受入金額(国内・外国企業からのみ)   | 共同研究受入金額(国内・外国企業からのみ)／全本務教員数          |  |
|                  | 35   | 本務教員あたりの受託研究受入件数                | 受託研究受入件数／全本務教員数                       |  |
|                  | 36   | 本務教員あたりの受託研究受入件数(国内・外国企業からのみ)   | 受託研究受入件数(国内・外国企業からのみ)／全本務教員数          |  |
|                  | 37   | 本務教員あたりの受託研究受入金額                | 受託研究受入金額／全本務教員数                       |  |
|                  | 38   | 本務教員あたりの受託研究受入金額(国内・外国企業からのみ)   | 受託研究受入金額(国内・外国企業からのみ)／全本務教員数          |  |
|                  | 39   | 本務教員あたりの寄附金受入件数                 | 寄附金受入件数／全本務教員数                        | 2-2 本務教員(基本)<br>6-5 寄附金・寄附講座             |
|                  | 40   | 本務教員あたりの寄附金受入金額                 | 寄附金受入金額／全本務教員数                        |  |
|                  | 41   | 本務教員あたりの特許出願数                   | 特許出願数／全本務教員数                          | 2-2 本務教員(基本)                             |
|                  | 42   | 本務教員あたりの特許取得数                   | 特許取得数／全本務教員数                          | 6-1 産業財産権・特許                             |
|                  | 43   | 本務教員あたりのライセンス契約数                | ライセンス契約数／全本務教員数                       |  |
|                  | 44   | 本務教員あたりのライセンス収入額                | ライセンス収入額／全本務教員数                       |  |

平成 27 年度科学研究費助成事業 系・分野・分科・細目表

| 系           | 分野             | 分科            | 細目名                   | 細目番号             |      |
|-------------|----------------|---------------|-----------------------|------------------|------|
| 総合系         | 情報学            | 情報学基礎         | 情報学基礎理論               | 1001             |      |
|             |                |               | 数理情報学                 | 1002             |      |
|             |                |               | 統計科学                  | 1003             |      |
|             |                | 計算基盤          | 計算機システム               | 1101             |      |
|             |                |               | ソフトウェア                | 1102             |      |
|             |                |               | 情報ネットワーク              | 1103             |      |
|             |                |               | マルチメディア・データベース        | 1104             |      |
|             |                |               | 高性能計算                 | 1105             |      |
|             |                |               | 情報セキュリティ              | 1106             |      |
|             |                | 人間情報学         | 認知科学                  | 1201             |      |
|             |                |               | 知覚情報処理                | 1202             |      |
|             |                |               | ヒューマンインタフェース・インタラクション | 1203             |      |
|             |                |               | 知能情報学                 | 1204             |      |
|             |                |               | ソフトコンピューティング          | 1205             |      |
|             |                |               | 知能ロボティクス              | 1206             |      |
|             |                |               | 感性情報学                 | 1207             |      |
|             |                | 情報学フロンティア     | 生命・健康・医療情報学           | 1301             |      |
|             |                |               | ウェブ情報学・サービス情報学        | 1302             |      |
|             | 図書館情報学・人文社会情報学 |               | 1303                  |                  |      |
|             | 学習支援システム       |               | 1304                  |                  |      |
|             |                |               | エンタテインメント・ゲーム情報学      | 1305             |      |
|             | 環境学            | 環境解析学         | 環境動態解析                | 1401             |      |
|             |                |               | 放射線・化学物質影響科学          | 1402             |      |
|             |                |               | 環境影響評価                | 1403             |      |
|             |                | 環境保全学         | 環境技術・環境負荷低減           | 1501             |      |
|             |                |               | 環境モニタリング・保全修復技術       | 1502             |      |
|             |                |               | 環境材料・リサイクル            | 1503             |      |
|             |                |               | 環境リスク制御・評価            | 1504             |      |
|             |                | 環境創成学         | 自然共生システム              | 1601             |      |
|             |                |               | 持続可能システム              | 1602             |      |
|             |                |               | 環境政策・環境社会システム         | 1603             |      |
|             | 複合領域           | デザイン学         | デザイン学                 | 1651             |      |
|             |                |               | 家政・生活学一般              | 1701             |      |
|             |                |               | 衣・住生活学                | 1702             |      |
|             |                | 生活科学          | 食生活学                  | 1703             |      |
|             |                |               | 科学教育・教育工学             | 1801             |      |
| 教育工学        |                |               | 1802                  |                  |      |
| 科学社会学・科学技術史 |                | 科学社会学・科学技術史   | 1901                  |                  |      |
|             |                | 文化財科学・博物館学    | 2001                  |                  |      |
| 人間医工学       |                | 地理学           | 2101                  |                  |      |
|             |                | 社会・安全システム科学   | 2201                  |                  |      |
|             |                |               | 安全システム                | 2202             |      |
|             |                |               | 自然災害科学・防災学            | 2301             |      |
|             |                | 人間医工学         | 生体医学・生体材料学            | 2301             |      |
|             |                |               | 医用システム                | 2302             |      |
|             |                |               | 医療技術評価学               | 2303             |      |
|             |                |               |                       | リハビリテーション科学・福祉工学 | 2304 |
|             |                | 健康・スポーツ科学     | 身体教育学                 | 2401             |      |
|             |                |               | スポーツ科学                | 2402             |      |
|             | 応用健康科学         |               | 2403                  |                  |      |
|             | 子ども学           | 子ども学(子ども環境学)  | 2451                  |                  |      |
| 生物分子化学      |                | 2501          |                       |                  |      |
| 生体分子科学      |                | ケミカルバイオロジー    | 2502                  |                  |      |
|             |                | 脳科学           | 2601                  |                  |      |
|             |                | 基礎・社会脳科学      | 2601                  |                  |      |
|             |                | 脳計測科学         | 2602                  |                  |      |
| 総合人文社会      | 地域研究           | 地域研究          | 2701                  |                  |      |
|             |                | ジェンダー         | 2801                  |                  |      |
|             |                | 観光学           | 2851                  |                  |      |
|             | 哲学             | 哲学・倫理学        | 2901                  |                  |      |
|             |                | 中国哲学・印度哲学・仏教学 | 2902                  |                  |      |
|             |                | 宗教学           | 2903                  |                  |      |
|             |                | 思想史           | 2904                  |                  |      |
|             |                | 美学・芸術諸学       | 3001                  |                  |      |
|             | 芸術学            | 美術史           | 3002                  |                  |      |
|             |                | 芸術一般          | 3003                  |                  |      |
|             |                | 日本文学          | 3101                  |                  |      |
|             | 文学             | 英米・英語圏文学      | 3102                  |                  |      |
|             |                | ヨーロッパ文学       | 3103                  |                  |      |
|             |                | 中国文学          | 3104                  |                  |      |
|             |                | 文学一般          | 3105                  |                  |      |
|             |                | 言語学           | 3201                  |                  |      |
|             | 言語学            | 言語学           | 3201                  |                  |      |
|             |                | 日本語学          | 3202                  |                  |      |
| 英語学         |                | 3203          |                       |                  |      |
| 日本語教育       |                | 3204          |                       |                  |      |
| 外国語教育       |                | 3205          |                       |                  |      |
| 史学          | 史学一般           | 3301          |                       |                  |      |
|             | 日本史            | 3302          |                       |                  |      |
|             | アジア史・アフリカ史     | 3303          |                       |                  |      |
|             | ヨーロッパ史・アメリカ史   | 3304          |                       |                  |      |
|             | 考古学            | 3305          |                       |                  |      |

| 系                   | 分野          | 分科               | 細目名       | 細目番号 |
|---------------------|-------------|------------------|-----------|------|
| 人文社会系               | 人文学         | 人文地理学            | 人文地理学     | 3401 |
|                     |             | 文化人類学            | 文化人類学・民俗学 | 3501 |
|                     | 社会科学        | 法学               | 基礎法学      | 3601 |
|                     |             |                  | 公法学       | 3602 |
|                     |             |                  | 国際法学      | 3603 |
|                     |             |                  | 社会法学      | 3604 |
|                     |             |                  | 刑事法学      | 3605 |
|                     |             |                  | 民事法学      | 3606 |
|                     |             |                  | 新領域法学     | 3607 |
|                     |             |                  | 政治学       | 政治学  |
|                     |             |                  | 国際関係論     | 3702 |
|                     |             | 経済学              | 理論経済学     | 3801 |
|                     | 経済学説・経済思想   |                  | 3802      |      |
|                     | 経済統計        |                  | 3803      |      |
|                     | 経済政策        |                  | 3804      |      |
|                     | 財政・公共経済     |                  | 3805      |      |
|                     | 金融・ファイナンス   |                  | 3806      |      |
|                     | 経済史         |                  | 3807      |      |
|                     | 経営学         | 経営学              | 3901      |      |
|                     |             | 商学               | 3902      |      |
|                     |             | 会計学              | 3903      |      |
|                     | 社会学         | 社会学              | 4001      |      |
|                     |             | 社会福祉学            | 4002      |      |
|                     | 心理学         | 社会心理学            | 4101      |      |
|                     |             | 教育心理学            | 4102      |      |
|                     |             | 臨床心理学            | 4103      |      |
|                     |             | 実験心理学            | 4104      |      |
|                     | 教育学         | 教育学              | 4201      |      |
|                     |             | 教育社会学            | 4202      |      |
|                     |             | 教科教育学            | 4203      |      |
|                     |             | 特別支援教育           | 4204      |      |
|                     |             | ナノ構造化学           | 4301      |      |
|                     | ナノ・マイクロ科学   | ナノ構造物理           | 4302      |      |
|                     |             | ナノ材料化学           | 4303      |      |
|                     |             | ナノ材料工学           | 4304      |      |
|                     |             | ナノバイオサイエンス       | 4305      |      |
|                     |             | ナノマイクロシステム       | 4306      |      |
|                     |             | ナノ材料工学           | 4306      |      |
|                     | 総合理工        | 応用物理学            | 応用物性      | 4401 |
|                     |             |                  | 結晶工学      | 4402 |
|                     |             |                  | 薄膜・表面界面物性 | 4403 |
|                     |             |                  | 光工学・光子科学  | 4404 |
| プラズマエレクトロニクス        |             |                  | 4405      |      |
| 応用物理学一般             |             | 4406             |           |      |
| 量子ビーム科学             |             | 量子ビーム科学          | 4501      |      |
| 計算科学                |             | 計算科学             | 4601      |      |
| 数物系科学               |             | 数学               | 代数学       | 4701 |
|                     |             |                  | 幾何学       | 4702 |
|                     | 解析学基礎       |                  | 4703      |      |
|                     | 数学解析        |                  | 4704      |      |
|                     | 数学基礎・応用数学   |                  | 4705      |      |
|                     | 天文学         | 天文学              | 4801      |      |
|                     | 物理学         | 素粒子・原子核・宇宙線・宇宙物理 | 4901      |      |
|                     |             | 物性 I             | 4902      |      |
|                     |             | 物性 II            | 4903      |      |
|                     |             | 数理物理・物性基礎        | 4904      |      |
| 原子・分子・量子エレクトロニクス    |             | 4905             |           |      |
| 生物物理・化学物理・ソフトマターの物理 |             | 4906             |           |      |
| 地球惑星科学              |             | 固体地球惑星物理学        | 5001      |      |
|                     | 気象・海洋物理・陸水学 | 5002             |           |      |
|                     | 超高層物理学      | 5003             |           |      |
| 地球惑星科学              | 地質学         | 5004             |           |      |
|                     | 層位・古生物学     | 5005             |           |      |
|                     | 岩石・鉱物・鉱床学   | 5006             |           |      |
|                     | 地球宇宙化学      | 5007             |           |      |
|                     | プラズマ科学      | プラズマ科学           | 5101      |      |
|                     | 化学          | 基礎化学             | 物理化学      | 5201 |
|                     |             |                  | 有機化学      | 5202 |
| 無機化学                |             |                  | 5203      |      |
| 複合化学                |             | 機能物性化学           | 5301      |      |
|                     |             | 合成化学             | 5302      |      |
|                     |             | 高分子化学            | 5303      |      |
|                     |             | 分析化学             | 5304      |      |
|                     |             | 生体関連化学           | 5305      |      |
|                     |             | グリーン・環境化学        | 5306      |      |
|                     |             | エネルギー関連化学        | 5307      |      |
| 材料化学                | 有機・ハイブリッド材料 | 5401             |           |      |
|                     | 高分子・繊維材料    | 5402             |           |      |
|                     | 無機工業材料      | 5403             |           |      |
|                     | デバイス関連化学    | 5404             |           |      |

| 系      | 分野        | 分科        | 細目名                 | 細目番号   |              |      |
|--------|-----------|-----------|---------------------|--------|--------------|------|
| 理工系    | 工学        | 機械工学      | 機械材料・材料力学           | 5501   |              |      |
|        |           |           | 生産工学・加工学            | 5502   |              |      |
|        |           |           | 設計工学・機械機能要素・トライボロジー | 5503   |              |      |
|        |           |           | 流体工学                | 5504   |              |      |
|        |           |           | 熱工学                 | 5505   |              |      |
|        |           |           | 機械力学・制御             | 5506   |              |      |
|        |           |           | 知能機械学・機械システム        | 5507   |              |      |
|        |           | 電気電子工学    | 電力工学・電力変換・電気機器      | 5601   |              |      |
|        |           |           | 電子・電気材料工学           | 5602   |              |      |
|        |           |           | 電子デバイス・電子機器         | 5603   |              |      |
|        |           |           | 通信・ネットワーク工学         | 5604   |              |      |
|        |           |           | 計測工学                | 5605   |              |      |
|        |           |           | 制御・システム工学           | 5606   |              |      |
|        |           | 土木工学      | 土木材料・施工・建設マネジメント    | 5701   |              |      |
|        |           |           | 構造工学・地震工学・維持管理工学    | 5702   |              |      |
|        |           |           | 地盤工学                | 5703   |              |      |
|        |           |           | 水工学                 | 5704   |              |      |
|        |           |           | 土木計画学・交通工学          | 5705   |              |      |
|        |           | 建築学       | 土木環境システム            | 5706   |              |      |
|        |           |           | 建築構造・材料             | 5801   |              |      |
|        |           |           | 建築環境・設備             | 5802   |              |      |
|        |           |           | 都市計画・建築計画           | 5803   |              |      |
|        |           | 材料工学      | 建築史・意匠              | 5804   |              |      |
|        |           |           | 金属材料・材料             | 5901   |              |      |
|        |           |           | 無機材料・物性             | 5902   |              |      |
|        |           |           | 複合材料・表界面工学          | 5903   |              |      |
|        |           |           | 構造・機能材料             | 5904   |              |      |
|        |           |           | 材料加工・組織制御工学         | 5905   |              |      |
|        |           | プロセス・化学工学 | 金属・資源生産工学           | 5906   |              |      |
|        |           |           | 化工物性・移動操作・単位操作      | 6001   |              |      |
|        |           |           | 反応工学・プロセスシステム       | 6002   |              |      |
|        |           |           | 触媒・資源化学プロセス         | 6003   |              |      |
|        |           | 総合工学      | 生物機能・バイオプロセス        | 6004   |              |      |
|        |           |           | 航空宇宙工学              | 6101   |              |      |
|        |           |           | 船舶海洋工学              | 6102   |              |      |
|        |           |           | 地球・資源システム工学         | 6103   |              |      |
|        |           |           | 核融合学                | 6104   |              |      |
|        |           | 生物系       | 総合生物                | 神経科学   | 原子力学         | 6105 |
|        |           |           |                     |        | エネルギー学       | 6106 |
|        |           |           |                     |        | 神経生理学・神経科学一般 | 6201 |
|        |           |           |                     | 実験動物学  | 神経解剖学・神経病理学  | 6202 |
|        |           |           |                     |        | 腫瘍生物学        | 6301 |
|        |           |           |                     |        | 腫瘍診断学        | 6401 |
|        |           |           |                     | 腫瘍学    | 神経化学・神経薬理学   | 6203 |
|        |           |           |                     |        | 腫瘍治療学        | 6403 |
| ゲノム生物学 | 6501      |           |                     |        |              |      |
| ゲノム科学  | ゲノム医学     |           |                     | 6502   |              |      |
|        | システムゲノム科学 |           |                     | 6503   |              |      |
|        | 生物資源保全学   |           |                     | 6601   |              |      |
| 生物学    | 生物科学      |           |                     | 分子生物学  | 6701         |      |
|        |           |           |                     | 構造生物化学 | 6702         |      |
|        |           |           |                     | 機能生物化学 | 6703         |      |
|        |           |           | 生物物理学               | 6704   |              |      |
|        |           |           | 細胞生物学               | 6705   |              |      |
|        | 基礎生物学     |           | 発生生物学               | 6706   |              |      |
|        |           |           | 植物分子・生理科学           | 6801   |              |      |
|        |           |           | 形態・構造               | 6802   |              |      |
|        |           |           | 動物生理・行動             | 6803   |              |      |
|        |           |           | 遺伝・染色体動態            | 6804   |              |      |
| 人類学    | 進化生物学     |           | 6805                |        |              |      |
|        | 生物多様性・分類  |           | 6806                |        |              |      |
|        | 生態・環境     |           | 6807                |        |              |      |
|        | 自然人類学     |           | 6901                |        |              |      |
|        | 応用人類学     |           | 6902                |        |              |      |
| 農学     | 生産環境農学    |           | 遺伝育種科学              | 7001   |              |      |
|        |           |           | 作物生産科学              | 7002   |              |      |
|        |           |           | 園芸科学                | 7003   |              |      |
|        |           |           | 植物保護科学              | 7004   |              |      |
|        | 農芸化学      |           | 植物栄養学・土壌学           | 7101   |              |      |
|        |           |           | 応用微生物学              | 7102   |              |      |
|        |           |           | 応用生物化学              | 7103   |              |      |
|        |           |           | 生物有機化学              | 7104   |              |      |
|        |           |           | 食品科学                | 7105   |              |      |
|        | 森林園科学     |           | 森林科学                | 7201   |              |      |
| 木質科学   |           |           | 7202                |        |              |      |
| 水圏応用科学 | 水圏生産科学    |           | 7301                |        |              |      |
|        | 水圏生命科学    |           | 7302                |        |              |      |
| 社会経済農学 | 経営・経済農学   |           | 7401                |        |              |      |
|        | 社会・開発農学   |           | 7402                |        |              |      |

| 系       | 分野              | 分科                 | 細目名              | 細目番号 |
|---------|-----------------|--------------------|------------------|------|
| 生物系     | 農学              | 農業工学               | 地域環境工学・計画学       | 7501 |
|         |                 |                    | 農業環境・情報工学        | 7502 |
|         |                 |                    | 動物生産科学           | 7601 |
|         |                 | 動物生命科学             | 獣医学              | 7602 |
|         |                 |                    | 統合動物科学           | 7603 |
|         |                 |                    | 昆虫科学             | 7701 |
|         |                 | 境界農学               | 環境農学(含フーズスケープ科学) | 7702 |
|         |                 |                    | 応用分子細胞生物学        | 7703 |
|         |                 | 薬学                 | 化学系薬学            | 7801 |
|         |                 |                    | 物理系薬学            | 7802 |
|         |                 |                    | 生物系薬学            | 7803 |
|         |                 |                    | 薬理系薬学            | 7804 |
|         |                 |                    | 天然資源系薬学          | 7805 |
|         |                 |                    | 創薬化学             | 7806 |
|         |                 |                    | 環境・衛生系薬学         | 7807 |
|         | 医療系薬学           |                    | 7808             |      |
|         | 基礎医学            |                    | 解剖学一般(含組織学・発生学)  | 7901 |
|         |                 |                    | 生理学一般            | 7902 |
|         |                 | 環境生理学(含体力医学・栄養生理学) | 7903             |      |
|         |                 | 薬理学一般              | 7904             |      |
|         |                 | 医化学一般              | 7905             |      |
|         |                 | 病態化学               | 7906             |      |
|         |                 | 人類遺伝学              | 7907             |      |
|         |                 | 人体病理学              | 7908             |      |
|         |                 | 実験病理学              | 7909             |      |
|         |                 | 寄生虫学(含衛生動物学)       | 7910             |      |
|         | 境界医学            | 細菌学(含真菌学)          | 7911             |      |
|         |                 | ウイルス学              | 7912             |      |
|         |                 | 免疫学                | 7913             |      |
|         |                 | 医療社会学              | 8001             |      |
|         |                 | 応用薬理学              | 8002             |      |
|         | 社会医学            | 病態検査学              | 8003             |      |
|         |                 | 疼痛学                | 8004             |      |
|         |                 | 医学物理学・放射線技術学       | 8005             |      |
|         |                 | 疫学・予防医学            | 8101             |      |
|         |                 | 衛生学・公衆衛生学          | 8102             |      |
|         | 医歯薬学            | 内科系臨床医学            | 病院・医療管理学         | 8103 |
|         |                 |                    | 法医学              | 8104 |
|         |                 |                    | 内科学一般(含心身医学)     | 8201 |
|         |                 |                    | 消化器内科学           | 8202 |
|         |                 |                    | 循環器内科学           | 8203 |
|         |                 |                    | 呼吸器内科学           | 8204 |
|         |                 |                    | 腎臓内科学            | 8205 |
|         |                 |                    | 神経内科学            | 8206 |
|         |                 |                    | 代謝学              | 8207 |
|         |                 |                    | 内分泌学             | 8208 |
|         |                 |                    | 血液内科学            | 8209 |
|         |                 |                    | 膠原病・アレルギー内科学     | 8210 |
|         |                 |                    | 感染症内科学           | 8211 |
|         |                 |                    | 小児科学             | 8212 |
|         |                 |                    | 胎児・新生児医学         | 8213 |
|         | 皮膚科学            | 8214               |                  |      |
|         | 精神神経科学          | 8215               |                  |      |
|         | 放射線科学           | 8216               |                  |      |
|         | 外科系臨床医学         | 外科学一般              | 8301             |      |
| 消化器外科学  |                 | 8302               |                  |      |
| 心臓血管外科学 |                 | 8303               |                  |      |
| 呼吸器外科学  |                 | 8304               |                  |      |
| 脳神経外科学  |                 | 8305               |                  |      |
| 整形外科    |                 | 8306               |                  |      |
| 麻酔科学    |                 | 8307               |                  |      |
| 泌尿器科学   |                 | 8308               |                  |      |
| 産婦人科学   |                 | 8309               |                  |      |
| 耳鼻咽喉科学  |                 | 8310               |                  |      |
| 眼科学     |                 | 8311               |                  |      |
| 小児外科学   |                 | 8312               |                  |      |
| 形成外科学   |                 | 8313               |                  |      |
| 救急医学    |                 | 8314               |                  |      |
| 歯学      |                 | 形態系基礎歯科学           | 8401             |      |
|         | 機能系基礎歯科学        | 8402               |                  |      |
|         | 病態科学系歯科学・歯科放射線学 | 8403               |                  |      |
|         | 保存治療系歯科学        | 8404               |                  |      |
|         | 補綴・理工系歯科学       | 8405               |                  |      |
|         | 歯科医用工学・再生歯科学    | 8406               |                  |      |
|         | 外科系歯科学          | 8407               |                  |      |
|         | 矯正・小児系歯科学       | 8408               |                  |      |
|         | 歯周治療系歯科学        | 8409               |                  |      |
|         | 社会系歯科学          | 8410               |                  |      |
| 看護学     | 基礎看護学           | 8501               |                  |      |
|         | 臨床看護学           | 8502               |                  |      |
|         | 生涯発達看護学         | 8503               |                  |      |
|         | 高齢看護学           | 8504               |                  |      |
| 地域看護学   | 8505            |                    |                  |      |